

北海道立埋蔵文化財センター

# 年報13

平成23(2011)年度

北海道立埋蔵文化財センター

# 年報13

平成23(2011)年度



▲重要遺跡確認調査 斜里朱円周堤墓群A号周堤墓 北西→



▲重要遺跡確認調査 斜里朱円周堤墓群B号周堤墓 西→

# 目 次

|   |   |    |
|---|---|----|
| 1 | 設置の目的                                   | 1  |
| 2 | 沿 革                                     | 1  |
| 3 | 施設の概要                                   | 1  |
|   | (1) 工 期                                 | 1  |
|   | (2) 面 積                                 | 1  |
|   | (3) 組 織 図                               | 2  |
|   | (4) 職員名簿                                | 2  |
| 4 | 調査研究事業の概要                               | 2  |
|   | (1) 重要遺跡確認調査                            | 2  |
|   | (2) 研修・情報収集                             | 7  |
|   | a 平成23年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会            |    |
|   | b 文化財保存修復学会第33回大会                       |    |
|   | c 第2回文化財写真技術研究会                         |    |
|   | d 平成23年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会           |    |
|   | e 平成23年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 北海道・東北ブロック会議 |    |
|   | f 平成23年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第2回役員会        |    |
|   | (3) 埋蔵文化財に関する調査研究                       |    |
|   | a 保管出土品を活用した研究「保管遺物の材質、原産地等についての整理 2」   | 12 |
|   | (4) 分析・鑑定・保存処理等                         | 14 |
|   | a 分析・鑑定                                 |    |
|   | (5) 市町村教育委員会支援                          | 14 |
|   | a 指導・協力等                                |    |
|   | b 委員会等出席依頼                              |    |
|   | c 埋蔵文化財担当職員現地研修会                        |    |
|   | d 埋蔵文化財担当職員研修会                          |    |
| 5 | 収蔵保管事業の概要                               | 18 |
|   | (1) 収蔵資料目録                              | 18 |
| 6 | 普及・啓発事業の概要                              | 20 |
|   | (1) 展示活動                                | 20 |
|   | a 常設展示「掘り出された北の歴史」                      |    |
|   | b 企画展示                                  |    |
|   | ①「わかる考古学 6 ―縄文生活体験ひろば―」展                |    |
|   | ②「北海道遺跡百選 4                             |    |
|   | 発掘された縄文の円―北の大地に描かれたサークル―」展              |    |
|   | ③財団法人北海道埋蔵文化財センター平成22年度発掘調査成果展          |    |
|   | ④世界遺産をめざす北の縄文展                          |    |
|   | (2) 資料の特別利用等                            | 25 |
|   | a 特別利用一覧                                |    |
|   | b 模写品等使用承認一覧                            |    |

|     |                                     |    |
|-----|-------------------------------------|----|
| c   | 資料貸出承認一覧                            |    |
| (3) | 考古学教室                               | 27 |
| a   | 考古学入門講座—遺跡へ行ってみよう—                  |    |
| b   | ガラス玉づくり                             |    |
| c   | 模型で学ぶ縄文の家づくり                        |    |
| d   | 石器づくり                               |    |
| e   | 拓本講座                                |    |
| (4) | こども考古学教室                            | 28 |
| a   | 親子ガラス玉づくり                           |    |
| b   | 夏休み親子考古学教室 第1回・第2回                  |    |
| c   | 写生会「ビビちゃんと描く縄文の世界」                  |    |
| d   | 冬休み縄文生活体験ひろば                        |    |
| e   | 冬休み親子写真撮影会                          |    |
| f   | 冬休み親子考古学教室 第1回・第2回                  |    |
| (5) | 市町村出前講座                             | 29 |
| a   | 事業目的                                |    |
| b   | 事業内容                                |    |
| c   | 実施市町村一覧                             |    |
| (6) | 講演会・報告会                             | 31 |
| a   | 財団法人北海道埋蔵文化財センター平成22年度発掘調査報告会       |    |
| b   | 秋季講演会 「文化財を守り、伝える喜びとむずかしさ」          |    |
| c   | 冬季講演会 「北海道埋蔵文化財行政の黎明期 旭川市」          |    |
| (7) | 教育連携講座                              | 32 |
| (8) | 共催・協力など                             | 32 |
| a   | 財団法人北海道生涯学習協会 「ほっかいどう学」かでの移動講座      |    |
| b   | 北海道文化財保護協会 「子どもの文化財愛護推進事業」          |    |
| c   | 講師派遣                                |    |
| (9) | 周辺施設との連携                            | 34 |
| a   | 文京台地区道立教育3施設連携                      |    |
| b   | あつまれ！森林公園スタンプラリー2011                |    |
| c   | 野幌総合運動公園運営連絡協議会                     |    |
| d   | かるちやるnet（文化施設連絡協議会）                 |    |
| 7   | 利用状況など                              | 36 |
| (1) | 入館者数一覧                              | 36 |
| (2) | 団体利用者対応                             | 37 |
| (3) | 実習等                                 | 38 |
| 8   | 図書資料                                | 39 |
| (1) | 購入図書一覧                              | 39 |
| (2) | 受領刊行物一覧                             | 39 |
| 9   | 講演会要旨                               | 45 |
| (1) | 秋季講演会 「文化財を守り、伝える喜びとむずかしさ」（田辺征夫 氏）  | 45 |
| (2) | 冬季講演会 「北海道埋蔵文化財行政の黎明期—旭川市—」（齊藤 傑 氏） | 53 |

# 1 設置の目的

北海道には貴重な埋蔵文化財が数多く発見されており、これらの埋蔵文化財の保護、保存・活用を図るため、調査研究を行なうとともに、出土文化財等の収蔵保管、展示公開並びに文化財保護思想の普及啓発を図る総合的な機能を有する道立の埋蔵文化財センターを設置する。

# 2 沿革

平成7年

3月 北海道立埋蔵文化財センター（仮称）基本構想策定

平成8年

9月 本館基本設計完了

平成9年

3月 本館実施設計完了

10月 本館建設工事着手

12月 別館（整理作業所）基本設計完了

平成10年

3月 別館（整理作業所）実施設計完了

9月 別館（整理作業所）建設工事着工

平成11年

3月 本館建設工事竣工

4月 北海道立埋蔵文化財センター開設

8月 別館（整理作業所）建設工事竣工

11月 一般公開

# 3 施設の概要

## (1) 工期

[本館工事] 平成9年10月31日着工

平成11年3月18日竣工

[別館工事] 平成10年9月10日着工

平成11年8月18日竣工

[外構工事] 平成11年7月28日着工

平成11年12月10日竣工

## (2) 面積

[敷地面積] 18,599.50㎡

[延床面積]

本館：5,063.02㎡（鉄筋コンクリート造・2階建）

別館：2,081.80㎡（鉄筋造・3階建；整理作業所）（渡り廊下含む）

## [部屋別面積]

### 本館1階

調査研究室（253㎡）

保存科学室（167㎡）

観測・計測室・修復室（47㎡）

金属製品処理室（31㎡）

分析室（48㎡）

実験室（53㎡）

撮影室・暗室（105㎡）

図書室（177㎡）

一般収蔵庫（399㎡）

展示収蔵庫（321㎡）

展示室（310㎡）

### 本館2階

所長室（47㎡）

事務室（241㎡）

特別収蔵庫（227㎡）

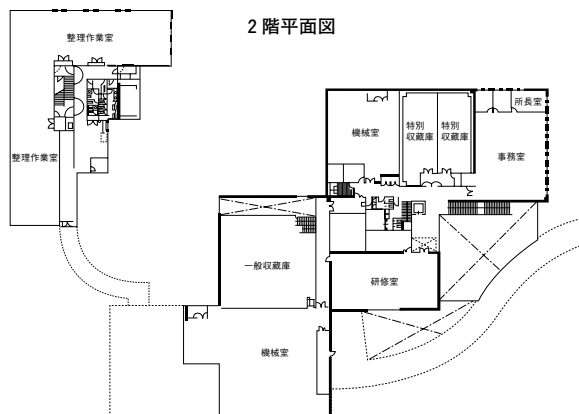
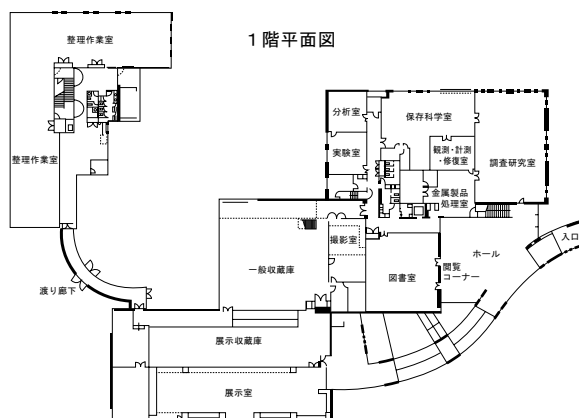
研修室（196㎡）

一般収蔵庫（319㎡）

別館1階：整理作業室（520㎡）

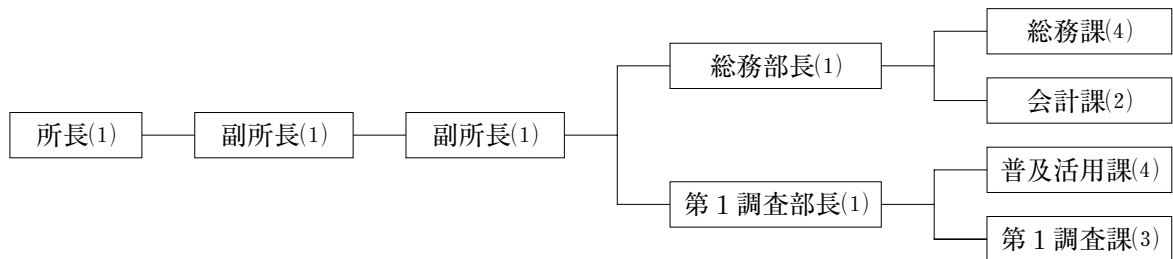
別館2階：整理作業室（540㎡）

別館3階：整理作業室（220㎡）





### (3) 組織図



### (4) 職員名簿

| 職名  | 氏名    | 職名    | 氏名    | 職名      | 氏名    |
|-----|-------|-------|-------|---------|-------|
| 所長  | 坂本 均  | 総務部長  | 中田 仁  | 第1調査部長  | 千葉 英一 |
| 副所長 | 松本 昭一 | 総務課長  | 葛西 宏昭 | 普及活用課長  | 鎌田 望  |
| 副所長 | 畑 宏明  | 総務課主査 | 小杉 充  | 普及活用課主査 | 藤本 昌子 |
|     |       | 総務課参与 | 北浦 満  | 普及活用課主査 | 倉橋 直孝 |
|     |       | 総務課参与 | 前田 克己 | 普及活用課主査 | 藤井 浩  |
|     |       | 会計課長  | 礪田 千秋 | 第1調査課長  | 田口 尚  |
|     |       | 会計課主任 | 中村 貴志 | 第1調査課主査 | 花岡 正光 |
|     |       |       |       | 第1調査課主任 | 吉田裕吏洋 |

## 4 調査研究事業の概要

### (1) 重要遺跡確認調査

#### 1 重要遺跡確認調査

北海道立埋蔵文化財センターでは、北海道教育委員会において、北海道史をたどる上で重要と考えられる遺跡について重要遺跡確認調査を実施してきた。

これまでに平成12年度に小樽市・余市町所在の西崎山ストーンサークル、平成13・14年度に奥尻町青苗砂丘遺跡、平成15・16年度に恵山町（現函館市）恵山貝塚、平成17～21年度には幌延町・豊富町に所在する音類壑穴群で実施した。

平成22年度、北海道立埋蔵文化財センター指定管理業務2期目にあたり、「重要遺跡確認調査について」（平成22年8月9日付教文ス第1362号）

が北海道教育委員会から通知された。その「平成22～25年度重要遺跡確認調査実施要領」により、平成22・23年度は斜里町朱円周堤墓（道指定史跡：指定名称「斜里朱円周堤墓及び出土遺物」）、平成24・25年度は芦別市野花南周堤墓群（道指定史跡：指定名称「野花南周堤墓群」）が重要遺跡確認調査対象遺跡として示された。

#### 2 斜里朱円周堤墓の調査

本年度は昨年度に続いて斜里町斜里朱円周堤墓の調査を行った。

昨年度は史跡指定範囲内の測量調査、斜里町立知床博物館、旭川市博物館での資料調査を行った。特に知床博物館の資料については当センターにおいて写真撮影や分析・鑑定などの資料化を行った。

今年度は主に測量調査、資料調査の継続と写真

# 位置図

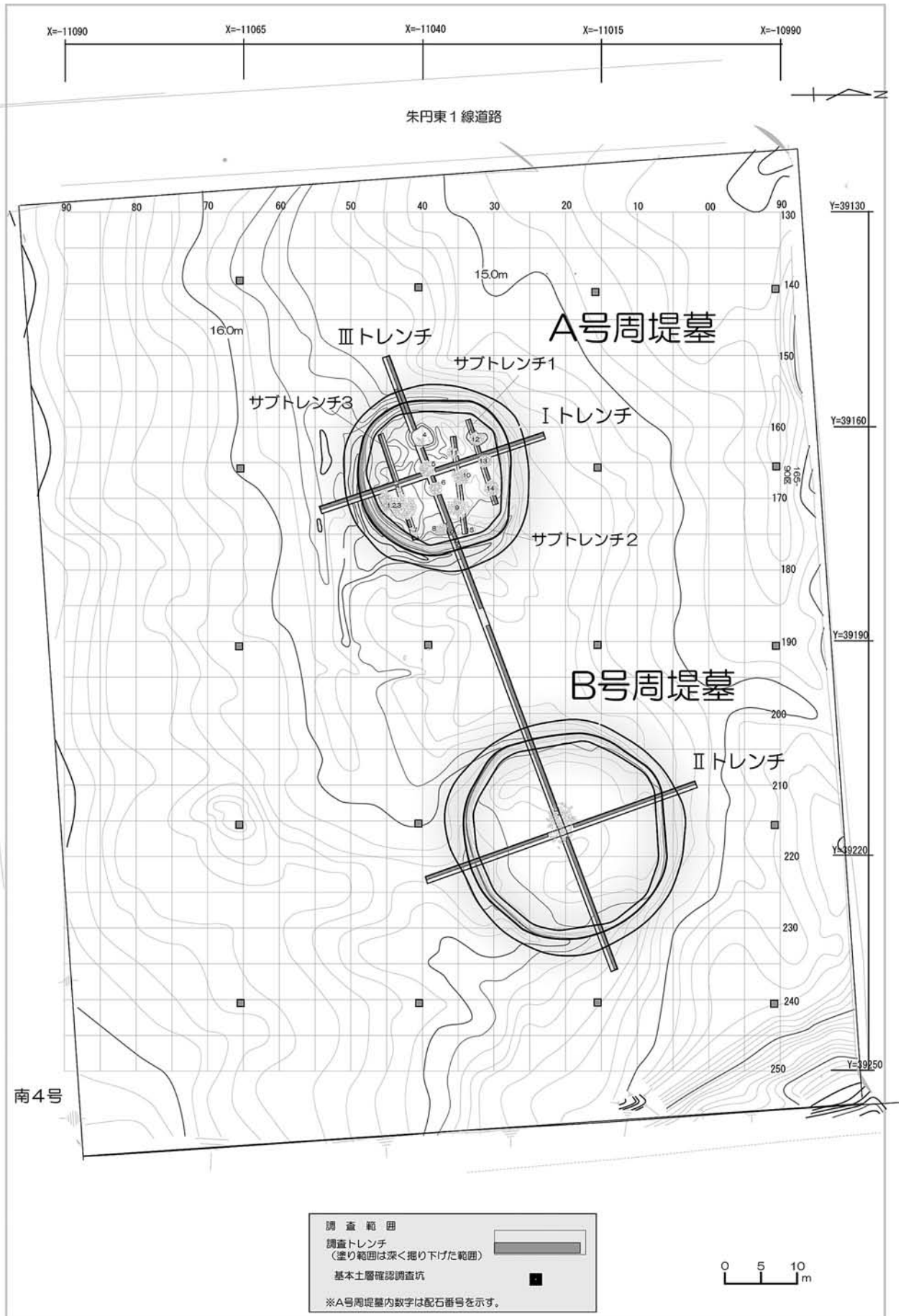


平成23年度調査箇所



斜里朱円周堤墓の位置

※この図は国土地理院五万分の一地形図「斜里」から作成した。



斜里朱円周堤墓トレンチ設定図

※平成22年度地形測量により作成した。

撮影、発掘調査を行った。なお、詳細な成果については本年度末刊行の報告書に掲載する。ここでは概要のみをまとめた。

### 3 調査要項

対象遺跡：斜里町 斜里朱円周堤墓

(道教委登録番号 I-08-38)

所在地：斜里郡斜里町朱円西76番地 1

面積：14581㎡ (指定範囲面積)

192㎡ (発掘調査面積)

期間 平成23年 5月30日～6月17日 (発掘期間)

### 4 写真撮影等 (現状の記録)

遺跡及び遺構の現状を記録するために、写真撮影などを行った。

#### 【空中写真】

ラジコンヘリによる空中写真の撮影を行った (株シン技術コンサル委託)。斜里岳や海別岳などをふくめた遺跡周辺の俯瞰写真、A号、B号周堤墓及び各配石遺構の俯瞰、垂直写真を撮影した。

#### 【高所作業車による撮影】

周堤墓及び各配石遺構の発掘調査前の現状と発掘調査時の状況について、高所作業車を用いての俯瞰撮影を行った (口絵)。

#### 【境界の明確化】

史跡指定範囲境界杭の打設 (網走市(有)藤原工産委託) を行った。既設杭 3か所を再測量し、2か所を新設した。

### 5 資料調査

昨年度に引き続き、知床博物館資料についての資料化作業と現地において昭和23・24年の調査時についての聞き取り調査を行った。

#### 【知床博物館資料】

遺物の写真撮影や図化などを継続して行った。また、繊維製品、漆製品及び赤色顔料の鑑定、人骨、歯の含有コラーゲンによる放射性炭素年代測定を行った。

#### 【聞き取り調査】

斜里町在住で、昭和23・24年に河野広道氏の発掘調査に参加された河村淳史氏から聞き取りを行うことができた。当時の遺構の保存状況、発掘調査の様子、その後の周堤復元について聞くことができた。

### 6 発掘調査

発掘調査は基本土層の調査とトレンチ調査により行った。基本土層の調査により史跡指定範囲内

の土層堆積状況を把握し、トレンチ調査により、A号、B号周堤墓、及びこれに伴う各配石の保存状況を確認した。

#### 【基本土層の確認】

X = 140・165・190・215・240と Y = 90・15・40・65ラインの交点18か所、1m角を掘り下げて確認した (基本土層坑)。

基本層序として、上から表土層 (耕作土)、黄褐色軽石層 (摩周岳 b 5 軽石層、約1000年前降下とされる)、黒褐色土層、暗褐色土層 (遺物包含層)、黄褐色ローム質土層、黄橙色軽石層 (基底層) を確認した。

調査範囲の大半に黄褐色軽石層 (摩周岳 b 5) が分布することが明らかになったため、縄文遺構の保存状態を判断する基準とした。

また、土層坑のうち3か所で遺構と思われる部分を確認した。(140-40区・139-65区・215-40区)

なお、土層坑において年代の鍵となる摩周岳 b 5 パミスなどのサンプルを採取した。

#### 【トレンチ調査】

A号、B号周堤墓を対象に、I、II、IIIトレンチとサブトレンチ 1, 2, 3 を設定した。

(Iトレンチ) : A号周堤墓を南北方向に切る。全長32m、幅1m内を表面精査、内50cm幅を黄褐色ローム質土層まで確認した。

(IIトレンチ) : B号周堤墓を南北方向に切る。全長40m、幅1m内を表面精査、内50cm幅を黄褐色ローム質土層まで確認した。

(IIIトレンチ) : A号周堤墓、B号周堤墓の中心を結び、両周堤墓を東西方向に切る。全長90m、幅1m内を表面精査、内50cm幅を黄褐色ローム質土層、黄橙色軽石層まで確認した。

(サブトレンチ) : A号周堤内の配石にかかる。1, 2, 3 の3箇所を設定。全長計40m、幅75cmを表面精査し、内、幅25cmを黄褐色軽石層 (摩周 b 5) まで確認した。

#### 【トレンチ調査の結果】

A号B号両周堤墓において、現周堤が1949年調査後の復元であることを確認した。また、周堤墓の構築面 (竪穴底面) 及び縄文時代の周堤と思われる盛土、掘りあげ土の堆積を確認した。

#### (Iトレンチ)

A号周堤墓の竪穴底面 (黄褐色ローム層を掘り込む) と周堤を確認した。



▲Ⅲ-5区北壁土層断面 西南→



▲A号周堤墓中央サブトレンチ調査 南東→



▲A号周堤墓北側サブトレンチ調査 東北→



▲A号周堤墓埋め戻し完了 南東→

(Ⅱトレンチ)

B号周堤墓の竪穴底面（黄褐色ローム層を掘り込む）と周堤を確認した。

(Ⅲトレンチ)

A号、B号両周堤墓の底面と周堤を確認した。また、両周堤墓間に位置する30-190区付近で何らかの遺構の掘りあげ土と思われる堆積を確認した。さらにB号周堤墓1号配石内にて1949年調査時の痕跡と思われる落ち込みを確認した。

(A号周堤墓サブトレンチA1)

配石12, 13, 14周辺は暗褐色土層が残る。

(A号周堤墓サブトレンチA2)

配石4, 5, 6, 7周辺は暗褐色土層、西側は攪乱層である。

(A号周堤墓サブトレンチA3)

配石1, 2, 3周辺は暗褐色土層、西半部分は摩周b5軽石層が残る。

(出土遺物)

配石に伴うものと思われる礫は実測し、現状保存とした。基本土層坑、トレンチ内より土器片42

点が出土した。いずれも縄文時代後期のものと考えられる。

#### 【原状復帰作業】

基本土層坑については、土嚢袋等を用いて底面を養生したうえで埋め戻しを行った。

トレンチについては、現周堤付近においては土嚢を用いた養生を施したうえで埋め戻しを行った。その他のトレンチ内は底面、壁面を養生したうえで埋め戻しを行った。また、トレンチ内で確認された礫や焼土などは特に土嚢などを用いて養生を行った。

#### 7 関連事業

現地説明会を斜里町立知床博物館と共同で平成23年6月11日（土）に実施した。参加者は50名であった。

また、調査期間中には知床博物館の引率で斜里町内教職員研究会、教職員初任者研修、斜里町立朱田小学校や朝日小学校などの遺跡見学があった。

## (2) 研修・情報収集

### a 平成23年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会

期 日：5月26日（木）～5月27日（金）

会 場：長野県長野市松代町西寺尾1372-1

信州松本ロイヤルホテル

参加者：所長 坂本 均、総務課参与 前田克己

内 容：5月26日（木）は総会、5月27日（金）

は視察見学を行った。

#### 協議事項

##### 議事1 新規会員の加入について

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（平成23年4月1日付入会申請）及び静岡県埋蔵文化財センター（平成23年4月22日付入会申請）より入会申請があり、役員会で了承し、総会で承認された。

##### 議事2 平成22年度事業報告について

平成22年度総会の開催等について事務局から報告があり、承認された。

#### ア 総会の開催

5月27日（木）～28日（金）、山口県山口市

36機関、56名出席

#### イ 研修会の開催

10月7日（木）～8日（金）、宮城県多賀城市

25機関、42名出席

テーマ「発掘調査からみた古代地方都市の諸要素」

#### ウ 役員会の開催

第1回：5月27日（木）、山口県山口市

第2回：11月5日（金）、東京都

#### エ 機関誌の発行

「公立埋文協会報」第45・46号を発行

#### オ 文化庁への要望活動

平成22年9月30日

#### カ その他

「発掘された日本列島2010展」への協力

##### 議事3 平成22年度収支決算について

平成22年度収支決算について、事務局から報告があり、承認された。

##### 議事4 監査報告

平成23年度第1回役員会に先立ち、平成22年度収支決算を監事による監査が行われ、適正に執行していることが報告された。

##### 議事5 新規加盟組織の勧誘について

各ブロック監事に基礎調査を実施するとともに、

未加入機関及び各都道府県教育委員会に対し加盟案内の通知・依頼を行った旨、報告があった。

##### 議事6 発掘された日本列島2011展について

文化庁より展示解説の依頼があり、全埋協と協力し解説員を配置した旨、報告があった。

##### 議事7 役員改選について

平成23・24年度役員について、事務局から提案があり、原案の通り承認された。

会長・奈良県立橿原考古学研究所長 菅谷文則

なお、当センター所長が副会長に選出された。

##### 議事8 平成23年度事業計画（案）について

事務局から提案があり、原案のとおり承認された。

##### 議事9 平成23年度収支予算（案）について

事務局から提案があり、原案の通り承認された。

##### 議事10 平成24年度総会・役員会及び研修会開催地について

「総会及び第1回役員会は、三重県」・「研修会は、北上市」・「第2回役員会は、近畿ブロック会長職機関」が開催機関となることについて、承認された。

##### 議事11 その他

岩手県より東日本大震災の被災地状況について、映像による詳細な報告があった。

#### 講演

文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官 榎宜田佳男氏から、「埋蔵文化財行政の現状と課題」と題しての講演があった。

1点目は、国土交通省の会計検査院の指摘について

「職員費用の負担」・「発掘調査報告書のあり方」・「今後の課題」について、文化庁の考え方を説明している。いずれ、関係機関の担当者会議を開催し、誤解の無いよう指導するとのことであった。

2点目は、東日本大震災に伴う埋蔵文化財の取扱いについて

二つの通知を出している。市町村、地区によって災害復興、復旧の考え方が違っている。発掘調査の時期は読めないが、今後、保護行政について関係機関と協議していくとのことであった。

3点目は、埋蔵文化財保護行政の基本となる発掘調査のあり方について

文化庁文化財部記念物課（監修）「発掘調査の

手引き」の紹介、発掘調査の「管理」と「監理」について、昨年2名の死亡者を出していることを再認識するよう指導があった。

#### 特別講演

演題 「積石塚古墳研究の方法と課題－長野市大室古墳群の所見から－」

大塚初重氏（明治大学名誉教授）から、明治から平成までの大室古墳群に関する研究史・調査歴について、講演があった。

#### 視察見学

総会の翌日、国指定史跡「大室古墳群」、「松代城址」、「旧文武学校」、「新御殿跡（真田邸）」を視察、その後「真田宝物館」の視察を行った。

### b 文化財修復学会第33回大会

日時：6月3日（金）～6月5日（日）

会場：奈良県新公会堂

主催：一般社団法人文化財保存修復学会

後援：奈良県教育委員会／奈良市教育委員会／一般財団法人奈良県ビジターズビューロー

参加者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

内容：

6月3日（金）

第33回大会の関連イベントとして展覧会観覧、文化財関連施設・現場の見学ツアーが企画された。A. 大和文華館、B. 奈良文化財研究所、C. 橿原考古学研究所・橿原考古学研究所附属博物館、D. 元興寺文化財研究所、E. 宮内庁正倉院事務所、F. 法相宗大本山興福寺、G. 奈良国立博物館のご厚意により、6月3日（金）の午後にA～Fの6コース、4日（土）昼休みにGコースの見学ツアーが実施された。

Bコースに参加し、奈良文化財研究所 平城宮跡資料館入口前に集合の後、研究所にある保存科学施設の見学に参加した。施設では各種文化財用に対応したX線CTや蛍光X線分析装置などの文化財専用の非破壊検査装置について説明を受け、保存処理機器として超大型真空凍結乾燥機などを見学した。あわせてリニューアルした平城宮跡資料館、平城京遷都1300年祭に合わせて復元された大極殿を見学した。

6月4日（土）

口頭発表はセッションI～Vに分けられ、17件

の発表があった。ポスターセッション：59件の発表があり、午後に70分間の解説時間が設けられた。

口頭発表では「奈良国立博物館における無線LAN温湿度モニタリングシステム・新展示ケース導入の経緯と成果」谷口耕生（奈良国立博物館）ほかでは、正倉院展等の多数の入館者が展示ケース内の温湿度や館内空調に大きな影響を与えていることや「テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査」高妻洋成（奈良文化財研究所）ほかなどが興味深かった。

ポスター発表では「近赤外線デジタル撮影による顔料の大別」土師広（東京藝術大学大学院）、「モノクローム写真をもとにした絵画の色材推定に関する基礎的検討」吉田直人（東京文化財研究所）ほか、「劣化した漆塗膜の耐熱性と加熱作業が経年変化に与える影響<sup>(2)</sup>」大西智洋（目白漆芸文化研究所九州支部）ほかが将来的な活用や研究の基礎データとして期待できる発表であった。

6月5日（日）

口頭発表はセッションVI～VIIIに分けられ、10件の発表があった。ポスターセッション：61件の発表があり、午後に70分間の解説時間が設けられた。

口頭発表に先だって、文化庁から「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）について」と題して、太平洋沖地震文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）の説明がなされた。

事業目的は、被災した文化財を緊急に保全することと、今後の建造物損壊と撤去に伴う我が国の貴重な文化財等の廃棄・散逸を防止することにある。社寺や博物館・美術館・資料館などの保存・展示施設の倒壊や倒壊の恐れ等により、緊急に保全措置を必要とする文化財等の救出・応急措置を行い、各県内また周辺都府県の博物館等保存機能を有する施設で一時保管を行うものである。

事業は東京文化財研究所に事務局を設置し、国立文化財機構、文化財・美術関係団体等と連携をとりながら実施されている。さらに現状で把握できている被災文化財の一覧、実際のレスキュー事例として宮城県石巻市文化センターが紹介された。

文化財レスキューは水や電気の無い状況で多くのボランティアの協力を得て行われ、まさに人海戦術である。救援にかかわる関係者、関係諸機関・

諸団体にさらなる協力と情報提供をもとめた。

口頭発表では「文化財指定建造物における用材樹種調査(Ⅲ)清水寺・北総門などを事例として」横山操(京都大学生存圏研究所)、「高台寺蒔絵における金粉の分析」下出祐太郎(京都工芸繊維大学)が今後の建造物や遺構調査の参考となった。

ポスター発表では「ニレの樹皮を用いた木屎の利用について」岡田文男(京都工芸造形大学)、「文化財分野におけるデジタルエックス線撮影の現状と課題」荒木臣紀(名古屋工業大学大学院)他などが今後の漆器分析や各方面でX線フィルム撮影からデジタル撮影に移行が進められている状況下で興味深いものであった。道内の発表者では、昨今の博物館IPM活動に関連して「糸状菌の防除・発生抑制効果確認に関するモニタリング技術についての検討」杉山智昭(北海道開拓記念館)ほかの発表があり、当センター収蔵保管の木製品についても、保存処理後のモニタリングや返却時の安全性を検討する上で考慮が必要と思われた。

### c 第2回文化財写真技術研究会

期 日：7月1日(金)～7月2日(土)

会 場：奈良県奈良市登大路町50番地  
奈良国立博物館

参加者：第1調査部第1調査課  
主任 吉田裕吏洋

内 容：奈良国立博物館東新館講堂で、7月1日は総会・研究会Ⅰ、7月2日は研究会Ⅱが行われた。

総 会

議案1号 平成22年度事業報告

編集委員会・普及委員会・白黒部会・デジタル部会の各部会から平成22年度活動報告が行われた。

議案2号 平成22年度会計報告

事務局より平成22年度決算報告と、監事からの会計検査結果報告がなされた。

議案3号 幹事変更・部会活動の整理統合・今後の部会活動について

幹事変更について提案があり承認された。デジタル化が進む中、白黒部会・デジタル部会の活動内容について統合を前提とした整理を行いたいとの提案がなされた。活動内容に関しては今後検討するとの説明がなされ了承された。

議案4号 平成23年度事業説明について

色評価用フィルター配布案と文化財写真レスキュー活動案についての説明がなされ了承された。

議案5号 平成23年度予算案

事務局より平成23年度予算案についての提案があり承認された。

議案6号 平成23年度新入会員紹介

個人会員3名の紹介があった。

研究会Ⅰ 写真の本質を改めて考える

「写真回帰」 宮田 公佳(国立歴史民俗博物館)

画像工学の専門家の視点からの“写真とデジタル写真”についての講演がおこなわれた。

写真とは空間の射影を行うツールであり、空間情報や色彩情報、撮影環境や撮影意図も一緒に記録することができる。情報を記録するツールであるが、情報量(画素数など)を増やしても画質が向上するとは限らず、デジタル化されたからといって、基本的な写真の知識や撮影技術が必要であることには変わらない。

文化財において重要な概念はオリジナルであることであり、コピーなしでは成立しないデジタル社会ではオリジナリティが希薄化している。デジタル化の課題として、画像データのオリジナル性を証明できる方法の確立が必要である。

上記のような講演のまとめとして、銀塩からデジタルへとハードの移行はあるものの“写真”であることには変わりないと述べられた。

研究会Ⅱ デジタル文化写真の本格運用  
文化財写真を取り巻く環境①～③

地方公共団体の事例として富樫孝志(静岡県埋蔵文化財センター)・景山和也(金沢市埋蔵文化財センター)・楯木啓太(財団法人広島市未来都市創造財団)の3氏により各機関の撮影業務事例の発表が行われた。

実情は3組織とも似ており、銀塩カメラ機材については、大判カメラから35mmまで整備されており、撮影も銀塩が中心となっている。

デジタル化については移行の必要性についての認識はあり、銀塩の衰退が進む現状への焦燥感もあるが予算の壁に阻まれて、デジタルカメラ機材の整備にまでいたっておらず、結果、個人所有のデジタル一眼カメラやパソコンを持ち出して業務を行っている実態が発表された。

機器要求の基礎となりうる“デジタル機器整備の標準”の制定の要求がなされた。

#### 文化財写真を取り巻く環境④

伊藤雅和（株式会社アーキジオ）

民間発掘調査機関の事例発表となった。撮影業務に関しては銀塩での撮影がメインの仕様が多く、デジタルに関しては仕様にバラつきがみられる傾向が多いことが述べられた。現有機材での対応が不可能な場合は、機材を購入しての対応としているが、銀塩機材に関しては生産終了となっているものも多く仕様通りの機材での対応が困難な場合も多く、デジタル機材に関しては、製品のスペック向上とともに仕様書での要求スペックも向上しており、それに合わせて機材の更新を頻繁に行わないとならない現状の発表がなされた。

ある程度の仕様の統一性が必要で、前での発表と同様に“デジタル機器整備の標準”の存在が必要との要求がなされた。

#### 文化財写真を取り巻く環境⑤

岡田 愛（奈良文化財研究所）

奈良文化財研究所の事例発表となった。奈良文化財研究所では、発掘現場で調査員が撮影する調査経過記録写真も35mmカラーリバーサルフィルムからデジタルカメラへと変更しているなど、年々デジタル写真の占める割合が増加する傾向が述べられた。

発掘現場においては大判フィールドカメラをメインとしてデジタル一眼レフをサブとしている。遺物撮影では大判ビューカメラを基本としているが、重要な遺物の俯瞰撮影においては、銀塩カメラでは本体での作業手順が多く機材などの落下の危険性がある為、デジタルバック方式のカメラを使用し、パソコンでの遠隔操作による撮影を行っている。俯瞰撮影においてはライブビュー機能の使用により作業時間の短縮がはかれること、木簡の赤外線撮影ではデジタル撮影が有効であることが述べられた。

デジタルデータを保存するサーバーの設置やデータを管理活用するデータベース構築についての事例発表も行われた。

#### 文化財写真を取り巻く環境⑥

佐々木香輔（奈良国立博物館）

奈良国立博物館の事例発表となった。タングステンライト用フィルムやモノクロポラロイドフィ

ルムの製造中止に伴い、2010年から完全デジタル化へ移行した。

完全デジタル化において重要となるのは、保存・保管であるが、画像データはRAID1に設定された画像専用のハードディスクで保存し、温湿度の変化の少ない環境での保管を行っている。ハードディスクには寿命があるため、一定期間ごとにデータを新しいハードディスクに更新をおこなっている。デジタル画像は原則的にA4サイズプリントでの保存も行っているとの発表がなされた。

#### d 平成23年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会

期 日：11月17日（木）～11月18日（金）

会 場：岡山県倉敷市ホテル日航

参加者：第2調査部第3調査課主査 廣田良成

内 容：11月17日（木）は、倉敷市ホテル日航で研修を行った。11月18日（金）は倉敷市内の関連施設視察及び貝塚の見学を行った。

#### 特別講演 「倉敷とその周辺の縄文貝塚」

（財）倉敷考古館学術顧問である間壁忠彦氏により、倉敷とその周辺の貝塚の分布、立地、調査歴などについて講演が行われた。この地域の貝塚は大正時代から調査が行われているため学史上でも重要な遺跡が多い。大きな特徴は人骨の出土が多い点、出土土器が吉備地域の縄文土器の標識遺跡になっている点である。

#### 事例報告1

「佐賀市東名遺跡からみた縄文早期の生活スタイル」

佐賀市教育委員会の西田 巖氏により、東名遺跡について報告が行われた。遺跡の大きな特徴は、低地の貝塚や貯蔵穴から動植物性遺物が良好な状態で出土したことである。特に貯蔵穴から堅果類が編みかごに入った状態で出土している点が注目される。

#### 事例報告2

「岡山市彦崎貝塚から見た内湾での暮らしぶり」

岡山県教育委員会の田嶋正憲氏により、岡山市域の南部に位置する彦崎貝塚について報告が行われた。彦崎貝塚は昭和23年以降断続的に調査が行われた遺跡で、平成20年に国指定史跡となった。

時期は縄文時代前期が中心で、大規模な貝塚・居住域・墓域の計画的な配置がみられる点が特徴である。

#### 事例報告 3

「千葉県の大型貝塚－近年の研究事例と活用の可能性」

千葉県教育振興財団の西野雅人氏により、千葉県内の大規模貝塚の分布や特徴などの概要について報告が行われた。また、千葉県有吉北貝塚を調査例として、貝塚からわかる食料資源の利用状況について具体的な説明が行われた。

#### 視察・見学

倉敷埋蔵文化財センター、倉敷考古館の視察と、倉敷市内の福田貝塚、磯の森貝塚、船元貝塚の見学を行った。

#### e 平成23年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 北海道・東北ブロック会議

期 日：11月21日（月）～11月22日（火）

会 場：岩手県二戸市福岡字八幡下11-1

二戸市埋蔵文化財センター

参加者：第1 調査部長 千葉英一

総務課参与 北浦 満

内 容：11月21日（月）は、二戸市埋蔵文化財センターで会議を行った。11月22日（火）は、史跡九戸城跡、二戸市埋蔵文化財センター展示室の視察を行った。

#### 協議事項

議事 1 平成24年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議開催機関について

前年度のブロック会議で、今後の開催地を輪番制で行うこととされたが、その後の東日本大震災などもあり、来年度の開催機関について再度確認した結果、予定どおり多賀城市埋蔵文化財センターが行うことで確認された。

議事 2 ブロック内の出土品の相互活用を図る在り方について

提案県の秋田県埋蔵文化財センターから、この会議を情報交換のみではなく、出土品を相互に優先的に貸し出すなど便宜を図ることを合意してはどうか、担当者同士の人と人の交流も強めてはどうか、との提案があった。協議の結果、出土品の貸出は、これまでどの施設から依頼がきても当

然貸し出すことを前提として対応しているので、そのような取り決めは必要性がないとされた。また人と人の交流は、この会議も含め一層つながりを深めていくこととされた。

#### 照会事項

以下のア～エの事項について、照会機関の趣旨説明のあと、出席機関から回答内容の補足説明などがあり、理解を深めた。

ア 震災対応の職員派遣の考え方について

（照会機関：秋田県埋蔵文化財センター）

イ 埋蔵文化財センターへの指定管理者制度、NPO法人制度導入の問題等について

（照会機関：滝沢村埋蔵文化財センター）

ウ 遺物収蔵庫の防カビ・防虫等の対策について

（照会機関：青森県埋蔵文化財センター）

エ 展示施設等の運用について

（照会機関：二戸市埋蔵文化財センター）

会議出席者は、開催機関の二戸市埋蔵文化財センター 4 名、他機関 9 機関 11 名であった。

#### f 平成23年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 第2回役員会

期 日：11月22日（火）

会 場：東京都千代田区平河町 2 丁目 6-3

都道府県会館

参加者：副所長 松本昭一、総務課長 葛西宏昭

内 容：都道府県会館において会議を行った。

#### 協議事項

議事 1 新規加盟の勧誘について

事務局から新規加盟案内の発送について説明があり、協議会として案内は必要であると再確認した。

また、新規の機関が設立されるような情報を得、設立と同時に加入できるような案内を出せないか、事務局で案内の文案を含め検討することとした。

議事 2 平成24・25年度の役員について

事務局から、平成24年度は、ローテーションで決まっているので、25年度（26年度まで）の各ブロック幹事について、平成23年内に事務局まで報告してほしいとの説明があり了承した。その後、幹事の選出について、事務局と調整を行い、北海道・東北ブロックについては、平成24年のブロック会議で選出し報告することとした。

### 議事3 平成24・25年度総会・役員会・研修会について

事務局から、平成24年度の各会議については、既に予定されているが、本会議で再確認したいとの説明があり、全会一致で了承した。

#### ア 平成24年度総会及び第1回役員会

三重県埋蔵文化財センターの担当で、平成24年5月24日（木）～25日（金）に伊勢市内で開催の予定。

#### イ 平成24年度研修会

北上市立埋蔵文化財センターの担当で、平成24年11月8日（木）～11月9日（金）に北上市内で開催の予定。

#### ウ 平成24年役員会（秋）

平成24年11月に、都道府県会館を会場に開催の予定。

#### エ 平成25年度総会等

平成25年度は役員が交代となることから未確定要素があるが、総会を5月頃に神戸市埋蔵文化財センターが担当で開催の予定。

研修会は11月に京都市文化市民局文化財保護課保護第二係の担当で開催の予定。

### 議事4 会員名簿の作成方法について

事務局から、当協議会の予算が厳しく、できるだけ軽費の削減を図るため、その一つとして会員名簿の作成方法等について検討したいとの提案があり協議した結果、事務局で案を作成し、会長、副会長機関で検討することとした。

#### 報告事項

#### (1) 埋蔵文化財調査研究事業の充実に関する要望活動について

事務局から平成23年10月14日に、全国埋蔵文化財法人連絡協議会とともに、文化庁長官ほかに要望書を提出したとの報告があった。

#### (2) 会費の執行状況について

事務局から現在の収支状況について報告があった。

#### (3) 会報の発行状況と発行予定について

事務局から今年度の会報の発行が遅れていること、今後の発行予定について報告があった。

### (3) 埋蔵文化財に関する調査研究

#### a 保管出土品を活用した研究

「保管遺物の材質、原産地等についての整理2」

#### 【調査研究計画】

指定管理者第1期においては保管遺物についての基礎的、一時的なデータの整理作業を行った。第2期においてはこのデータ整理を継続しつつ、新たな項目を追加し、情報を付加していくことを計画した。

今期は、遺物の保管、保存について重要な課題である素材・原材に着目し、材質分析及び原産地分析に関する情報収集、集成について行った。

#### 【情報収集・集成】

今年度も、保管遺物に関わる分析データを内容毎に整理し、集成することから開始した。特に、石材や黒曜石に関する原産地分析のデータを優先して抜き出しを行った。

利用可能な分析データは(1)これまでに財団法人北海道埋蔵文化財センターまたは道立センターで行った分析のデータ、(2)財団センターが調査時に依頼、委託して行った分析のもの、(3)道立センターでの特別利用や資料貸出の際におこなわれた分析のものがある。

(1)(2)については刊行された報告書からデータを抜き出す作業を行い、継続中である。(3)については公表されてはいるが、対象が限られている場合が多く、情報提供をお願いしている。

#### 【道立センター保管遺物利用の分析】

道立センターでの特別利用や資料貸出の際の分析で、石材、原産地に関わるものは、これまでにキウス5遺跡出土の玉類（北海道教育大学 菅原いよ氏・岡村聡氏）、千歳市美々3遺跡出土の石斧（斜里町立知床博物館 合地信生氏）、千歳市美々4遺跡、美々2遺跡、キウス4遺跡出土の黒曜石製遺物（明治大学文化財研究施設 杉原重夫氏、金成太郎氏）などの例がある。

#### 【黒曜石原産地分析データの整理】

本年度も貸出、分析依頼のあった明治大学文化財研究施設より提供のあった調査結果を整理し、データ活用の方向性を考える材料としたい。

なお、黒曜石製遺物の原産地推定は、明治大学文化財研究施設に設置されている「黒曜石原産地推定システム」で行った。推定結果については情報提供というかたちで協力をいただいた。

#### 【キウス4遺跡 石器の原産地推定結果より】

今回測定したのは、北海道千歳市キウス4遺跡（縄文時代早～前期・後期）から出土した黒曜石

製遺物である。特に竪穴住居跡や土坑などの遺構から出土したものを抜き出した。測定した遺物は803点であり、原産地が判別できた遺物は687点であった。

原産地推定の結果は、赤井川地区赤井川系が352点(51.2%)と半数以上を占め、十勝地区上士幌・美蔓系Aが109点(15.9%)、白滝地区赤石山系が92点(13.4%)、置戸地区所山系が77点(11.2%)、白滝地区十勝石沢系が48点(7.0%)であった。他に、置戸地区置戸山系が3点、名寄地区名寄系Aが2点、旭川地区旭川系Bが2点、ケショマップ地区ケショマップ系が1点、豊浦地区豊浦系が1点認められた。

【キウス9遺跡 石器の原産地推定結果より】

今回測定したのは、北海道千歳市キウス9遺跡(縄文時代早～前期)から出土した黒曜石製遺物である。特に竪穴住居跡や土坑などの遺構から出土したものやまとまって出土した石刃鎌を抜き出した。測定した遺物は198点であり、原産地が判別できた遺物は185点である。

原産地推定の結果は、置戸地区所山系が84点(45.4%)と半数近くを占め、赤井川地区赤井川系が58点(31.4%)、白滝地区赤石山系が22点(11.9%)、同地区十勝石沢系が11点(5.9%)であった。その他、十勝地区上士幌・美蔓系Aが7点、生田原地区生田原系が2点、豊浦地区豊浦系が1点認められた。今回の分析では、生田原系の利用が初めて確認された。生田原系は他の分析事例でも類例がほとんどないため、重要な分析結果である。

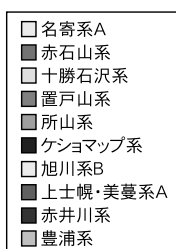
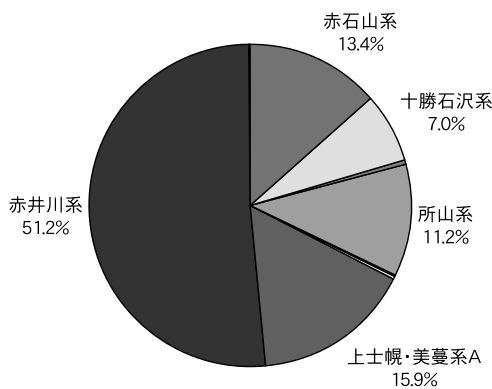
また、製作された石器は石刃鎌であり、その点も注目に値する。同地区及び石刃鎌石器群について分析事例を蓄積していく必要がある。

【今後の計画・目標】

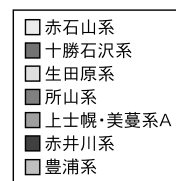
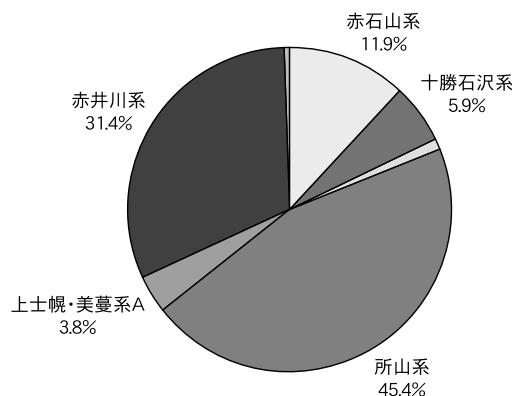
今後もデータを蓄積し、遺跡調査における分析の方針や意義、目的を考えるうえでの基礎資料となるようなかたちになりたいと考えている。各市町村における文化財保護事業においても有用なデータベースとしたい。

石器の原産地推定結果

| 遺跡名    | 時期         | 測定点数 | 判別点数 | 名寄系A | 赤石山系 | 十勝石沢系 | 置戸山系 | 生田原系 | 所山系 | ケショマップ系 | 旭川系B | 上士幌・美蔓系A | 赤井川系 | 豊浦系 | 判別不可 |
|--------|------------|------|------|------|------|-------|------|------|-----|---------|------|----------|------|-----|------|
| キウス4遺跡 | 縄文時代早・前・後期 | 803  | 687  | 2    | 92   | 48    | 3    | 0    | 77  | 1       | 2    | 109      | 352  | 1   | 116  |
| キウス9遺跡 | 縄文時代早・前期   | 198  | 185  | 0    | 22   | 11    | 0    | 2    | 84  | 0       | 0    | 7        | 58   | 1   | 13   |



キウス4遺跡 石器の原産地推定結果



キウス9遺跡 石器の原産地推定結果

#### (4) 分析・鑑定・保存処理等

##### a 分析・鑑定

\*分析結果は当該の調査報告書に掲載する。

##### ①重要遺跡確認調査斜里町斜里朱円周堤墓火山灰調査

期 間：平成23年6月6日(月)～6月9日(木)  
試料採取、平成24年1月分析。

場 所：北海道立埋蔵文化財センター分析室  
担当者：第1調査部第1調査課主査 花岡正光

##### ②斜里町朱円2遺跡の火山灰調査

期 間：平成23年6月9日(木) 試料採取、平成24年2月 分析。

場 所：北海道立埋蔵文化財センター分析室  
担当者：第1調査部第1調査課主査 花岡正光

##### ③中川町オフィチャシ跡の火山灰調査

期 間：平成23年11月7日(月)～11月8日(火)  
試料採取、平成23年12月 分析。

場 所：北海道立埋蔵文化財センター分析室  
担当者：第1調査部第1調査課主査 花岡正光

#### (5) 市町村教育委員会支援

##### a 指導・協力等

##### ①埋蔵文化財調査への指導助言

依頼元：千歳市教育委員会

対 象：北千歳駐屯地急傾斜地対策受託事業に伴う埋蔵文化財試掘調査において、蘭越遺跡試掘坑で検出した墓坑内の金属製品遺物。アツテウシチャシ跡の壕及び擦文期の竪穴調査。

期 間：平成23年7月5日(火)

場 所：千歳市蘭越遺跡、アツテウシチャシ跡  
担当者：第2調査部長 三浦正人

第1調査部第2調査課長 鈴木 信

内 容：冠板・小札が綴じられ鋳留めされた鎧の一部・杏葉などの鎧関係品がまとまって出土していた。単品で検出できているものは簡略にアルコールで脱水・洗浄して取り上げた。小札が綴じられて鋳留めされたものは、未検出部分をあきらかにし、まとめて取り上げたほうが得策と助言した。金属製品なので、見えているものは取り上げたほうがよいと助言した。チャシ跡の壕及び擦文期の竪穴調査については、擦文期竪穴の立地とチャシの造成との関係を見る上でもトレンチ調査とその断面観察が重要となる旨助言した。

##### ②保存事業に係る指導

依頼元：上ノ国町教育委員会

対 象：町内出土保存事業に係る金属製品の脱塩処理及び減圧含浸の処理方法、保存処理後の保管方法。

期 間：平成23年9月7日(水)～9月9日(金)

場 所：上ノ国館跡調査整備センター

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

内 容：上ノ国館跡調査整備センターにて町教委現担当者および前任者と日程および指導内容を確認し、その後、実務を行う作業補助員にも立ち会っていただき、現在の作業手順、使用機器や作業工程の詳細を確認した上で、保存処理工程の説明および指導を行った。続いて老朽化した施設内の作業環境や収蔵環境を確認し、現有機器の状況について説明を受けた。施設は木造の校舎を活用したものであるため、空調設備などは無く壁面や廊下に隙間や補修箇所などが見られた。重要遺物等は調湿効果のある恒温乾燥庫に保管し、それ以外は状態に応じて金属製品保管用のエスカルフィルムに遺物と脱酸素剤を同時封入後、発泡ウレタン製の保冷箱を活用して温湿度の保全に努めていた。

現状では大きな問題は無いと思われるが、フィルム劣化による有機性ガスの漏れや飛散した有機溶剤などで溶ける心配があること、紫外線や高温に弱いことなどから定期的な点検を行うとともに、使用には十分に注意が必要であることを伝えた。エスカルフィルムによる封入は現状でもっとも安定した収納・保管方法である。しかし、表面にガラスをコーティングしてガスバリア性を高めているため、やや硬質であり、突起物による傷で気密性が失われる可能性がある。封入資料の養生や重ね置き時に配慮を要することを伝えた。また、脱酸素剤のインジケータは劣化等で効果が視認しづらいことから、青色シリカゲルを同時封入することを勧めた。

道内の市町村としては、早い時期から自前で保存処理を実施していたことから、金属製品の保存処理機器は大変充実している。しかし、担当者の異動などで、永く保守管理が行われていない機器もあり、定期的な点検、吸排気系、フィルター、ドレン等を確認するなどのメンテナンスを勧めた。また、処理作業にあたってはマスク、手袋などの安全防護具、有機溶剤使用や粉塵に対する換

気、薬品保管や廃棄などについて十分に注意することを強く指導した。特に廃棄物については町の有害物質取扱い基準などに従い適切に対応するように指導した。

実際の保存処理作業については、材質別の脱塩方法や含浸用樹脂、クリーニングや乾燥方法などの具体例を説明した。同時に木製品の保管状況を確認し、水漬仮保管時には水表面に黒ビニール袋などを密着させると、水の蒸発やカビの侵入・発生を抑制できることなど簡単なアイデアと対処を指導した。処理前後の木製品の保管方法については、保管環境を含めいくつか改善部分があることを指摘した。

その後、勝山館ガイダンス施設の資料展示状況等を確認した。施設内は土足厳禁であり、屋外土壌の持込みなど、汚染物質の進入に配慮がなされていた。保存処理後の展示資料には多くの工夫や配慮が見られたが、窓が大きく外光（紫外線）が入りやすいため、紫外線カットの対策や劣化の予想される脆弱資料について期間を設定して、定期的に資料を入れ替えるなどの対応が望ましいことを伝えた。

以上、概略をまとめたが、町では予算措置などの問題もあるが、早速、現有の機器や材料で、やれるところから積極的に改善していくとのことである。

### ③出土木製品の簡易保存処理と樹種サンプリング指導及び同定作業

依頼元：厚真町教育委員会

対象：ライカルマイ遺跡（厚真町字吉野）出土木製品。

期間：平成24年1月20日（金）～3月13日（火）

場所：厚真町埋蔵文化財整理事務所

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

内容：まず、出土木製品の現状について電話やメール添付画像で説明を受けた。事前にアクリル樹脂で仮強化した遺物については、細胞組織観察による分析や同定作業に影響がある可能性もある。基本的には同定用試料サンプリングを採取してから遺物の特性に合った樹脂強化を行うことが望ましいことを伝えた。

試料の状態把握が急がれることから、急遽、1月25～26日に現地にて劣化状態を確認し、保存処理方法の指導と合わせ、約36点の試料からサンプ

ルを採取しながら実践的に指導した。今後、組織内部の樹脂クリーニングし、樹種同定を実施する。現地の遺物は白化した表面の樹脂をクリーニングしたのち、実測・撮影後が行われ、報告作業となる。

### ④金属製品の保存処理・収蔵保管方法の指導・助言

依頼元：札幌大学 埋蔵文化財展示室

対象：30余年前に故石附喜三男教授が行った発掘調査資料のうち、擦文～アイヌ文化期の金属製品。

期間：平成23年3月7日（月）

～平成24年3月23日（金）

場所：札幌大学埋蔵文化財展示室および北海道立埋蔵文化財センター保存科学室

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

内容：劣化破損し、分散した金属製品を再整理し、シール容器にシリカゲルを入れて収納した。劣化の現状を撮影記録し、観察カードに貼付した。また、サビ・接合・破損状況などは簡易な実測や模式図（スケッチ）を描き細部を記録するように指示した。観察カードの作成ができたものから随時X線透視撮影を実施した。X線画像から内部の劣化状況などを観察記録し、構造や材質調査の結果をもとに、修復及び保存処理計画を作成する。

### ⑤資料の取り扱い及び保存処理指導

依頼元：札幌国際大学

対象：サハリン出土の内耳土鍋など、大学博物館所蔵資料。

期間：平成23年4月22日（金）～6月14日

場所：北海道立埋蔵文化財センター保存科学室

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

内容：処理に入る前に、資料を肉眼や実体顕微鏡によって観察し、内外面や接合関係の記録を行った。土器の劣化状況については、X線撮影によって構造調査を行い、細部の亀裂など確認し、処理方法を検討した。はじめに当時の接合時のチョークやテープを除去し、全体をクリーニングした。接合面に付着した古い接着材は当時の復元材料記録ともなるので、劣化の著しいもの以外は除去を最小限に止めた。

煮炊きの痕跡として残る厚く付着した炭化物はアセトン+パラロイドB72を塗布して剥落防止した。全体の強化にはバインダー#18、アセトン+パラロイドB72の7%溶液、キシレン+パラロイドB72の7%溶液など、予め数種類の樹脂で強

度・光沢・色調変化をテストし、もっとも自然な状態で強化できた市販の土器強化剤のナチュラルコートを選択し、滴下やドブ漬けで処理した。

#### b 委員会等出席依頼

##### ①縄文の漆複製プロジェクト第4回検討会

依頼元：NPO法人三内丸山縄文発信の会

日時：平成23年5月28日（土）

13：00～15：30

場所：NPO法人三内丸山縄文発信の会事務局  
会議室

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

##### ②縄文の漆複製プロジェクト第5回検討会

依頼元：NPO法人三内丸山縄文発信の会

日時：平成23年8月5日（金）

13：00～15：30

場所：函館市縄文文化交流センター

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

##### ③縄文の漆複製プロジェクト 縄文の漆フォーラム

依頼元：NPO法人三内丸山縄文発信の会

日時：平成24年2月11日（土）

13：00～15：30

場所：函館市縄文文化交流センター

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

##### ④シンポジウム「北海道における木材利用の歴史とアイヌ文化」

依頼元：木質文化研究会

日時：平成24年3月18日（土）

10：00～15：30

場所：北海道立埋蔵文化財センター 2階研修室

担当者：第2調査部長 三浦正人

第1調査部第1調査課長 田口 尚

#### c 埋蔵文化財担当職員現地研修会

「旧石器遺跡の調査と出土資料の公開活用―遠軽町白滝遺跡群―」

目的：発掘調査に携わっている市町村職員を対象に、遠軽町白滝遺跡群の事例から旧石器遺跡調査、出土資料の公開活用について研修する。

講師

遠軽町教育委員会 学芸員 松村愉文 氏

遠軽町教育委員会 学芸員 瀬下直人 氏

財団法人北海道埋蔵文化財センター

第1調査部第4調査課 主任 直江康雄

日時：平成23年9月29日（木）

会場：遠軽町埋蔵文化財センター

内容

研修1：「講義；白滝遺跡群の調査」

財団法人北海道埋蔵文化財センターが行った遠軽町白滝遺跡群の調査事例について研修を行った。

研修2：「講義；国指定史跡「白滝遺跡群」と出土資料の公開活用」

国指定史跡「白滝遺跡群について理解を深めるとともに、国指定重要文化財「白滝遺跡群出土品」を含めた「白滝遺跡群」出土資料の公開活用について研修を行った。

研修3：「遠軽町埋蔵文化財センター見学」

国指定重要文化財「白滝遺跡群出土品」および「白滝遺跡群」出土資料の公開活用の例として、7月8日にオープンした遠軽町埋蔵文化財センターを見学した。

〔日程〕

11：00 受付・オリエンテーション

研修1 「講義：白滝遺跡群の調査」

講師：直江康雄

12：00 研修1 終了・昼食

13：00 研修2 「講義：国指定史跡「白滝遺跡群」と出土資料の公開活用」

講師：松村愉文 氏

14：00 研修2 終了

14：10 研修3 「遠軽町埋蔵文化財センター見学」

講師：瀬下直人 氏

14：50 研修3 終了

15：00 質疑応答

15：30 研修終了・終了式

〔参加者〕市町村職員10名、センター職員10名

#### 市町村出前研修参加者一覧(センター職員を除く)

|    | 氏名    | 振興局   | 所属        |
|----|-------|-------|-----------|
| 1  | 田中 亮  | 石狩    | 札幌市教育委員会  |
| 2  | 宮本 雅通 | 檜山    | 今金町教育委員会  |
| 3  | 乾 茂年  | 宗谷    | 浜頓別町教育委員会 |
| 4  | 八重柏 誠 | オホーツク | 美幌博物館     |
| 5  | 村本 周三 | オホーツク | 斜里町教育委員会  |
| 6  | 田代 雄介 | オホーツク | 斜里町教育委員会  |
| 7  | 友田 哲弘 | 上川    | 旭川市教育委員会  |
| 8  | 望月 迪子 | 上川    | 旭川市教育委員会  |
| 9  | 大橋 毅  | 十勝    | 芽室町教育委員会  |
| 10 | 澤田 恭平 | 釧路    | 釧路市教育委員会  |



▲埋蔵文化財担当職員現地研修会



▲埋蔵文化財担当職員研修会

#### d 埋蔵文化財担当職員研修会

##### 「発掘調査における自然科学的分析導入の実際」

目的：発掘調査に携わっている市町村職員を対象に、発掘調査における自然科学的分析導入について、専門的な研修を行う。

講師

財団法人北海道埋蔵文化財センター

第1 調査部第1 調査課 主査 花岡正光

第2 調査部第2 調査課 主査 芝田直人

日時：平成23年12月16日（金）

会場：北海道立埋蔵文化財センター 2階研修室

内容

研修1：「発掘調査におけるAMS年代測定法の現状と課題」

遺跡から出土する炭化材、炭化種子、土器付着炭化物などを試料として用いたAMS年代測定法は、北海道においても測定例が増加してきた。遺跡の年代を推定するのに一定の成果を収める一方で、従来の編年観と整合しないなどの問題点も見られる。今回の研修では(財)北海道埋蔵文化財センターが近年行った調査例を中心に、AMS年代測

定法の現状と課題について検討した。

研修2：「発掘調査現場の物質科学」

発掘調査現場では、遺構・遺物以外にも、その土地の生い立ち・構成物についての理解も不可欠である。今回の研修では、地層の見方、テフラの認定と対比法、土壌の見方、地形の見方などを物質科学の観点から考え、北海道内の発掘調査現場、自然露頭を例として解説した。

[日程]

10：00 受付開始

10：30 研修開始・オリエンテーション

10：40 研修1 「発掘調査におけるAMS年代測定法の現状と課題」

講師 芝田直人

12：00 昼食

13：30 研修2 「発掘調査現場の物質科学」

講師 花岡正光

15：00～15：15 休憩・土層剥取り資料の観察・解説

15：15 研修2 「発掘調査現場の物質科学」

17：00 研修終了・解散

[参加者] 市町村職員等17名、センター職員13名

#### 埋蔵文化財担当職員研修会参加者一覧（センター職員を除く）

|   | 氏名    | 振興局   | 所属        |    | 氏名    | 振興局   | 所属        |
|---|-------|-------|-----------|----|-------|-------|-----------|
| 1 | 山田 央  | 渡島    | 七飯町教育委員会  | 10 | 山田 哲  | オホーツク | 北見市教育委員会  |
| 2 | 木元 豊  | 渡島    | 木古内町教育委員会 | 11 | 澤田 健  | 上川    | 富良野市教育委員会 |
| 3 | 塚田 直哉 | 檜山    | 上ノ国町教育委員会 | 12 | 菅野 修広 | 胆振    | 登別市教育委員会  |
| 4 | 石井 淳平 | 檜山    | 厚沢部町教育委員会 | 13 | 川内谷 修 | 日高    | 日高町教育委員会  |
| 5 | 石神 敏  | 後志    | 小樽市教育委員会  | 14 | 森岡 健治 | 日高    | 平取町教育委員会  |
| 6 | 葛西 智義 | 空知    | 深川市教育委員会  | 15 | 大橋 毅  | 十勝    | 芽室町教育委員会  |
| 7 | 乾 茂年  | 宗谷    | 浜頓別町教育委員会 | 16 | 坪岡 始  | 釧路    | 標茶町教育委員会  |
| 8 | 高畠 孝宗 | 宗谷    | 枝幸町教育委員会  | 17 | 中田 裕香 |       | 北海道教育委員会  |
| 9 | 八重柏 誠 | オホーツク | 美幌町教育委員会  |    |       |       |           |

## 5 収蔵・保管事業の概要

### (1) 収蔵資料目録

出土文化財を北海道出土文化財取扱要綱（平成13年4月11日付け教育庁・出納局長通知）等に則して保管し、いつでも活用できるよう管理を行い、整理作業を進めている。今年度は新たに千歳市キウス5遺跡出土の資料を収蔵した。

|    | シリーズ名称 | 発行年度 | 報告書名 | 所在地  | 遺跡名               | 掲載遺物コ<br>ンテナ数 | その他コ<br>ンテナ数 | 復元土器<br>個体数 |     |     |
|----|--------|------|------|------|-------------------|---------------|--------------|-------------|-----|-----|
| 1  | 道教委    | 1    | 昭和52 | 1977 | 美沢川流域の遺跡群Ⅰ        | 千歳市           | 美々4          | 5           | 140 | 1   |
| 2  | 道教委    | 1    | 昭和52 | 1977 | 美沢川流域の遺跡群Ⅰ        | 千歳市           | 美々5          | 1           | 1   | 0   |
| 3  | 道教委    | 3    | 昭和54 | 1979 | 美沢川流域の遺跡群Ⅲ        | 千歳市           | 美々4          | 3           | 152 | 15  |
| 4  | 道教委    | 3    | 昭和54 | 1979 | 美沢川流域の遺跡群Ⅲ        | 千歳市           | 美々5          | 11          | 74  | 0   |
| 5  | 道教委    | 3    | 昭和54 | 1979 | 美沢川流域の遺跡群Ⅲ        | 千歳市           | 美々6          | 2           | 13  | 0   |
| 6  | 道教委    | 3    | 昭和54 | 1979 | 美沢川流域の遺跡群Ⅲ        | 千歳市           | 美々7          | 7           | 42  | 0   |
| 7  | 北埋調報   | 3    | 昭和55 | 1980 | 美沢川流域の遺跡群Ⅳ        | 千歳市           | 美々4          | 6           | 365 | 108 |
| 8  | 北埋調報   | 3    | 昭和55 | 1980 | 美沢川流域の遺跡群Ⅳ        | 千歳市           | 美々5          | 3           | 50  | 5   |
| 9  | 北埋調報   | 3    | 昭和55 | 1980 | 美沢川流域の遺跡群Ⅳ        | 千歳市           | 美々6          | 2           | 16  | 3   |
| 10 | 北埋調報   | 3    | 昭和55 | 1980 | 美沢川流域の遺跡群Ⅳ        | 千歳市           | 美々7          | 1           | 4   | 3   |
| 11 | 北埋調報   | 7    | 昭和56 | 1981 | 美沢川流域の遺跡群Ⅴ        | 千歳市           | 美々8          | 1           | 91  | 117 |
| 12 | 北埋調報   | 8    | 昭和57 | 1982 | 美沢川流域の遺跡群Ⅵ        | 千歳市           | 美々8          | 1           | 5   | 9   |
| 13 | 北埋調報   | 9    | 昭和57 | 1982 | ママチ遺跡             | 千歳市           | ママチ          | 9           | 161 | 73  |
| 14 | 北埋調報   | 14   | 昭和58 | 1983 | 美沢川流域の遺跡群Ⅶ        | 千歳市           | 美々4          | 9           | 166 | 143 |
| 15 | 北埋調報   | 14   | 昭和58 | 1983 | 美沢川流域の遺跡群Ⅶ        | 千歳市           | 美々9          | 1           | 2   | 4   |
| 16 | 北埋調報   | 17   | 昭和59 | 1984 | 美沢川流域の遺跡群Ⅷ        | 千歳市           | 美々4          | 3           | 33  | 32  |
| 17 | 北埋調報   | 17   | 昭和59 | 1984 | 美沢川流域の遺跡群Ⅷ        | 千歳市           | 美々5          | 1           | 5   | 0   |
| 18 | 北埋調報   | 24   | 昭和60 | 1985 | 美沢川流域の遺跡群Ⅸ        | 千歳市           | 美々2          | 9           | 53  | 4   |
| 19 | 北埋調報   | 24   | 昭和60 | 1985 | 美沢川流域の遺跡群Ⅸ        | 千歳市           | 美々4          | 5           | 57  | 0   |
| 20 | 北埋調報   | 24   | 昭和60 | 1985 | 美沢川流域の遺跡群Ⅸ        | 千歳市           | 美々8          | 1           | 7   | 5   |
| 21 | 北埋調報   | 35   | 昭和61 | 1986 | 美沢川流域の遺跡群Ⅹ        | 千歳市           | 美々3          | 2           | 13  | 4   |
| 22 | 北埋調報   | 36   | 昭和61 | 1986 | ママチ遺跡Ⅲ            | 千歳市           | ママチ          | 8           | 84  | 75  |
| 23 | 北埋調報   | 44   | 昭和62 | 1987 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅠ       | 千歳市           | 美々8          | 2           | 42  | 27  |
| 24 | 北埋調報   | 62   | 平成1  | 1989 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅡ       | 千歳市           | 美々3          | 2           | 39  | 7   |
| 25 | 北埋調報   | 62   | 平成1  | 1989 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅢ       | 千歳市           | 美々8          | 1           | 42  | 72  |
| 26 | 北埋調報   | 69   | 平成2  | 1990 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅣ       | 千歳市           | 美々3          | 14          | 134 | 34  |
| 27 | 北埋調報   | 69   | 平成2  | 1990 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅣ       | 千歳市           | 美々8低湿部       | 0           | 0   | 0   |
| 28 | 北埋調報   | 77   | 平成3  | 1991 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ       | 千歳市           | 美々3          | 4           | 10  | 31  |
| 29 | 北埋調報   | 77   | 平成3  | 1991 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ       | 千歳市           | 美々7          | 3           | 14  | 12  |
| 30 | 北埋調報   | 77   | 平成3  | 1991 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ       | 千歳市           | 美々8          | 3           | 37  | 16  |
| 31 | 北埋調報   | 77   | 平成3  | 1991 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ       | 千歳市           | 美々8低湿部       | 1           | 0   | 2   |
| 32 | 北埋調報   | 83   | 平成4  | 1992 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅥ       | 千歳市           | 美々7          | 3           | 11  | 7   |
| 33 | 北埋調報   | 83   | 平成4  | 1992 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅥ       | 千歳市           | 美々8          | 2           | 59  | 72  |
| 34 | 北埋調報   | 83   | 平成4  | 1992 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅥ       | 千歳市           | 美々8低湿部       | 1           | 0   | 1   |
| 35 | 北埋調報   | 86   | 平成5  | 1993 | ユカンボシC2遺跡         | 千歳市           | ユカンボシC2      | 4           | 24  | 14  |
| 36 | 北埋調報   | 89   | 平成5  | 1993 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅦ       | 千歳市           | 美々8          | 1           | 0   | 84  |
| 37 | 北埋調報   | 90   | 平成5  | 1993 | オサットー1・キウス7遺跡     | 千歳市           | オサットー1       | 1           | 0   | 0   |
| 38 | 北埋調報   | 90   | 平成5  | 1993 | オサットー1・キウス7遺跡     | 千歳市           | キウス7         | 4           | 14  | 13  |
| 39 | 北埋調報   | 92   | 平成6  | 1994 | キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡 | 千歳市           | キウス5         | 9           | 33  | 12  |
| 40 | 北埋調報   | 92   | 平成6  | 1994 | キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡 | 千歳市           | キウス7         | 1           | 5   | 7   |
| 41 | 北埋調報   | 92   | 平成6  | 1994 | キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡 | 千歳市           | ケネフチ8        | 1           | 5   | 0   |
| 42 | 北埋調報   | 96   | 平成6  | 1994 | オサツ2・14遺跡         | 千歳市           | オサツ2         | 4           | 20  | 117 |
| 43 | 北埋調報   | 96   | 平成6  | 1994 | オサツ2・14遺跡         | 千歳市           | オサツ14        | 7           | 31  | 16  |
| 44 | 北埋調報   | 100  | 平成7  | 1995 | ユカンボシC9遺跡         | 千歳市           | ユカンボシC9      | 3           | 25  | 33  |
| 45 | 北埋調報   | 102  | 平成7  | 1995 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅧ       | 千歳市           | 美々8          | 0           | 0   | 14  |
| 46 | 北埋調報   | 102  | 平成7  | 1995 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅧ       | 千歳市           | 美々8低湿部       | 2           | 168 | 10  |
| 47 | 北埋調報   | 103  | 平成7  | 1995 | オサツ2遺跡(2)         | 千歳市           | オサツ2         | 5           | 0   | 30  |
| 48 | 北埋調報   | 104  | 平成7  | 1995 | キウス5遺跡(2)         | 千歳市           | キウス5         | 9           | 89  | 18  |
| 49 | 北埋調報   | 105  | 平成7  | 1995 | キウス7遺跡(3)         | 千歳市           | キウス7         | 15          | 97  | 110 |
| 50 | 北埋調報   | 113  | 平成8  | 1996 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅨ       | 千歳市           | 美々4          | 12          | 343 | 229 |
| 51 | 北埋調報   | 114  | 平成8  | 1996 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅩ       | 千歳市           | 美々8低湿部       | 1           | 0   | 0   |
| 52 | 北埋調報   | 115  | 平成8  | 1996 | キウス5遺跡(3)         | 千歳市           | キウス5         | 17          | 113 | 254 |
| 53 | 北埋調報   | 116  | 平成8  | 1996 | キウス5遺跡(4)B・C地区    | 千歳市           | キウス5         | 9           | 24  | 17  |
| 54 | 北埋調報   | 117  | 平成8  | 1996 | キウス7遺跡(4)         | 千歳市           | キウス7         | 8           | 29  | 0   |
| 55 | 北埋調報   | 119  | 平成8  | 1996 | キウス4遺跡            | 千歳市           | キウス4         | 4           | 37  | 1   |
| 56 | 北埋調報   | 124  | 平成9  | 1997 | キウス4遺跡(2)         | 千歳市           | キウス4         | 24          | 377 | 121 |
| 57 | 北埋調報   | 125  | 平成9  | 1997 | キウス5遺跡(5)A2地区     | 千歳市           | キウス5         | 11          | 151 | 159 |
| 58 | 北埋調報   | 126  | 平成9  | 1997 | キウス5遺跡(6)B・C地区    | 千歳市           | キウス5         | 4           | 46  | 1   |
| 59 | 北埋調報   | 127  | 平成9  | 1997 | キウス7遺跡(5)         | 千歳市           | キウス7         | 6           | 16  | 5   |
| 60 | 北埋調報   | 128  | 平成9  | 1997 | ユカンボシC15遺跡(1)     | 千歳市           | ユカンボシC15     | 3           | 36  | 81  |

|                    | シリーズ名称 | 発行年度 | 報告書名 | 所在地  | 遺跡名                        | 掲載遺物コ<br>ンテナ数 | その他コ<br>ンテナ数 | 復元土器<br>個体数 |      |     |
|--------------------|--------|------|------|------|----------------------------|---------------|--------------|-------------|------|-----|
| 61                 | 北埋調報   | 133  | 平成10 | 1998 | ユカンボシC15遺跡(2)              | 千歳市           | ユカンボシC15     | 14          | 283  | 63  |
| 62                 | 北埋調報   | 134  | 平成10 | 1998 | キウス4遺跡(3)A H K I 地区        | 千歳市           | キウス4         | 42          | 302  | 234 |
| 63                 | 北埋調報   | 134  | 平成10 | 1998 | キウス4遺跡(3)A H K I 地区        | 千歳市           | キウス4         | 42          | 302  | 234 |
| 62                 | 北埋調報   | 135  | 平成10 | 1998 | キウス4遺跡(4)A 2地区             | 千歳市           | キウス4         | 5           | 39   | 14  |
| 64                 | 北埋調報   | 136  | 平成10 | 1998 | キウス5(7) キウス7(6)遺跡          | 千歳市           | キウス5         | 1           | 0    | 0   |
| 65                 | 北埋調報   | 136  | 平成10 | 1998 | キウス5(7) キウス7(6)遺跡          | 千歳市           | キウス7         | 1           | 1    | 0   |
| 66                 | 北埋調報   | 138  | 平成11 | 1999 | 柏台1遺跡                      | 千歳市           | 柏台1          | 26          | 22   | 0   |
| 67                 | 北埋調報   | 144  | 平成11 | 1999 | キウス4遺跡(5)                  | 千歳市           | キウス4         | 11          | 33   | 40  |
| 68                 | 北埋調報   | 146  | 平成11 | 1999 | ユカンボシC15遺跡(3)              | 千歳市           | ユカンボシC15     | 1           | 46   | 14  |
| 69                 | 北埋調報   | 147  | 平成11 | 1999 | 対雁2遺跡(1)                   | 江別市           | 対雁2          | 2           | 42   | 14  |
| 70                 | 北埋調報   | 148  | 平成11 | 1999 | キウス4遺跡(6)                  | 千歳市           | キウス4         | 7           | 16   | 2   |
| 71                 | 北埋調報   | 152  | 平成12 | 2000 | キウス4遺跡(7)                  | 千歳市           | キウス4         | 18          | 109  | 45  |
| 72                 | 北埋調報   | 157  | 平成12 | 2000 | キウス4遺跡(8)                  | 千歳市           | キウス4         | 49          | 519  | 380 |
| 73                 | 北埋調報   | 159  | 平成12 | 2000 | ユカンボシC15遺跡(4)              | 千歳市           | ユカンボシC15     | 1           | 1    | 3   |
| 74                 | 北埋調報   | 160  | 平成12 | 2000 | 対雁2遺跡(2)                   | 江別市           | 対雁2          | 5           | 32   | 41  |
| 75                 | 北埋調報   | 173  | 平成13 | 2001 | チブニー1・チブニー2遺跡              | 千歳市           | チブニー1        | 4           | 14   | 33  |
| 76                 | 北埋調報   | 173  | 平成13 | 2001 | チブニー1・チブニー2遺跡              | 千歳市           | チブニー2        | 1           | 5    | 0   |
| 77                 | 北埋調報   | 174  | 平成13 | 2001 | ケネフチ9遺跡                    | 千歳市           | ケネフチ9        | 2           | 10   | 1   |
| 78                 | 北埋調報   | 176  | 平成13 | 2001 | ユカンボシC15遺跡(5)              | 千歳市           | ユカンボシC15     | 0           | 0    | 0   |
| 79                 | 北埋調報   | 177  | 平成13 | 2001 | 対雁2遺跡(3)                   | 江別市           | 対雁2          | 1           | 6    | 69  |
| 80                 | 北埋調報   | 178  | 平成14 | 2002 | 西島松5遺跡                     | 恵庭市           | 西島松5         | 68          | 218  | 97  |
| 81                 | 北埋調報   | 180  | 平成14 | 2002 | キウス4遺跡(9)                  | 千歳市           | キウス4         | 90          | 1623 | 696 |
| 82                 | 北埋調報   | 187  | 平成14 | 2002 | キウス4遺跡(10)                 | 千歳市           | キウス4         | 0           | 0    | 0   |
| 83                 | 北埋調報   | 188  | 平成14 | 2002 | オルイカ1遺跡                    | 千歳市           | オルイカ1        | 2           | 32   | 2   |
| 84                 | 北埋調報   | 189  | 平成14 | 2002 | オルイカ2遺跡                    | 千歳市           | オルイカ2        | 5           | 17   | 4   |
| 85                 | 北埋調報   | 192  | 平成14 | 2002 | ユカンボシC15遺跡(6)              | 千歳市           | ユカンボシC15     | 0           | 59   | 0   |
| 86                 | 北埋調報   | 193  | 平成14 | 2002 | 対雁2遺跡(4)                   | 江別市           | 対雁2          | 41          | 81   | 36  |
| 87                 | 北埋調報   | 194  | 平成15 | 2003 | 西島松5遺跡(2)                  | 恵庭市           | 西島松5         | 7           | 21   | 19  |
| 88                 | 北埋調報   | 204  | 平成15 | 2003 | 対雁2遺跡(5)                   | 江別市           | 対雁2          | 3           | 5    | 11  |
| 89                 | 北埋調報   | 206  | 平成15 | 2003 | オルイカ1遺跡(2)                 | 千歳市           | オルイカ1        | 1           | 2    | 2   |
| 90                 | 北埋調報   | 207  | 平成15 | 2003 | チブニー2遺跡(2)                 | 千歳市           | チブニー2        | 2           | 12   | 12  |
| 91                 | 北埋調報   | 209  | 平成16 | 2004 | 西島松5遺跡(3)                  | 恵庭市           | 西島松5         | 55          | 455  | 467 |
| 92                 | 北埋調報   | 215  | 平成16 | 2004 | 対雁2遺跡(6)                   | 江別市           | 対雁2          | 0           | 1    | 0   |
| 93                 | 北埋調報   | 221  | 平成17 | 2005 | オルイカ2遺跡(2)                 | 千歳市           | オルイカ2        | 23          | 34   | 10  |
| 94                 | 北埋調報   | 224  | 平成18 | 2006 | 西島松5遺跡(4)                  | 恵庭市           | 西島松5         | 10          | 27   | 22  |
| 95                 | 北埋調報   | 225  | 平成17 | 2005 | チブニー2遺跡(3)                 | 千歳市           | チブニー2        | 31          | 7    | 27  |
| 96                 | 北埋調報   | 226  | 平成17 | 2005 | 対雁2遺跡(7)                   | 江別市           | 対雁2          | 16          | 38   | 41  |
| 97                 | 北埋調報   | 231  | 平成18 | 2006 | 対雁2遺跡(8)                   | 江別市           | 対雁2          | 33          | 49   | 429 |
| 98                 | 北埋調報   | 238  | 平成18 | 2006 | 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡              | 千歳市           | 梅川2          | 3           | 5    | 6   |
| 99                 | 北埋調報   | 238  | 平成18 | 2006 | 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡              | 千歳市           | 祝梅川上田        | 5           | 9    | 4   |
| 100                | 北埋調報   | 240  | 平成18 | 2006 | 対雁2遺跡(9)                   | 江別市           | 対雁2          | 13          | 14   | 22  |
| 101                | 北埋調報   | 248  | 平成20 | 2008 | 西島松3・5遺跡(5)                | 恵庭市           | 西島松5         | 33          | 486  | 140 |
| 102                | 北埋調報   | 251  | 平成19 | 2007 | キウス5遺跡(8)                  | 千歳市           | キウス5         | 3           | 17   | 10  |
| 103                | 北埋調報   | 252  | 平成19 | 2007 | キウス9遺跡                     | 千歳市           | キウス9         | 13          | 49   | 181 |
| 104                | 北埋調報   | 253  | 平成20 | 2008 | 梅川4遺跡(1)                   | 千歳市           | 梅川4          | 8           | 20   | 51  |
| 105                | 北埋調報   | 255  | 平成19 | 2007 | 対雁2遺跡(10)                  | 江別市           | 対雁2          | 1           | 2    | 4   |
| 106                | 北埋調報   | 260  | 平成21 | 2009 | 西島松5遺跡(6)                  | 恵庭市           | 西島松5         | 39          | 53   | 11  |
| 107                | 北埋調報   | 265  | 平成21 | 2009 | 西島松2遺跡                     | 恵庭市           | 西島松2         | 93          | 437  | 168 |
| 108                | 北埋調報   | 267  | 平成21 | 2009 | オルイカ2遺跡(3)                 | 千歳市           | オルイカ2        | 3           | 6    | 53  |
| 109                | 北埋調報   | 268  | 平成21 | 2009 | アンカリトー7・9遺跡                | 千歳市           | アンカリトー7      | 3           | 10   | 3   |
| 110                | 北埋調報   | 268  | 平成21 | 2009 | アンカリトー7・9遺跡                | 千歳市           | アンカリトー9      | 8           | 1    | 0   |
| 111                | 北埋調報   | 269  | 平成21 | 2009 | 梅川4遺跡(2)                   | 千歳市           | 梅川4          | 8           | 57   | 20  |
| 112                | 北埋調報   | 284  | 平成23 | 2011 | キウス5遺跡(9)                  | 千歳市           | キウス5         | 5           | 22   | 134 |
| (道教委・道埋文センター発掘調査分) |        |      |      |      | 合                          | 計             | 1108         | 8954        | 5863 |     |
| 1                  | 保第     | 2    | 平成7  | 1995 | ボンオサツ・ケネフチ5                | 千歳市           | ボンオサツ        | 2           | 1    | 18  |
| 2                  | 保第     | 2    | 平成7  | 1995 | ボンオサツ・ケネフチ5                | 千歳市           | ケネフチ5        | 5           | 42   | 0   |
| 3                  | 保第     | 3    | 平成7  | 1995 | オサツ15・16・18                | 千歳市           | オサツ15        | 1           | 14   | 1   |
| 4                  | 保第     | 3    | 平成7  | 1995 | オサツ15・16・18                | 千歳市           | オサツ16        | 4           | 44   | 14  |
| 5                  | 保第     | 3    | 平成7  | 1995 | オサツ15・16・18                | 千歳市           | オサツ18        | 1           | 1    | 0   |
| 6                  | 保第     | 5    | 平成8  | 1996 | ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2) | 千歳市           | ボンオサツ        | 1           | 1    | 0   |
| 7                  | 保第     | 5    | 平成8  | 1996 | ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2) | 千歳市           | オサツ18        | 1           | 1    | 8   |
| 8                  | 保第     | 5    | 平成8  | 1996 | ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2) | 千歳市           | ケネフチ5        | 5           | 14   | 2   |
| 9                  | 保第     | 6    | 平成8  | 1996 | オサツ15(2)                   | 千歳市           | オサツ15        | 5           | 47   | 7   |
| 10                 | 保第     | 7    | 平成8  | 1996 | オサツ16(2)                   | 千歳市           | オサツ16        | 13          | 28   | 8   |
| 11                 | 保第     | 8    | 平成9  | 1997 | オサツ15(3)                   | 千歳市           | オサツ15        | 6           | 26   | 4   |
| 12                 | 保第     | 9    | 平成9  | 1997 | オサツ16(3)                   | 千歳市           | オサツ16        | 2           | 14   | 0   |
| 13                 | 保第     | 10   | 平成9  | 1997 | ケネフチ5(3)                   | 千歳市           | ケネフチ5        | 11          | 68   | 23  |
| (保護協会発掘調査分)        |        |      |      |      | 合                          | 計             | 57           | 301         | 85   |     |
| 総                  |        |      |      |      | 合                          | 計             | 1165         | 9255        | 5949 |     |

## 6 普及・啓発事業の概要

### (1) 展示活動

#### a 常設展示「掘り出された北の歴史」

展示にあたっては、国（文化庁）・七飯町・北斗市・今金町・木古内町・余市町・夕張市・長沼町・遠軽町の各教育委員会、市立函館博物館、知内町郷土資料館、芦別市星の降る里百年記念館に、展示品借用についての協力を得た。

また、企画展示との関係から、展示室とホールを併用して展示を行っている。

#### 〔千歳市ママチ遺跡出土土面展示〕

国指定重要文化財の「土面」（国保有、昭和63年6月6日指定）を常設展示している。「土面」は、縄文時代晩期終末のもので、昭和61年に千歳市ママチ遺跡から出土した。土面としては最も北方から出土したものである。

#### 〔遺跡調査と保護活用〕

北海道の遺跡分布、遺跡の調査や整理作業の実際、遺物の分析・保存処理の方法などについて展示・解説している。また、国宝や国指定重要文化財の複製品も展示している。

#### 〔石の道具〕

石は人類が最初に利用した素材の一つである。旧石器時代の石の道具は、破片の接合から高度な技術で製作されたことが明らかになっている。遠軽町（旧白滝村）白滝遺跡群、千歳市柏台1遺跡、今金町ピリカ遺跡（国指定史跡）、木古内町新道4遺跡出土の石器、接合資料などを展示した。

また、縄文時代には用途に応じて、それに適した石材を選び、様々な形の石器が作られた。その使用方法を図と復元模型でわかりやすく示している。

#### 〔木の道具〕

木の道具は、通常の遺跡では腐ってしまい残らないが、実際の生活の中では各所に使われていた。そのため、低湿性遺跡など腐食しにくい状況で出土した木の道具は、当時の人々の生活の様子を大変良く伝えてくれる。

千歳市美々8遺跡低湿部のアイヌ文化期の遺物のほか、ユカンボシC15遺跡の板綴舟の舟敷、キウス4遺跡の縄文時代後期の脚付き容器などを展



▲常設展示

示している。展示品は保存処理後の遺物である。

千歳市美々8遺跡低湿部出土品は、平成17年6月9日国指定重要文化財に指定された。その一部を常設展示している。また、美々8遺跡の「美々ムラ」復元模型を置いている。

#### 〔金属の道具〕

金属の道具は、人類が新しく手にしたものの一つである。刀・刀子・鍋等は交易品として北海道に入ってきたものが多く、これら道具類を手に入れるための交易が、北海道社会を変容させる一つの要因となった。

金属製品も腐食しやすい材質であり、展示品は保存処理を行っている。

#### 〔土の道具：土と火の造形〕

粘土を成形し火で焼き上げた土器は、人類が最初に手に入れた火にかけられる容器である。土器の使用により、食材の利用範囲が大きく拡大して、縄文時代の生活の安定がもたらされたと考えられている。

土器には自由な造形ができる粘土を使用しているため、時代とともに文様や形が様々な変化しており、時には機能を超越した、変わった形態や美しさをかもし出すものがある。

#### 〔こころの道具〕

「装いとこころ」：身を飾った装身具には、ヒスイ製、コハク製などの各種玉、玦状耳飾り、土製の耳栓などがあり、当時の人々のおしゃれごろや精神生活の一端をみせてくれる。

「墓と副葬品」：墓の副葬品は、当時の生活用



▲常設展示

具をセットでみせてくれるとともに、当時の人々の「死」に対する恐れ、悲しみなど、「こころ」の一面をのぞかせてくれる。

「動物とひと」：動物意匠の土器、動物形石製品などは、人と動物とのふれあいを感じさせる。表現された動物たちに、何を感じ、何を求めているのか、当時の人々の自然と向き合う生活の一端を考えさせられる。

[キウスの縄文村]

千歳市キウス4遺跡の発掘調査から、周堤墓、盛土遺構、住居跡などをジオラマで復元した。また、合成樹脂で剥ぎ取った盛土遺構土層断面を展示している。盛土遺構の出土遺物には、祭祀に使われたと考えられる赤彩の土器、特殊な形の土器や土製品、玉類、土偶などがある。

[ビデオコーナー]

遺跡についてわかりやすく解説した『ビビちゃんとフクロウ博士の遺跡ってなに』『ビビちゃんとフクロウ博士の発掘体験』『ビビちゃんとフクロウ博士の縄文生活体験』などを常時上映している。

[体験コーナー]

**火起し体験コーナー**：きりもみ式、ひもぎり式、弓ぎり式、まいぎり式による火おこし体験ができる。

**土器コーナー**：土器拓本体験ができる。煮炊きに使った復元土器を展示している。

**石器コーナー**：石器を使ったドングリの皮むき、石器の接合、石器の紙切り体験ができる。石器の材料となる石材見本を展示している。

[常設展示点数一覧]

| 展 示 場 所 ・ コ ー ナ ー |                       | 遺物<br>点数   | パネル・レプリカなど | 合計<br>点数 |     |
|-------------------|-----------------------|------------|------------|----------|-----|
| ホール・展示回廊          |                       | 2          | 30         | 32       |     |
| 常設展示室             | 受付・導入部分               | 3          | 21         | 24       |     |
|                   | 「遺跡調査と保護活用」部分         | 遺跡調査       | 5          | 91       | 96  |
|                   |                       | 遺物の保存と分析   | 2          | 109      | 111 |
|                   | 「石の道具」部分              | 旧石器時代の石器   | 142        | 12       | 154 |
|                   |                       | 縄文時代の石器    | 130        | 15       | 145 |
|                   | 「木の道具」部分              | 縄文時代の木製品   | 6          | 15       | 21  |
|                   |                       | アイヌ文化期の木製品 | 42         | 50       | 92  |
|                   | 「骨の道具」部分              | 3          | 3          | 6        |     |
|                   | 「金属の道具」部分             | 14         | 3          | 17       |     |
|                   | 「土の道具」部分              | 161        | 28         | 189      |     |
|                   | 「こころの道具」部分            | 装いとこころ     | 835        | 8        | 843 |
|                   |                       | 墓と副葬品      | 99         | 0        | 99  |
|                   |                       | 動物とひと      | 12         | 9        | 21  |
| 「キウスの縄文ムラ」部分      | 6                     | 3          | 9          |          |     |
| 「新しい時代へ」          | 17                    | 2          | 19         |          |     |
| 「館崎遺跡」            | 64                    | 22         | 86         |          |     |
| 展示ホール             | 特別展示北海道遺跡百選4発掘された縄文の円 | 55         | 47         | 102      |     |
| 屋 外               | エントランスひろば             | 0          | 1          | 1        |     |
|                   | 中庭                    | 0          | 1820       | 1820     |     |
| 合 計               |                       | 1598       | 2289       | 3887     |     |

b 企画展示

①「わかる考古学6

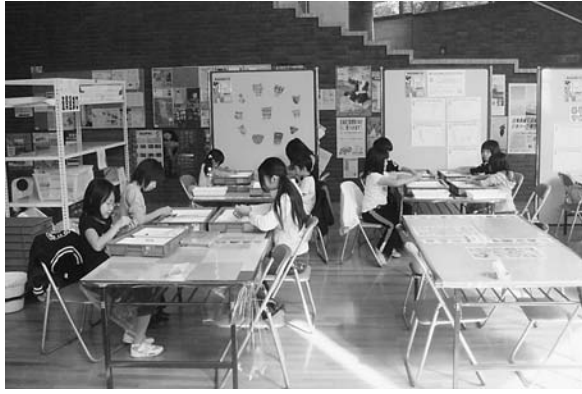
—縄文生活体験ひろば—」展

会 期：平成23年7月2日(土)～10月10日(月)

目 的：体験学習を通して考古学の成果をわかり

やすく紹介する特別展示で、縄文時代の生活を具体的に紹介し、勾玉づくりや土器づくり、石器使用などの体験を通して、埋蔵文化財をより身近なものとして体感できる場とする。

展示場所：ホール・常設展示室・体験コーナー



▲わかる考古学6 —縄文生活体験ひろば—展

〔展示内容〕

【縄文工房】（ホール）

実物を観察し、「カタログ」や「レシピ（つくりかた手順）」を参考にして自分で素材や道具を選び、縄文アクセサリーや土器・土製品をつくる体験ができる。主に以下の内容で製作体験ができる

**縄文ネックレスに挑戦：**いろいろな種類の玉をつくり、組み合わせて腕輪やネックレスにする。

**勾玉をつくる：**滑石を磨いてミニチュア勾玉をつくる。

**丸玉・管玉・臼玉・小玉をつくる：**滑石を磨いていろいろな種類の玉をつくる。

**縄文ペンダントをつくる：**滑石を磨いてペンダント（垂飾）をつくる。

**土製の玉をつくる：**粘土を使って土製玉をつくる。

**耳飾りに挑戦：**粘土や滑石を用いて耳飾り、スタンピング形の飾りをつくる。

**土製耳飾り・耳栓をつくる：**粘土を使って、土製の耳飾りをつくる。

**玦状耳飾りをつくる：**滑石を磨いて玦状耳飾りをつくる。

**土面・土偶をつくる：**土面や土偶を展示室の実物を手本に粘土でつくる体験。

**ミニチュア土器をつくる：**ミニチュア土器を粘土でつくる体験

**布を編む：**復元された縄文時代の方法で布を編む体験。

【体感教室】（展示廊下から体験コーナー、常設展示室）

土器や石器等、縄文時代の各時期の遺物を揃え、触れて観察する場をつくる。また、レプリカを使っ

て道具の使用法を体験する。

**じょうもんタッチ：**土器や石器に触れて観察する。

**縄文模様図鑑をつくる：**本物の縄文土器から模様を写しとる「拓本」に挑戦する。

**火おこし：**きりもみ式、ひもぎり式、弓ぎり式での火おこし体験。

**砂絵で土器を描こう：**砂絵でいろいろな種類の土器を描きます。

**石器を使う：**ナイフで紙や皮を切り、たたき石で木の実をすりつぶすなどの体験

〔展示企画〕 藤井 浩

②「北海道遺跡百選4

発掘された縄文の円

—北の大地に描かれたサークル—展

会 期： 平成23年10月29日（土）

～平成24年3月4日（日）

展示のねらい：特別展示「北海道遺跡百選」は、「遺跡との出会い」をテーマに北海道の代表的な遺跡を紹介するもので、今回は道内全域の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）を対象にしたアンケートで選出された遺跡から、環状列石（ストーンサークル）や周堤墓などの円形を意識した遺構で知られる遺跡群を取り上げた。

これらの遺構は北海道の考古学史の中でも古くから注目され、多くの調査研究がなされてきた。その成果から、北海道における縄文文化を特徴づける貴重な遺構であることもわかってきた。

今回の展示では、各遺構や遺跡の紹介、遺構出土の遺物展示とともに実物の環状列石を部分展示した。縄文の人々が描いた円（サークル）への思いを感じていただきたい。

〔展示内容〕

i 縄文時代の円

土器に見られる円、石で描く円、土で描く円  
縄文土器に見られる円（縄文人こだわりの円をいくつみつけられますか？）；八雲町野田生1遺跡出土赤彩注口土器（複製）、千歳市キウス4遺跡出土注口土器（盛土遺構出土）。

ii 石で描く円：環状列石（ストーンサークル）  
道内各地の環状列石をパネルで紹介；余市町・



▲北海道遺跡百選4 発掘された縄文の円

小樽市西崎山環状列石（道史跡）、小樽市地鎮山環状列石（道史跡）、小樽市忍路環状列石（国史跡）、ニセコ町曾我環状列石、深川市音江の環状列石（国史跡）、旭川市神居古潭5遺跡、森町鷺ノ木遺跡（国指跡）、斜里町オクシベツ3遺跡、知内町湯の里5遺跡など。

iii 知内町湯の里5遺跡の環状列石

実物大の環状列石を室内で展示紹介

iv 土で描く円：周堤墓

道内各地の周堤墓をパネルで紹介；苫小牧市美沢1遺跡、千歳市美々4遺跡、千歳市末広遺跡、千歳市丸子山遺跡、千歳市キウス4遺跡、千歳市キウス周堤墓群（国史跡）、恵庭市柏木B遺跡、芦

別市野花南周堤墓、斜里町斜里朱円周堤墓、標津町伊茶仁チシネ第3 堅穴群遺跡、標津町伊茶仁ふ化場第1 遺跡、標津町伊茶仁カリカリウス遺跡など。

常設展示室では、美々4 遺跡、キウス4 遺跡の周堤墓から出土した遺物を展示。

〔展示企画〕 藤井 浩

③財団法人北海道埋蔵文化財センター平成22年度発掘調査成果展

会 期：平成23年3月26日（土）～6月5日（日）  
 展示のねらい：財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成22年度に実施した発掘調査成果について、出土した遺物や写真、パネルなどにより紹介した。  
 展示場所：常設展示室・ホール

〔展示内容〕

【遺物と説明パネル・写真パネルで紹介】

（展示室）

根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群：縄文時代早期条痕文土器、石刃鎌（キウス4・下幌呂1と共同展示）、アイヌ文化期の貝塚。

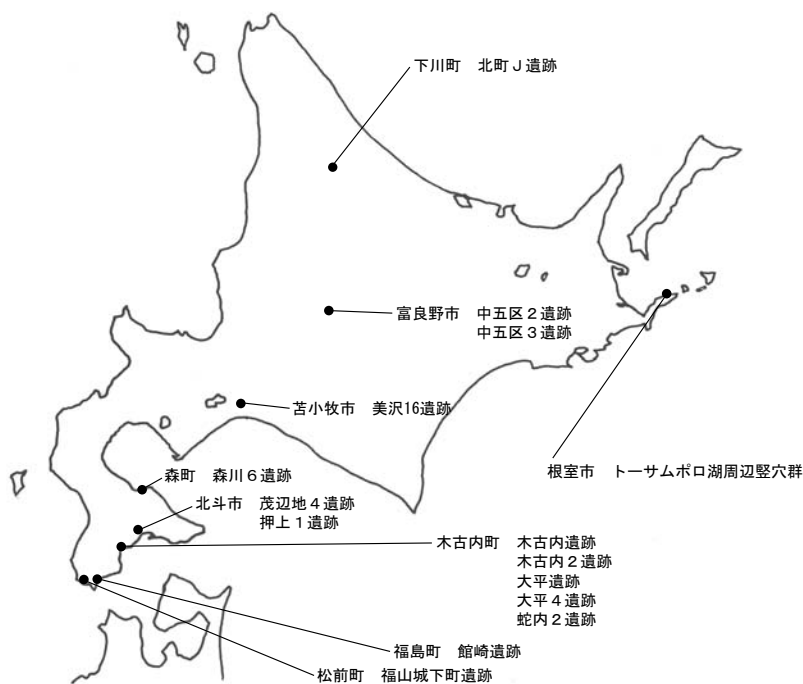
千歳市キウス5遺跡：続縄文土器。

千歳市祝梅川上田遺跡：続縄文土器。

富良野市中五区2・3遺跡：舟形土器、石器。

鶴居村下幌呂1遺跡：四脚付浅鉢土器、縄文土器。

斜里町斜里朱円周堤墓及びその出土遺物。



▲発掘調査成果展 展示遺跡の位置



▲発掘調査成果展（展示室）

（ホール）

木古内町大平遺跡：擦文土器。

木古内町木古内遺跡：擦文土器。

木古内町木古内 2 遺跡：縄文土器、石器、礫。

北斗市館崎遺跡：縄文土器、玦状耳飾り、土偶。

北斗市館野 2 遺跡：A・B 地区土器収納状況（作業展示）。

**【説明パネル・写真パネルで説明】**

（展示室）

松前町福山城下町、下川町北町丁遺跡、森町森川 6 遺跡、保存処理・分析関係。

（ホール）

苫小牧市美沢16遺跡、木古内町大平 4 遺跡、木古内町蛇内 2 遺跡、北斗市押上 1 遺跡、北斗市茂辺地遺跡。

〔展示企画〕 財団法人北海道埋蔵文化財センター調査部

**④世界遺産をめざす北の縄文展**

会 期：通年

（平成22年 4 月 1 日～平成25年 3 月31日）

展示のねらい：北海道は北東北 3 県と連携して「北の縄文文化回廊づくり」や遺跡群の世界文化遺産登録へ向けての取り組みを行っている。北海道立埋蔵文化財センターはこれに連携して、世界遺産登録をめざす北海道・北東北 3 県の縄文遺跡群についての展示を行い、広く道民や道外からの観光客に情報発信する。これにより、北海道の歴史的風土の理解を図るとともに、世界文化遺産登



▲発掘調査成果展（ロビー）

録推進の取り組みへの理解を深めていただく。

展示場所：アプローチ南側

〔展示内容〕

**【常 設】**

・「開催にあたって」「津軽海峡と縄文文化」「北日本文化圏」「世界遺産登録をめざして」など。

**【展示遺跡】**

北海道：北黄金貝塚、入江・高砂貝塚、鷺ノ木遺跡、大船遺跡

青森県：三内丸山遺跡、小牧野遺跡、是川石器時代遺跡、長七谷地貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚、二ツ森貝塚、大平山元 I 遺跡

岩手県：御所野遺跡

秋田県：大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡など

\* 展示遺跡・展示物品は随時更新する。また、各道県の動向の紹介、イベントなどの案内を行う。

〔展示企画〕 倉橋直孝



▲世界遺産をめざす北の縄文展

## (2) 資料の特別利用等

### a 特別利用一覧

| 番号 | 利用 者                             | 使用目的        | 利 用 資 料 名  | 備 考 |
|----|----------------------------------|-------------|--|-----|
| 1  | 原田直樹                             | 舞台劇<br>主題   | ママチ遺跡出土土面レプリカ、赤彩土偶レプリカ、国宝土偶レプリカ、美々4遺跡出土土偶                            |     |
| 2  | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 3  | 大韓民国・勸忠清道文化財研究院 張浩秀ほか3名          | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 4  | 東京大学大学院<br>人文社会系研究科博士課程<br>役重みゆき | 資料調査        | 千歳市柏台1遺跡出土資料   |     |
| 5  | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 6  | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 7  | 福井県立若狭歴史民俗資料館<br>齋本真友美           | 特別展<br>資料調査 | キウス5遺跡C地区土器・石器、キウス5遺跡C地区ジオラマ、キウス5遺跡植状木製品、キウス4遺跡把手付容器、ユカンボシC15遺跡北筒式土器 |     |
| 8  | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 9  | 北海道大学アイス・先住民研究<br>センター 鈴木健治      | 資料調査        | 千歳市キウス遺跡出土土器   |     |
| 10 | 奈良文化財研究所 加藤真二                    | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器、柏台1遺跡出土石器、アンカリトー7遺跡出土石器、オリイカ2遺跡出土石器、オサツ16遺跡出土石器            |     |
| 11 | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 12 | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 13 | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 14 | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 15 | HBC北海道放送報道局報道部<br>粥川 暁           | 資料調査        | 千歳市キウス5遺跡シカ狩猟の柵復元模型  |     |
| 16 | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 17 | 鹿児島県教育委員会<br>赤井文人                | 資料調査        | オリイカ2遺跡・アンカリトー7遺跡出土旧石器   |     |
| 18 | 南山大学人文学部人類化学科<br>坂口 隆            | 資料調査        | 美々4遺跡・キウス7遺跡・キウス5遺跡・キウス4遺跡・西島松5遺跡出土注口土器                              |     |
| 19 | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 20 | 中国社会科学院考古学研究所<br>王小慶             | 資料調査        | 柏台1遺跡・オリイカ2遺跡・アンカリトー7遺跡・祝梅川上田遺跡・オサツ16遺跡出土旧石器                         |     |
| 21 | 奈良文化財研究所 加藤真二                    | 資料調査        | 西島松5遺跡出土土器   |     |
| 22 | ㈱テイクワン 相澤 毅                      | 撮影・閲覧       | 常設展示 後北式土器   |     |
| 23 | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 24 | 北海道大学 高倉 純                       | 資料調査        | 白滝遺跡群出土石器  |     |
| 25 | 北海道立北方民族博物館<br>角 達之助             | 資料調査        | 千歳市美々8遺跡出土擦文土器ほか   |     |
| 26 | 奈良県立橿原考古学研究所<br>光石鳴巳             | 資料調査        | 千歳市オサツ16遺跡・柏台1遺跡・オリイカ2遺跡出土旧石器  |     |

### b 模写品等使用承認一覧

| 番号 | 申 請 者                               | 使 用 目 的   | 利 用 資 料 名 ・ 点 数                      | 備 考 |
|----|-------------------------------------|---|--------------------------------------|-----|
| 1  | 岩宿博物館<br>館長 小菅将夫                    | 岩宿博物館常設展示図録『岩宿時代』（改訂版）に使用   | 白滝黒曜石原産地（赤石山）と白滝遺跡群航空写真 写真デジタルデータ1点  |     |
| 2  | 株式会社アムプロモーション<br>代表取締役 横山光衛         | カレンダー「縄文土器」（仮称）に使用  | 八雲町野田生1遺跡出土赤塗注口土器写真ほか 写真デジタルデータ2点    |     |
| 3  | 特定非営利活動法人<br>三内丸山縄文発信の会<br>理事長 藤川直迪 | 『縄文ファイル』188号（6月号）に使用  | 千歳市キウス1号周堤墓全景写真 写真デジタルデータ1点          |     |
| 4  | 北海道新聞出版局<br>局長 藤崎貞信                 | 『北海道の歴史』（上巻）に使用   | 遠軽町白滝8遺跡出土小型剥片石器・石核写真ほか 写真デジタルデータ46点 |     |
| 5  | NPO法人ふるさと文化研究会<br>理事長 安藤 操          | 縄文検定テキスト『縄文文化の魅力』に使用  | 千歳市キウス4遺跡盛土写真 写真デジタルデータ1点            |     |
| 6  | 北海道文化財保護協会<br>会長 舟山廣治               | 北海道文化財保護協会50周年記念誌『文化財保護のあゆみ』に使用                                       | 遠軽町上白滝2遺跡出土尖頭器写真 写真デジタルデータ1点         |     |
| 7  | 伊達市噴火湾文化研究所<br>所長 大島直行              | 中央バスグループ誌『ふれあい』No.338に使用  | 千歳市キウス4遺跡周堤墓出土の遺物（X-10）写真ほか 写真転載2点   |     |
| 8  | 津南町教育委員会<br>教育長 桑原 正                | 津南町農と縄文の体験学習館なじよもんにおける秋季企画展「植物繊維を「編む」—アングンの里津南の編み技術と歴史—」展示及びリーフレットに使用 | 恵庭市柏木川4遺跡出土編布写真 写真デジタルデータ1点          |     |
| 9  | 福井県立若狭歴史民俗資料館<br>館長 大橋正博            | 平成23年度特別展にて図録掲載等に使用するため   | 小樽市忍路土場遺跡出土黒塗塗壁櫛写真ほか 写真デジタルデータ44点    |     |
| 10 | 弘前学院大学地域総合文化研究<br>所 所長 笹森建英         | 「縄文時代の出土篋形木製品の研究」のための資料として利用  | 小樽市忍路土場遺跡出土篋状木製品・木製品写真 写真デジタルデータ2点   |     |
| 11 | 福島市教育委員会<br>教育長 佐藤俊市郎               | 特別展「縄文人の祈りの世界」展示パネル及び展示図録に使用  | 恵庭市柏木川4遺跡出土手形・足形付土製品写真 写真デジタルデータ1点   |     |

| 番号 | 申請者  | 使用目的  | 利用資料名・点数                                | 備考 |
|----|--|---|---|----|
| 12 | 八戸市教育委員会 教育長<br>松山隆豊                         | 特別展「縄文至宝展」展示資料及び展示図録に使用                             | 千歳市ママチ遺跡全景写真ほか 写真デジタルデータ15点             |    |
| 13 | NHK旭川放送局<br>番組制作専任ディレクター<br>田辺陽一             | NHK番組 北スペシャル『北海道古代ミステリー』に使用                         | 奥尻町青苗砂丘遺跡発掘現場写真ほか 写真デジタルデータ13点          |    |
| 14 | Teresa Krauss<br>(代理人 坂口 隆)                  | 『Joufnal of World Prehistory』巻頭写真に使用                | 千歳市ママチ遺跡出土土面写真 写真デジタルデータ1点              |    |
| 15 | 株式会社インテリジェント・リンク<br>代表取締役 森影 依               | 『北の縄文講座—縄文人はどこからきたか』に使用                             | 遠軽町白滝遺跡群出土石器写真 写真デジタルデータ6点              |    |
| 16 | 特定非営利活動法人<br>ジョーモネスクジャパン事務局<br>理事長 小林達雄      | 特定非営利活動法人ジョーモネスクジャパン公式ウェブサイトを使用                     | 八雲町野田生1遺跡出土赤塗注口土器写真 写真デジタルデータ2点         |    |
| 17 | 苫小牧市博物館<br>館長 荒川忠宏                           | 企画展「縄文の史跡をめぐる」パネル、ポスター、チラシなどに使用                     | 千歳市美々4遺跡出土動物形土製品写真ほか 写真デジタルデータ3点        |    |
| 18 | 東京大学大学院<br>人文社会系研究科<br>設楽博己                  | 『設楽博己考古遺物コレクション』(仮題)に使用                             | 八雲町野田生1遺跡出土赤塗土器写真 写真デジタルデータ1点           |    |
| 19 | 北海道開拓記念館<br>館長 堀 達也                          | 図録『北の土偶—縄文の祈りと心—』、ポスター、北海道開拓記念館ホームページなどに使用          | 千歳市美々4遺跡出土土偶写真ほか 写真撮影3点 写真デジタルデータ3点 計6点 |    |
| 20 | 恵庭市教育委員会<br>教育長 穂積邦彦                         | 特別展「縄文の布」展 展示パネルに使用                                 | 恵庭市柏木川4遺跡出土布製品写真ほか 写真デジタルデータ16点         |    |
| 21 | 千歳市教育委員会<br>教育長 小林義知                         | 『千歳市遺跡地図』に使用  | 千歳市キウス周堤墓群1号墓写真 写真デジタルデータ1点             |    |
| 22 | 春日部市教育委員会<br>教育長 植竹英生                        | 『春日部市史 庄和地域 原始・古代・中世・近世』に使用                         | 千歳市キウス4遺跡出土木製脚付皿写真 写真デジタルデータ2点          |    |
| 23 | 遠軽町長 佐々木修一                                   | 遠軽町白滝ジオパーク交流センター展示パネルに使用                            | 遠軽町白滝遺跡群と北大雪連峰写真 写真デジタルデータ1点            |    |
| 24 | 北海道経済部観光局参事(国内誘客)                            | 『北海道アウトドアテキスト(基礎編)』に使用                              | 遠軽町上白滝2遺跡出土細石刃など写真 写真デジタルデータ1点          |    |
| 25 | 北翔大学短期大学部<br>菊地達夫                            | 北翔大学『北方圏学術情報センター年報』第4号に使用                           | 千歳市美々4遺跡出土ヒスイ玉など写真 写真撮影10点              |    |
| 26 | 秋田県埋蔵文化財センター<br>所長 高橋 務                      | 中学生向け冊子『北の縄文文化とストーン・サークル』に使用                        | 千歳市美々8遺跡(P-23)写真ほか 写真デジタルデータ2点          |    |
| 27 | 独立行政法人国立文化財機構<br>奈良文化財研究所飛鳥資料館<br>館長 松村恵司    | 飛鳥資料館平成24年度春期特別展「比羅夫がゆく—飛鳥時代の武器・武具・いくさ—」の図録掲載・広報のため | 恵庭市西島松5遺跡P-98出土品写真など 写真デジタルデータ3点        |    |
| 28 | 実教出版株式会社 沢見晶子                                | 高等学校用検定教科書に掲載                                       | 遠軽町服部台2遺跡出土細石刃核写真 写真デジタルデータ2点           |    |
| 29 | 北海道環境生活部くらし安全局<br>道民生活文化振興課<br>世界遺産推進室長 村井 篤 | 『カックウと学ぶ北の縄文文化』に使用のため                               | 千歳市美々4遺跡堅穴群調査終了状況写真ほか 写真デジタルデータ7点       |    |
| 30 | 名久井文明  | 『古老が伝えた縄文技術』(仮題)に使用                                 | 小樽市忍路土場遺跡出土樹皮製容器写真 写真デジタルデータ1点          |    |
| 31 | 北海道環境生活部くらし安全局<br>道民生活文化振興課<br>世界遺産推進室長 村井 篤 | 「北の縄文展2012 新千歳空港」解説パネルに使用                           | 森町森川3遺跡堅穴住居群調査状況写真ほか 写真デジタルデータ11点       |    |
| 32 | 北海道環境生活部くらし安全局<br>道民生活文化振興課<br>世界遺産推進室長 村井 篤 | 「赤れんが縄文回廊」解説グラフィック及びリーフレットに使用                       | 森町森川3遺跡堅穴住居群調査状況写真ほか 写真デジタルデータ11点       |    |

### c 資料貸出承認一覧

| 番号 | 申請者   | 使用目的  | 貸出資料名・点数  | 備考   |
|----|---|---|---|--|
| 1  | 北海道渡島総合振興局<br>局長 寺山 朗                         | 「北の縄文パネル展」にて展示のため   | 解説パネル・写真パネル35点  |  |
| 2  | 八戸市教育委員会<br>教育長 松山隆豊                          | 是川縄文館開館記念特別展「縄文至宝展」の展示資料とするため                               | 美々4遺跡出土翡翠製玉類99点、美々4遺跡出土石棒3点、ママチ遺跡出土土面1点(国所有重要文化財)、計103点                       | ママチ遺跡出土土面については文化庁からの指示に基づく。                |
| 3  | 北海道渡島総合振興局<br>局長 永井正博                         | 「北の縄文パネル展」にて展示のため   | 解説パネル・写真パネル(北の縄文展)36点   |  |
| 4  | 北海道開拓記念館<br>館長 堀 達也                           | 北海道開拓記念館40周年記念事業「北の土偶—縄文の祈りと心」の展示資料としての利用                   | 千歳市美々4遺跡出土土偶1点、木古内町新道4遺跡出土土偶(木古内町所有)1点  | 重要文化財千歳市ママチ遺跡出土土面(1点)は文化庁の承認があり次第、承認いたします。 |
| 5  | 九州国立博物館<br>館長 三輪嘉六                            | 九州国立博物館文化交流展示「海の道、アジアの道」に陳列のため                              | 千歳市キウス4遺跡出土土器5点、千歳市ママチ遺跡出土土器3点、千歳市キウス遺跡出土土器1点、千歳市オサツ2遺跡出土土器4点、合計13点           |  |
| 6  | 札幌市観光文化局<br>文化部長 杉本雅章                         | 札幌市埋蔵文化財センター公開シンポジウム「遺跡の保存と整備・活用 さとらんど遺跡公園整備に向けて」共催展で展示するため | 国宝中空土偶(函館市著保内野遺跡出土)複製1点   |  |
| 7  | 独立行政法人<br>国立文化財機構<br>奈良文化財研究所飛鳥資料館<br>館長 松村恵司 | 平成24年度春期特別展「比羅夫が行く—飛鳥時代の武器・武具・いくさ—」展に展示のため                  | 恵庭市西島松遺跡P98出土注口土器1点、恵庭市西島松遺跡P98出土深鉢1点、恵庭市西島松遺跡P11出土深鉢1点、恵庭市西島松遺跡P10出土深鉢2点、計5点 |  |
| 8  | 北海道開拓記念館<br>館長 堀 達也                           | 北海道開拓記念館展示資料としての利用(北の土偶—縄文の祈りと心 展)                          | 重要文化財千歳市ママチ遺跡土面   |  |

### (3) 考古学教室

#### a 考古学入門講座—遺跡へいってみよう—

〔日 時〕平成23年5月14日（土）

13：30～15：30

〔講 師〕財団法人北海道埋蔵文化財センター  
普及活用課主査 倉橋直孝

〔参加者〕18名（うち道民カレッジ講座参加者6名）

〔内 容〕北海道教育委員会のホームページ内にある「北の遺跡案内」、グーグルマップやグーグルアース、江別市教育委員会発行の『江別の遺跡をめぐる』など、身近にある遺跡を歩いてみるために役立つツールを紹介した。

その紹介したツールで江別市大麻・文京台地区にある遺跡群を擬似散歩した。また、江別市大麻・文京台地区の遺跡から江別の歴史をたどってみた。

昨年度実施の「考古学入門講座—考古学情報探索（中級編）—」の発展・実践編である。中学生～成人を対象とした。

#### b ガラス玉づくり

〔日 時〕平成23年6月18日（土）

13：30～15：30

〔講 師〕装飾タイル作家 宮崎幸子

〔参加者〕15名（うち道民カレッジ講座参加者1名）

〔内 容〕北海道の遺跡からは様々なガラス玉が出土する。ガラス玉がどのように作られていったのか、色の取り合わせがどのようになされるのかなどを解明するためには、製作技法を理解することが重要である。

ガラス玉の歴史を学ぶとともに、ガスバーナーと市販のガラス棒を使った方法で、実際に丸い玉を作って、整形の難しさ、大きな玉を作ることの難しさなどを体験した。展示室及びバックヤードツアーを行った。成人を対象とした。

#### c 模型で学ぶ縄文の家づくり

〔日 時〕平成23年10月8日（土）

13：30～15：30

〔講 師〕財団法人北海道埋蔵文化財センター  
普及活用課主査 藤井 浩

〔参加者〕15名（うち道民カレッジ講座参加者4名）

〔内 容〕スライドを用いて竪穴住居の仕組みや変遷、調査の方法などを学び、その理解の補助手段として模型づくりを行った。実験的に屋根葺きの作業を加えた。成人を対象とした。

#### d 石器づくり

〔日 時〕平成23年11月26日（土）

13：30～15：30



▲ガラス玉づくり



▲模型で学ぶ縄文の家づくり



▲石器づくり

〔講 師〕財団法人北海道埋蔵文化財センター第  
1 調査部第4 調査課主任 直江康雄

〔参加者〕12名（うち道民カレッジ講座参加者4名）

〔内 容〕石器がどのようにつくられ、どのように使われてきたのかを実物を通して紹介し、実際に黒曜石を素材にした石器づくりを行った。手持



▲親子ガラス玉づくり



▲夏休み親子考古学教室 1



▲夏休み親子考古学教室 2

ちナイフを例として石器づくりの基本原理や刃部の作り方などの石器づくりの概要を説明した後、素材剥片を取る実習、刃潰し加工によるナイフ製作実習や押圧加工による石鏃の製作実習を行った。成人を対象とした。

#### e 拓本講座

[日 時] 平成24年2月18日(土)

13:30~15:30

[講 師] 財団法人北海道埋蔵文化財センター  
普及活用課主査 藤井 浩

[参加者] 9名(うち道民カレッジ講座参加者2名)

[内 容] 墨と画仙紙を使って土器の文様を写しとる「拓本」の講座。乾拓と湿拓の違いを体験した後、拓本実習を行った。土器の破片から全体像を想像できること、時期によって様々な形や模様があることを知っていただくために復元土器の時代並べのクイズを行った後、縄文時代早期から擦文時代まで各時期の土器片の拓本に挑戦した。

#### (4) こども考古学教室

##### a 親子ガラス玉づくり

[日 時] 平成23年6月25日(土)

13:30~15:30

[講 師] 装飾タイル作家 宮崎幸子

[参加者] 23名(うち中学生以下13名)

[内 容] 親子を対象としたガラス玉づくりで、内容は一般向けのガラス玉づくりとほぼ同内容である。展示室及びバックヤードツアーも行った。

##### b 夏休み親子考古学教室 第1回・第2回

[日 時] 第1回 平成23年7月23日(土)

第2回 平成23年7月30日(土)

いずれも13:30~16:00

[参加者] 第1回 48名(うち中学生以下28名)

第2回 48名(うち中学生以下25名)

[内 容] 火おこし体験と勾玉づくりを中心にした、小中学生の親子向けの考古学入門講座。展示収蔵庫見学・バックヤードツアー・展示室探検オリエンテーリング・勾玉づくり・火おこし体験などを行った。

[企 画] 藤井 浩

##### c 写生会「ビビちゃんと描く縄文の世界」

[期 日] 平成23年7月2日(土)~10月10日(月・祝)

[目 的] 埋蔵文化財センターにある遺物や展示物などを写生することで、埋蔵文化財と深く触れあう機会を提供し、埋蔵文化財保護への理解を深めてもらう。

[参加者] 92名(147作品)

[内 容] 絵の道具(水彩絵の具・クレヨン・鉛筆など)を持参してもらい、当方で用意した画用紙に埋蔵文化財センターにある土器・石器等の遺物、展示物を題材に写生会を実施した。作品は当センターにて展示させていただいた。

[企画] 藤井 浩

#### d 冬休み縄文生活体験ひろば

[期 日] 平成24年1月4日(火)～3月4日(日)

[目 的] 体験学習を中心にした考古学入門講座を通して、埋蔵文化財への関心を高める。

[内 容] 勾玉づくりやアクセサリーづくりなど、主に縄文時代の道具づくりを通して、当時の生活を体感する。実際には「カタログ」「レシピ(つくりかた手順)」を参考に、自分で選んだ素材や道具を用いて道具をつくる。主に以下の製作体験を準備した。

「勾玉・丸玉・管玉・白玉・小玉をつくる」、「耳飾りに挑戦」、「土面や土偶をつくる」、「ミニチュア縄文土器づくりに挑戦」、「縄文時代の布編みに挑戦」「拓本体験」「火おこしに挑戦しよう」、「小さな小さな発掘体験」。

[企画] 藤井 浩

#### e 冬休み親子写真撮影会

[期 日] 平成24年1月4日(火)～3月4日(日)

[目 的] 親子で埋蔵文化財センターにある遺物や展示物などを写真に撮影することで、埋蔵文化財と深く触れあう機会を提供し、埋蔵文化財保護への理解を深めてもらうことを目的とした。作品は当センターにて展示させていただいた。

[参加者] 18名(24作品)

[企画] 藤井 浩

#### f 冬休み親子考古学教室 第1回・第2回

[期 日] 第1回 平成24年1月7日(土)

第2回 平成24年1月14日(土)

[参加者] 第1回 10名(うち中学生以下5名)

第2回 4名(うち中学生以下2名)

[内 容] 火おこし体験と勾玉づくりを中心にした、小中学生の親子向けの考古学入門講座。展示収蔵庫見学・バックヤードツアー・展示室探検オリエンテーリング・勾玉づくり・火おこし体験などを行った。

[企画] 藤井 浩

### (5) 市町村出前講座

#### a 事業目的

完全学校週5日制に対応し、土曜日や日曜日の休日に、市町村教育委員会との連携の下で、子供たちにとってわかりやすく地域の歴史や文化を説明するとともに、それらを大切にすることを養い、体験学習を通じて豊かな人間性や多様な個性を育むことを目的とする。



▲冬休み縄文生活体験ひろば



▲冬休み親子考古学教室1

これまで、道立センター内で行ってきた考古学教室を、全道の市町村に出向いて地元教育委員会と連携を図って実施することにより、市町村独自事業実施の契機となるよう努める。

#### b 事業内容

##### ①地域の遺跡を学ぶ—実物にふれてみよう—

地元市町村出土の遺物や北海道立埋蔵文化財センター保管の土器・石器類に実際に触れてもらいながら、地元市町村の埋蔵文化財についての説明を行う。あわせて、埋蔵文化財紹介のビデオ『遺跡ってなーに』を鑑賞する。

##### ②体験学習 —勾玉づくり—

子供たちの歴史・文化に対する関心をより高めるために、縄文時代等にアクセサリーとして使用されていた「勾玉」を、滑石を材料に紙ヤスリなどで実際に製作する。また、時間の許す限り、石器(黒曜石破片)での紙切り、火おこしなどの体験学習を行う。



▲函館市での出前講座



▲旭川市での出前講座



▲浦幌町での出前講座



▲真狩村での出前講座

### c 実施市町村一覧

#### 考古学教室出前講座（事業分）

|   | 市町村 | 実施場所      | 実施日             | 参加人数 | 担当    | 備考                                    |
|---|-----|-----------|-----------------|------|-------|---------------------------------------|
| 1 | 共和町 | 共和町かかし古里館 | 平成23年7月2日(土)    | 10名  | 鎌田・倉橋 | 共和町かかし古里館土曜日講座<br>考古学出前教室「勾玉づくり」      |
| 2 | 函館市 | 函館市立朝日小学校 | 平成23年7月20日(水)   | 49名  | 鎌田・倉橋 | 6年生2クラスの2～4校時<br>授業「勾玉づくり」            |
| 3 | 浦幌町 | 浦幌町立博物館   | 平成23年7月24日(日)   | 20名  | 倉橋・藤井 | こども考古学教室                              |
| 4 | 旭川市 | 旭川市博物館    | 平成23年8月6日(土)    | 37名  | 倉橋・藤井 | 勾玉づくりに挑戦                              |
| 5 | 池田町 | 池田町教育委員会  | 平成23年9月17日(土)   | 13名  | 鎌田・藤井 | 第6回わんぱく体験塾「考古学<br>教室—地域の遺跡を学ぶ—」       |
| 6 | 真狩村 | 真狩村公民館    | 平成23年11月16日(水)  | 45名  | 倉橋・藤井 | 真狩村文化財保護審議委員主催 真狩<br>村学童保育「おひさまクラブ」事業 |
| 7 | 稚内市 | 稚内市少年自然の家 | 平成24年2月19日(日)予定 | —    | 鎌田・藤井 | インフルエンザ流行により中止                        |

#### 考古学教室出前講座（依頼分）

|   | 市町村  | 実施場所        | 実施日            | 参加人数 | 担当 | 備考                            |
|---|------|-------------|----------------|------|----|-------------------------------|
| 1 | 北広島市 | 北広島市中央公民館   | 平成23年7月10日(日)  | 120名 | 藤井 | 第13回ワクワク公民館子ども<br>まつり         |
| 2 | 札幌市  | 札幌市立平岡公園小学校 | 平成23年10月15日(日) | 40名  | 藤井 | 平岡公園小学校ふれあい空間                 |
| 3 | 当別町  | 当別町立当別小学校   | 平成23年10月29日(土) | 25名  | 藤井 | 当別町地域子ども教室わくわ<br>くキッズこども考古学講座 |

## (6) 講演会・報告会

### a 財団法人北海道埋蔵文化財センター 平成22年度発掘調査報告会

[日 時] 平成23年4月9日(土) 13:30~16:30

[会 場] 2階研修室

[内 容] 平成22年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターが調査を行った遺跡のうち、下記の遺跡について、スライドを使用して発掘成果の報告を行った。

また、3月26日(土)から開催している特別展示「財団法人北海道埋蔵文化財センター平成22年度発掘調査成果展」の会場である展示室では、報告者による展示解説を行った。

- |                  |      |
|------------------|------|
| ①根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群 | 広田良成 |
| ②森町森川6遺跡         | 土肥研晶 |
| ③福島町館崎遺跡         | 影浦 覚 |
| ④木古内町木古内遺跡       | 愛場和人 |
| ⑤木古内町木古内2遺跡      | 阿部明義 |
| ⑥木古内町大平遺跡        | 酒井秀治 |
| ⑦松前町福山城下町遺跡      | 菊池慈人 |

[参加者] 72名(うち道民カレッジ講座参加者16名)

[企 画] 財団法人北海道埋蔵文化財センター調査部

### b 秋季講演会

「文化財を守り、伝える喜びとむずかしさ」

[日 時] 平成23年10月22日(土) 13:30~15:30

[会 場] 2階研修室

[講 師] 前奈良文化財研究所所長・奈良県立大学特任教授 田辺征夫 氏

[内 容] 北海道などの指定調査で思ったこと、150年の研究と100年の保存運動史をもつ第一次大極殿の復原と平城京遷都1300年際の成功、高松塚古墳・キトラ古墳の壁画保存、長屋王邸宅の調査と保存、世界遺産の問題について解説していただいた。

[参加者] 68名(うち道民カレッジ10名)

[企 画] 倉橋直孝

### c 冬季講演会

「北海道埋蔵文化財行政の黎明期 旭川市」

[日 時] 平成23年12月10日(土) 13:30~15:30

[会 場] 2階研修室

[講 師] 三浦綾子記念文学館副館長  
齊藤 傑 氏

[内 容] 北海道の埋蔵文化財の緊急調査を支えた方々に、それぞれの担当した市町村での仕事をふりかえっていただく企画。今回は旭川市の緊急発掘について解説していただいた。

[参加者] 53名(うち道民カレッジ5名)

[企 画] 倉橋直孝



▲秋季講演会ポスター



▲冬季講演会ポスター

## (7) 教育連携講座

小・中学校、大学及び社会教育団体等を対象とする体験型教育連携講座を11回実施した。内訳は小学校1回、中学校3回、大学4回、教育局1回、研究所1回、郷土資料館1回である。

収蔵庫・展示収蔵庫や展示室見学の後、勾玉づくり、土器ハンズオン、バーチャル遺跡見学、展示遺物スケッチ、砂絵、リトルプレスなど多岐にわたる体験講座を、2階研修室で実施した。

実施日、事業名、内容、参加人数については、下の「教育連携講座実施一覧」に記載した。表中の内容の欄には主な体験項目を記した。

## (8) 共催・協力など

### a 財団法人北海道生涯学習協会

#### 「ほっかいどう学」かでの移動講座

移動講座全10回のうちの6・8・9回目を、財団法人北海道生涯学習協会との共催で実施した。

#### ①「世界文化遺産と北の縄文遺跡」

日時：平成23年7月27日（水）13：30～15：30  
会場：2階研修室  
内容：世界遺産を概観しながら、北海道と北東北の縄文遺跡が世界遺産登録となる可能性について考えた。

講師：副所長 畑 宏明

参加者：29名

#### ②「北海道・遺跡発掘物語」

日時：平成23年8月24日（水）13：30～15：30  
会場：2階研修室

内容：財団法人北海道埋蔵文化財センターが調査した代表的な遺跡を取り上げ、発掘調査の様子をわかりやすく紹介した。

講師：第1調査部普及活用課長 鎌田 望

第1調査部普及活用課主査 倉橋直孝

第1調査部普及活用課主査 藤井 浩

#### ③「竪穴住居入門」

日時：平成23年9月8日（水）13：30～15：30  
会場：2階研修室

内容：ミニチュアの竪穴住居模型づくりを通じて、その仕組みや変遷、調査の方法を解説した。

講師：第1調査部普及活用課主査 藤井 浩

### b 北海道文化財保護協会

#### 「子どもの文化財愛護推進事業」

北海道文化財保護協会の「子どもの文化財愛護推進事業」に協力し、8月2日（火）に中富良野町、9月10日（土）に雨竜町で、講演と勾玉づくりを中心とした出前講座を実施した。

#### ①中富良野公民館講座

日時：平成23年8月2日（火）9：30～12：00

会場：中富良野町公民館

対象：小学生以上

## 教育連携講座

| 番号 | 実施日            | 事業名  | 内容                   | 参加人数 |
|----|----------------|--|----------------------|------|
| 1  | 平成23年5月12日(木)  | 積丹町立美国中学校体験学習                                | 勾玉                   | 16名  |
| 2  | 平成23年5月25日(水)  | 石狩市立石狩小学校体験学習                                | 勾玉                   | 18名  |
| 3  | 平成23年5月27日(金)  | 石狩教育局初任者研修校外研修                               | 勾玉、バーチャル遺跡見学         | 17名  |
| 4  | 平成23年7月7日(木)   | 札幌学院大学鶴丸先生講義利用韓国留学生体験学習                      | 勾玉                   | 40名  |
| 5  | 平成23年7月20日(水)  | 北海道教育大学附属札幌中学校体験学習                           | 勾玉                   | 10名  |
| 6  | 平成23年9月6日(火)   | 江別市郷土資料館博物館実習                                | 勾玉                   | 8名   |
| 7  | 平成23年9月8日(木)   | 江別市立大麻東中学校特別支援学級体験学習                         | 勾玉                   | 26名  |
| 8  | 平成23年10月18日(火) | 北海道立教育研究所平成23年度「社会科、地理歴史科、公民科教育研修講座」における所外研修 | 勾玉、土器ハンズオン、バーチャル遺跡見学 | 23名  |
| 9  | 平成23年12月11日(日) | 北翔大学菊地先生講義利用                                 | 勾玉                   | 7名   |
| 10 | 平成23年12月11日(日) | 北翔大学菊地先生講義利用                                 | 展示遺物スケッチ、砂絵、リトルプレス   | 8名   |
| 11 | 平成24年1月18日(水)  | 札幌学院大学鶴丸先生講義利用韓国・中国人留学生体験学習                  | 勾玉                   | 58名  |



▲かでの移動講座竪穴住居入門

内 容：北海道文化財保護協会理事のト部信臣氏の講演「文化財を大切にしよう」の後、北海道教育委員会のホームページ「北の縄文案内」を使って中富良野町の遺跡を紹介した。千歳市キウス4遺跡出土勾玉を観察して、勾玉づくりを実施した。  
講 師：第1調査部普及活用課主査 倉橋直孝  
参加者：50名

②2011ちびっこチャレンジ教室 PART 7

日 時：平成23年9月10日（土）9：00～12：00  
会 場：雨竜町公民館  
対 象：小学生とその保護者  
内 容：北海道文化財保護協会理事のト部信臣氏の講演「みんなでむかしのことをまなぼう」の後、北海道教育委員会のホームページ「北の縄文案内」を使って雨竜町の遺跡を紹介した。千歳市キウス4遺跡出土勾玉を観察して、勾玉づくりを実施した。  
講 師：第1調査部普及活用課主査 倉橋直孝  
参加者：22名

c 講師派遣

①由仁町高齢者教養講座「ユニカレッジ」  
「埋蔵文化財を知る—由仁町の遺跡と考古学—」  
依頼元：由仁町教育委員会  
日 時：平成23年7月7日（土）10：30～12：00  
会 場：由仁町文化交流館ふれーる  
対 象：高齢者教養講座 大学1年生・2年生  
内 容：資料とスライドにより、考古学及び遺跡



▲歴史遺産特講「ものから学ぶ」

発掘調査、由仁町内の遺跡、埋蔵文化財保護などについての説明を行った。  
講 師：第1調査部普及活用課主査 藤井 浩

②北広島市エコミュージアム推進事業

まちを好きになる市民大学 講座

歴史遺産特講「遺跡から学ぶ」

依頼元：北広島市教育委員会

日 時：平成23年9月3日（土）10：30～13：00

会 場：北広島市中央公民館

対 象：市民大学二期生

内 容：北広島市エコミュージアム推進事業の一環として行われた市民大学の二期生を対象とした考古学入門講座。チャシを中心に市内の遺跡を紹介し、巡検を行った。

講 師：第1調査部普及活用課主査 藤井 浩

参加者：12名

③北広島市エコミュージアム推進事業

まちを好きになる市民大学 講座

歴史遺産特講「ものから学ぶ」

依頼元：北広島市教育委員会

日 時：平成23年9月10日（土）10：30～12：30

会 場：北広島市中央公民館

対 象：市民大学二期生

内 容：市民大学の二期生を対象とした考古学入門講座の二回目。市内の出土遺物と当センターの遺物を比較し、土器・石器の基本的な特徴を紹介した。また、拓本作業を通して土器の解説を行った。

講 師：第1 調査部普及活用課主査 藤井 浩  
参加者：12名

市内の遺跡について解説できることを目標にした遺跡学習報告会を行った。

講 師：第1 調査部普及活用課主査 藤井 浩  
参加者：12名

④北広島市エコミュージアム推進事業

まちを好きになる市民大学 講座  
エコミュージアム資料論 考古学資料論

依頼元：北広島市教育委員会  
日 時：平成23年11月5日（土）10：30～12：30  
会 場：北広島市中央公民館  
対 象：市民大学三期生  
内 容：市民大学の三期生を対象とした考古学入門講座。考古学や発掘調査の概要、埋蔵文化財の保護についての説明を行った。市内の遺跡や展示されている遺物について紹介した。

講 師：第1 調査部普及活用課主査 藤井 浩  
参加者：20名

(9) 周辺施設との連携

江別市から札幌市北東部に所在する各文化施設と、以下のa～dの連携を行っている。各連携参加状況および参加施設については、下の「周辺施設との連携参加一覧」の通りである。

a 文京台地区道立教育3施設連携

江別市文京台地区にある北海道立図書館、北海道立教育研究所、北海道立埋蔵文化財センターが、今後さらに地域に根ざし、開かれた「施設」を目指すため、各施設機能の連携に努めるとともに、職員の親睦交流を通して相互理解と連帯意識を図ることを目的として平成15年から連携事業を行っている。

今年度も、7月以降に実施する事業を紹介する3施設連携の事業リーフレットを共同で作成した。このリーフレットは7月8日（金）に、文京台第1自治会（約280戸）、文京台第2自治会（約900戸）、文京台東町自治会（約490戸）の計約1670戸に141部回覧した。

⑤北広島市エコミュージアム推進事業

まちを好きになる市民大学 講座  
歴史遺産特講 学習報告会

依頼元：北広島市教育委員会  
日 時：平成23年12月3日（土）10：30～12：00  
会 場：北広島市中央公民館  
対 象：市民大学二期生  
内 容：市民大学の二期生を対象とした考古学入門講座の三回目。エコミュージアムガイドとして

周辺施設との連携参加一覧

| 名 称             | 集まれ！<br>森林公園<br>クイズラリー2011 | 文京台地区<br>道立教育3施設 | 野幌総合運動公園<br>運営連絡協議会<br>(のっぽろ11ネット) | かるちゃんnet<br>(文化施設<br>連絡協議会) |
|-----------------|----------------------------|------------------|------------------------------------|-----------------------------|
| 江別市郷土資料館        |                            |                  |                                    | ○                           |
| 江別市スポーツ振興財団     |                            |                  | ○                                  |                             |
| 野幌自治会           |                            |                  | ○                                  |                             |
| 北海道情報大学         |                            |                  | ○                                  |                             |
| 野幌中学校           |                            |                  | ○                                  |                             |
| 江別市セラミックアートセンター |                            |                  | ○                                  | ○                           |
| 野幌総合運動公園事務所     |                            |                  | ○                                  |                             |
| 酪農学園大学          |                            |                  | ○                                  |                             |
| 北海道立図書館         | ○                          | ○                |                                    | ○                           |
| 北海道立教育研究所       |                            | ○                |                                    | ○                           |
| 札幌学院大学          |                            |                  | ○                                  |                             |
| 北翔大学            |                            |                  | ○                                  |                             |
| 北海道立埋蔵文化財センター   | ○                          | ○                | ○                                  | ○                           |
| 自然ふれあい交流館       | ○                          |                  |                                    | ○                           |
| 道立自然公園野幌森林公園    |                            |                  |                                    | ○                           |
| 北海道開拓記念館        | ○                          |                  |                                    | ○                           |
| 北海道開拓の村         | ○                          |                  | ○                                  | ○                           |
| サンピアザ水族館        |                            |                  |                                    | ○                           |
| 札幌市青少年科学館       |                            |                  |                                    | ○                           |



▲かるちゃんnet紹介展



▲かるちゃんnet紹介展「砂絵体験」

**b あつまれ！森林公園スタンプラリー2011**  
 日 時：平成23年4月29日（金）～6月26日（日）  
 場 所：北海道開拓記念館・北海道開拓の村・自然ふれあい交流館・北海道立図書館・北海道立埋蔵文化財センター  
 内 容：今年度は、各施設でスタンプをもらい、全てのスタンプが揃ったら記念品が貰えるというルールで実施した。記念品の交換場所は北海道立埋蔵文化財センターとした。全体の参加者は1,950名、期間中のセンター入館者は2,584名だった。

**c 野幌総合運動公園運営連絡協議会**

①第6回野幌総合運動公園運営連絡協議会  
 日 時：平成23年7月14日（水）14：00～16：45  
 会 場：江別市セラミックアートセンター会議室、野幌総合運動公園プール  
 内 容：財団法人北海道開拓の村、北海道立埋蔵文化財センター、北翔大学、札幌学院大学、酪農学園大学、財団法人江別市スポーツ振興財団、野幌総合運動公園事務所、江別市セラミックアートセンターが出席し、施設間スタンプラリーに関連するウォーキングマップの作成について検討した。また、協議会名称を「のっぽろ11(イレブン)ネット」と改めた。

**d かるちゃんnet（文化施設連絡協議会）**

新札幌から江別市南西には社会教育的文化施設が集中し、地域に暮らす人たちにとって恵まれた環境にある。各文化施設は地域文化の向上や知的

財産の継承など重要な役目を担っているが、財政の悪化により運営・事業の見直しを迫られ、取り巻く情勢は厳しさを増している。このような状況を踏まえ、各施設が協力・連携を強化し、意見交換・連携事業・広報事業などの実施を協議する場として結成された。

平成21年に北海道がイオン北海道(株)との包括的連携協定を締結する際に北海道開拓記念館が企業側に提案した「道の教育・文化施設の広報活動への協力・協働事業」を基礎とする。

①かるちゃんnet紹介展

日 時：平成23年7月29日（金）～7月31日（日）  
 会 場：イオン江別店  
 対 象：一般  
 内 容：加盟各施設が実施する行事等をパネルで紹介し、パンフレット・チラシ類を置いて施設のPRを実施した。また、交代で人員を配置して解説を行った。

②かるちゃんnet紹介展「砂絵体験」

日 時：平成23年7月31日（日）10：00～16：00  
 会 場：イオン江別店  
 対 象：幼児・小学生・親子  
 内 容：かるちゃんnet紹介展会場で、色砂を使って縄文土器の絵を描く体験イベントを行った。  
 講 師：第1調査部普及活用課主査 倉橋直孝  
 参加者：36名

## 7 利用状況など

今年度のセンター利用者は、前年度より5.1%減少した。前年度よりも入館者数が減少した月は5月、6月、10月、11月である。しかし、4月、7～9月、12～3月はいずれも昨年度よりも入館者数が増加している。このうち、5～9月は、5か月連続して毎月1,000人を超え、特に、5～8月は4か月連続して1,200名を越えるという、これまでにない入館者数を記録した。

### (1) 入館者数一覧

#### 月別入館者数一覧

| 月        | 開館日数 | 大人(男性) | 大人(女性) | 子供   | 合計    |
|----------|------|--------|--------|------|-------|
| 平成23年4月  | 26   | 479    | 264    | 177  | 920   |
| 平成23年5月  | 27   | 441    | 322    | 460  | 1223  |
| 平成23年6月  | 26   | 486    | 372    | 419  | 1277  |
| 平成23年7月  | 27   | 468    | 436    | 374  | 1278  |
| 平成23年8月  | 26   | 408    | 302    | 520  | 1230  |
| 平成23年9月  | 26   | 363    | 291    | 456  | 1110  |
| 平成23年10月 | 26   | 399    | 289    | 151  | 839   |
| 平成23年11月 | 26   | 259    | 148    | 132  | 539   |
| 平成23年12月 | 21   | 250    | 144    | 29   | 423   |
| 平成24年1月  | 24   | 169    | 132    | 78   | 379   |
| 平成24年2月  | 24   | 191    | 76     | 19   | 286   |
| 平成24年3月  | 21   | 305    | 296    | 95   | 696   |
| 合計       | 300  | 4218   | 3072   | 2910 | 10200 |

#### 暦年入館者数一覧

| 月   | 11年度 | 12年度 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度  | 20年度  | 21年度  | 22年度  | 23年度  | 合計     |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 4月  |      | 758  | 656  | 545  | 538  | 831  | 595  | 830  | 669   | 904   | 1192  | 799   | 920   | 9237   |
| 5月  |      | 709  | 453  | 656  | 1081 | 964  | 716  | 1440 | 1228  | 1403  | 1978  | 1755  | 1223  | 13606  |
| 6月  |      | 652  | 621  | 808  | 1299 | 1054 | 858  | 768  | 1099  | 1150  | 934   | 1597  | 1277  | 12117  |
| 7月  |      | 527  | 303  | 633  | 922  | 828  | 1124 | 1138 | 1425  | 1126  | 1537  | 1117  | 1278  | 11958  |
| 8月  |      | 673  | 388  | 662  | 789  | 747  | 851  | 1238 | 1517  | 1267  | 1370  | 982   | 1230  | 11714  |
| 9月  |      | 544  | 374  | 631  | 762  | 1020 | 727  | 790  | 907   | 768   | 1169  | 995   | 1110  | 9797   |
| 10月 |      | 650  | 302  | 649  | 991  | 1027 | 773  | 945  | 939   | 1267  | 1120  | 1214  | 839   | 10716  |
| 11月 | 1988 | 467  | 659  | 445  | 836  | 669  | 618  | 669  | 627   | 653   | 745   | 794   | 539   | 9709   |
| 12月 | 687  | 286  | 326  | 669  | 505  | 330  | 318  | 232  | 536   | 488   | 577   | 370   | 423   | 5747   |
| 1月  | 593  | 218  | 411  | 287  | 229  | 189  | 240  | 462  | 633   | 488   | 516   | 344   | 379   | 4989   |
| 2月  | 366  | 129  | 240  | 212  | 270  | 187  | 189  | 226  | 329   | 450   | 374   | 268   | 286   | 3526   |
| 3月  | 469  | 221  | 362  | 297  | 331  | 296  | 366  | 329  | 528   | 549   | 472   | 511   | 696   | 5427   |
| 合計  | 4103 | 5834 | 5095 | 6494 | 8553 | 8142 | 7375 | 9067 | 10437 | 10513 | 11984 | 10746 | 10200 | 108543 |

は最多（平成11年度を除く）

#### 特別展示期間中の入館者

| 展 示 タ イ ト ル                          | 期 間                         | 入館者数   |
|--------------------------------------|-----------------------------|--------|
| (財)北海道埋蔵文化財センター平成22年度発掘調査成果展         | 平成22年3月26日(土)～6月5日(日)       | 2511名  |
| 「わかる考古学6—縄文生活体験ひろば—」展                | 平成23年7月2日(土)～10月10日(月・祝)    | 3876名  |
| 「北海道遺跡百選4 発掘された縄文の円—北の大地に描かれたサークル—」展 | 平成23年10月30日(土)～平成24年3月4日(日) | 1788名  |
| 特別展示期間中の入館者数合計                       |                             | 8175名  |
| 世界遺産をめざす北の縄文展                        | 平成23年4月1日(金)～平成24年3月31日(土)  | 10200名 |

#### 報告会・講演会参加者

| 事 業 名                        | 実 施 日          | 参加人数 |
|------------------------------|----------------|------|
| (財)北海道埋蔵文化財センター平成22年度発掘調査報告会 | 平成23年4月9日(土)   | 72名  |
| 秋季講演会「文化財を守り、伝える喜びとむずかしさ」    | 平成23年10月22日(土) | 68名  |
| 冬季講演会「北海道埋蔵文化財行政の黎明期旭川市」     | 平成23年12月10日(土) | 53名  |

## 考古学講座・こども考古学教室参加者

| 事業名                    | 実施日            | 参加人数 |
|------------------------|----------------|------|
| 考古学入門講座                | 平成23年5月14日(土)  | 18名  |
| ガラス玉作り                 | 平成23年6月18日(土)  | 15名  |
| 模型で学ぶ縄文の家づくり           | 平成23年10月8日(土)  | 15名  |
| 石器づくり                  | 平成23年11月26日(土) | 12名  |
| 拓本講座                   | 平成24年2月18日(土)  | 9名   |
| こども考古学教室 親子ガラス玉作り      | 平成23年6月25日(土)  | 23名  |
| こども考古学教室 夏休み親子考古学教室第1回 | 平成23年7月23日(土)  | 48名  |
| こども考古学教室 夏休み親子考古学教室第2回 | 平成23年7月30日(土)  | 48名  |
| こども考古学教室 冬休み親子考古学教室第1回 | 平成24年1月7日(土)   | 10名  |
| こども考古学教室 冬休み親子考古学教室第2回 | 平成24年1月14日(土)  | 4名   |

## 考古学教室出前講座

| 事業名                             | 実施日              | 参加人数 |
|---------------------------------|------------------|------|
| 考古学教室出前講座1(共和町)                 | 平成23年7月2日(土)     | 10名  |
| 考古学教室出前講座2(函館市)                 | 平成23年7月20日(水)    | 49名  |
| 考古学教室出前講座3(浦幌町)                 | 平成23年7月24日(日)    | 20名  |
| 考古学教室出前講座4(旭川市)                 | 平成23年8月6日(土)     | 37名  |
| 考古学教室出前講座5(池田町)                 | 平成23年9月17日(土)    | 13名  |
| 考古学教室出前講座6(真狩村)                 | 平成23年11月16日(水)   | 9名   |
| 考古学教室出前講座7(稚内市) *インフルエンザ流行により中止 | 平成24年2月19日(日) 予定 | —    |

## 考古学教室出前講座(依頼分)

| 依頼元・実施場所           | 実施日            | 参加人数 |
|--------------------|----------------|------|
| 北広島市中央公民館(勾玉づくり)   | 平成23年7月10日(日)  | 27名  |
| 北広島市立東部小学校(火おこし)   | 平成23年9月2日(金)   | 23名  |
| 江別市立江別第三小学校(勾玉づくり) | 平成23年9月20日(火)  | 104名 |
| 札幌市立平岡公園小学校        | 平成23年10月15日(日) | 40名  |
| 当別町立当別小学校          | 平成23年10月29日(土) | 25名  |

## (2) 団体利用者対応

施設見学のほか、小学校や教育機関等・こども関係・高齢者関係の団体を対象に、勾玉づくりや砂絵等の体験学習を16回実施した。また、大学の学外授業や講座を14回行った。団体利用者数は1,325名である。

### [小学校]

| 年     | 月日    | 曜日  | 団体名・見学・体験等                | 人数   |
|-------|-------|-----|---------------------------|------|
| 平成23年 | 8月30日 | (火) | 岩見沢市立幌向小学校勾玉作り体験学習        | 87名  |
|       | 8月31日 | (水) | 清水町立御影小学校修学旅行自主研修         | 7名   |
|       | 9月1日  | (木) | 江別市立上江別小学校体験学習            | 180名 |
|       | 12月2日 | (金) | 江別市立文京台小学校1年1組親子レク勾玉づくり体験 | 32名  |
| 平成24年 | 3月7日  | (水) | 江別市立第二小学校施設見学             | 19名  |
| 計     |       |     |                           | 325名 |

### [高校]

| 年     | 月日    | 曜日  | 団体名・見学・体験等         | 人数 |
|-------|-------|-----|--------------------|----|
| 平成23年 | 6月25日 | (土) | 北海道札幌啓成高等学校剣道部施設見学 | 8名 |
| 計     |       |     |                    | 8名 |

### [大学]

| 年     | 月日    | 曜日  | 団体名・見学・体験学習・学外授業等 | 人数  |
|-------|-------|-----|-------------------|-----|
| 平成23年 | 4月20日 | (水) | 札幌学院大学鶴丸先生講義利用    | 77名 |
|       | 5月24日 | (火) | 札幌大学施設見学          | 9名  |
|       | 5月24日 | (火) | 北翔大学施設見学          | 4名  |
|       | 6月26日 | (日) | 北翔大学菊地先生講義利用      | 22名 |
|       | 7月3日  | (日) | 北翔大学菊地先生講義利用      | 6名  |
|       | 7月10日 | (日) | 北翔大学菊地先生講義利用      | 26名 |
|       | 7月10日 | (日) | 北翔大学菊地先生講義利用      | 26名 |
|       | 7月16日 | (土) | 札幌大学本田先生講義利用      | 13名 |
|       | 7月17日 | (日) | 北翔大学菊地先生講義利用      | 13名 |
|       | 7月19日 | (火) | 札幌学院大学鶴丸先生講義利用    | 37名 |
|       | 7月23日 | (土) | 北海道大学加藤研究室施設見学    | 6名  |
|       | 10月4日 | (火) | 札幌学院大学臼杵先生講義利用    | 17名 |

[大学]

| 年     | 月日     | 曜日  | 団体名・見学・体験学習・学外授業等 | 人数   |
|-------|--------|-----|-------------------|------|
| 平成23年 | 10月20日 | (木) | 北翔大学渡部先生講義利用      | 17名  |
|       | 10月22日 | (土) | 札幌大学学生施設見学        | 12名  |
|       | 10月27日 | (木) | 北翔大学渡部先生講義利用      | 17名  |
|       | 12月1日  | (木) | 北翔大学佐藤先生講義利用      | 12名  |
|       | 12月11日 | (日) | 札幌国際大学畑先生講義利用     | 22名  |
| 平成24年 | 3月14日  | (水) | 札幌国際大学越田先生講義利用    | 11名  |
| 計     |        |     |                   | 347名 |

[教育機関等の団体]

| 年     | 月日     | 曜日    | 団体名・見学・体験等                      | 人数                         |     |
|-------|--------|-------|---------------------------------|----------------------------|-----|
| 平成23年 | 4月20日  | (水)   | 韓国(財)忠清北道文化財研究院施設見学             | 5名                         |     |
|       | 5月28日  | (土)   | 長沼町教育委員会施設見学                    | 27名                        |     |
|       | 6月7日   | (土)   | 道立教育研究所施設見学                     | 4名                         |     |
|       | 7月26日  | (火)   | 中国・韓国研究者施設見学                    | 6名                         |     |
|       | 7月28日  | (木)   | 青森県教育庁文化財保護課世界文化遺産登録推進プロジェクトチーム | 4名                         |     |
|       | 9月20日  | (火)   | 縄文遺跡群世界遺産登録推進本部視察               | 12名                        |     |
|       | 9月24日  | (土)   | 岩見沢市教育委員会「歴史の道を訪ねて」施設見学         | 53名                        |     |
|       | 11月11日 | (金)   | 江別市教育委員会青少年指導センター勾玉づくり体験        | 17名                        |     |
|       | 平成24年  | 2月25日 | (金)                             | シンポジウム「東アジアにおける農耕研究の新しい展開」 | 13名 |
|       |        | 3月10日 | (土)                             | 石狩市教育委員会施設見学               | 43名 |
| 3月18日 |        | (日)   | シンポジウム「北海道における木材使用の歴史とアイヌ文化」    | 35名                        |     |
| 計     |        |       |                                 | 219名                       |     |

[子ども関係の団体]

| 年     | 月日    | 曜日  | 団体名・見学・体験等          | 人数  |
|-------|-------|-----|---------------------|-----|
| 平成23年 | 6月11日 | (土) | イオン札幌桑園店チアーズクラブ施設見学 | 14名 |
|       | 6月12日 | (日) | イオン手稲山口店チアーズクラブ施設見学 | 18名 |
|       | 7月7日  | (木) | 萩ヶ岡児童センター施設見学       | 5名  |
|       | 8月2日  | (火) | 大麻ミニ児童館体験学習         | 8名  |
|       | 8月16日 | (火) | ベストフレンズ体験学習         | 23名 |
|       | 9月3日  | (土) | 大麻ジュニアクラブ体験学習       | 11名 |
|       | 9月8日  | (木) | 萩ヶ岡児童センター体験学習       | 16名 |
|       | 9月15日 | (木) | 野幌ひまわり児童センター体験学習    | 17名 |
|       | 9月20日 | (火) | 大麻ジュニアクラブ体験学習       | 44名 |
|       | 計     |     |                     |     |

[高齢者関係の団体]

| 年     | 月日     | 曜日  | 団体名・見学・体験等                   | 人数  |
|-------|--------|-----|------------------------------|-----|
| 平成23年 | 5月19日  | (木) | 江別ケアパークそよ風施設見学               | 24名 |
|       | 6月23日  | (木) | 小規模多目的ホームパワロの森施設見学           | 7名  |
|       | 6月24日  | (金) | デイサービスセンターふくろうの森施設見学         | 9名  |
|       | 7月14日  | (木) | ヒューマンライフケア厚別デイサービスセンター勾玉作り体験 | 19名 |
|       | 8月24日  | (水) | おおあさ東町デイサービス風の音色勾玉作り体験       | 14名 |
|       | 8月26日  | (金) | おおあさ東町デイサービス風の音色砂絵・勾玉作り体験    | 10名 |
|       | 9月20日  | (火) | 聖陵デイサービスセンター砂絵体験             | 20名 |
|       | 9月21日  | (水) | 聖陵デイサービスセンター砂絵体験             | 20名 |
|       | 10月18日 | (火) | グループホーム葉の花東苗穂館施設見学           | 12名 |
|       | 10月30日 | (日) | デイサービスセンターあかり施設見学            | 8名  |
|       | 11月9日  | (水) | デイサービスセンターぷらいむ施設見学           | 6名  |
|       | 11月30日 | (水) | デイサービスふくろうの森施設見学             | 9名  |
|       | 計      |     |                              |     |

[その他の団体]

| 年     | 月日     | 曜日  | 団体名・見学・体験等                     | 人数   |
|-------|--------|-----|--------------------------------|------|
| 平成23年 | 6月26日  | (日) | 大麻沢町16丁目自治会施設見学                | 25名  |
|       | 7月3日   | (日) | 江別市スポーツ振興財団フルディックウォーキング講習会施設見学 | 28名  |
|       | 9月28日  | (水) | 市立函館博物館友の会施設見学                 | 21名  |
|       | 10月2日  | (日) | 苫小牧市縄文会施設見学                    | 23名  |
|       | 10月15日 | (土) | 陶寿房施設見学                        | 15名  |
| 計     |        |     |                                | 112名 |

(3) 実習等

大学の博物館実習を1件(1名)行った。

[実習等]

| 年     | 期間              | 大学名・実習種別         | 人数 |
|-------|-----------------|------------------|----|
| 平成23年 | 9月1日(木)～9月8日(木) | 札幌大学文化学部4年生博物館実習 | 1名 |
| 計     |                 |                  | 1名 |

## 8 図書資料

### (1) 購入図書一覧

| 書名                                       | 編著者名            | 出版者           |
|--|-----------------|---------------|
| 国のなりたち 旧石器時代から飛鳥時代(J r. 日本の歴史1)          | 平川南ほか           | 小学館           |
| 氷河時代                                     | スチュワート・ロス       | 大日本絵画         |
| 日本の世界文化遺産を歩く                             | 藤本 強            | 同成社           |
| 遺跡と観光 (市民の考古学 8)                         | 澤村 明            | 同成社           |
| 猪の文化史 発掘資料などからみた猪の姿 考古編                  | 新津 健            | 雄山閣           |
| 謎解き古代文明                                  | ASIOS           | 彩図社           |
| 歴史に語られた遺跡・遺物 認識と利用の系譜                    | 桜井準也            | 慶応義塾大学出版会     |
| 東北アジア古民族植物学と縄文農耕                         | 小畑弘己            | 同成社           |
| 考古学からみた古代日本の紡織                           | 東村純子            | 六一書房          |
| はじめて学ぶ考古学 (有斐閣アルマ)                       | 佐々木憲一ほか         | 有斐閣           |
| 考古学の挑戦 地中に問いかける歴史学                       | 阿部芳郎            | 岩波書店          |
| いにしへの美しい色 X線とその謎に迫る ツタンカーメンから、陶磁器、仏教美術まで | 宇田広之            | アグネ技術センター     |
| 縄文時代 (列島の考古学 2)                          | 能登 健            | 河出書房新社        |
| 弥生時代 (列島の考古学 3)                          | 武末純一ほか          | 河出書房新社        |
| 古墳時代 (列島の考古学 4)                          | 右島和夫            | 河出書房新社        |
| 弥生時代 (上) (講座日本の考古学 5)                    | 甲元真之他           | 青木書店          |
| 発掘された日本列島 2011                           | 文化庁             | 朝日新聞社         |
| 小シーボルトと日本の考古・民族学の黎明                      | ユーゼフ・クライナー      | 同成社           |
| よくわかる古代日本の全体像 知識ゼロから学ぶ日本史の原点             | 木下正史            | 新人物往来社        |
| 地域別の日本史                                  | 菅野祐孝            | 学生社           |
| 近代北海道とアイヌ民族 狩猟規制と土地問題                    | 山田伸一            | 北海道大学出版会      |
| アイヌの世界 (講談社メチエ494)                       | 瀬川拓郎            | 講談社           |
| 知里真志保 -人と学問-                             | 北海道大学北方研究教育センター | 北海道大学出版会      |
| 石と人間の歴史 地の恵と文化 (中公新書2081)                | 蟹沢聡史            | 中央公論新社        |
| 地球探検 地球の核から空への旅                          | ジェン・グリーン        | 大日本絵画         |
| 日本の火山を科学する 日本列島津々浦々、あなたの身近にある108の活火山とは?  | 神沼克伊ほか          | ソフトバンククリエイティブ |
| 地形図の楽しい読み方 不思議でおもしろい地図の世界へ(ヤマケイ山岳選書)     | 今尾恵介            | 山と溪谷社         |
| 新北海道の花                                   | 柳沢 俊            | 北海道大学出版会      |
| 野と原の環境史(日本列島の三万五千年 人と自然の環境史 2)           | 佐藤宏之ほか          | 文一総合出版        |
| 里と林の環境史(日本列島の三万五千年 人と自然の環境史 3)           | 大住克博ほか          | 文一総合出版        |
| 島と海の環境史(日本列島の三万五千年 人と自然の環境史 4)           | 田島佳也ほか          | 文一総合出版        |
| 山と森の環境史(日本列島の三万五千年 人と自然の環境史 5)           | 池谷和信ほか          | 文一総合出版        |
| 環境史をとらえる技法(日本列島の三万五千年 人と自然の環境史 6)        | 高原 光ほか          | 文一総合出版        |

### (2) 受領刊行物一覧 (\*所在地市町村コード順に掲載)

| [北海道]                                |  |
|--------------------------------------|--|
| 札幌市埋蔵文化財センター                         |  |
| 平成22年度 調査報告書 市内遺跡発掘調査報告書 3           |  |
| 北海道教育庁                               |  |
| アイヌ民族文化財ユーカラシリーズ37 アイヌ英雄叙事詩 赤海亀になる   |  |
| アイヌ民族文化財ユーカラシリーズ38 アイヌ英雄叙事詩 背鰭長の鯨    |  |
| アイヌ民族文化財ユーカラシリーズ39 アイヌ英雄叙事詩 薄い金、裂けた金 |  |
| 平成22年度アイヌ民族文化財調査報告書 アイヌ民族技術調査 3      |  |
| 北海道大学 高等教育推進機構CoSTEP                 |  |
| 北海道大学 J 広報誌 「リテラボプリ」 Vol. 43         |  |
| 北海道大学総合博物館                           |  |
| 北海道大学総合博物館 企画展示 豊平川と私たち -その生き立ちと自然-  |  |
| 北海道大学総合博物館ニュース 第23号                  |  |
| わが街の文化遺産 札幌軟石 -支笏火山の恵-               |  |
| 北海道文化財保護協会                           |  |
| 北海道の文化 83                            |  |
| 北海道文化財保護協会創立50周年記念誌 北海道文化財保護のあゆみ     |  |
| 北海道立アイヌ民俗文化研究センター                    |  |
| アイヌ民族文化研究センターだより No.34               |  |

|  |  |
|--|--|
|  | アイヌ民族文化研究センターだより No.35   |
|  | 企画展パンフレット アイヌ語地名を歩く -山田秀三の地名研究から-2011年 名寄  |
|  | 企画展パンフレット アイヌ語地名を歩く -山田秀三の地名研究から-2011年 稚内  |
|  | 北海道立 アイヌ民族文化研究センター 年報 2010 (平成22年度)  |
|  | 北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第17号   |
|  | リクルート北海道じゃらん   |
|  | 北海道じゃらん 2011年8月号   |
|  | 函館市教育委員会   |
|  | 特別史跡五稜郭跡 復元整備事業報告書   |
|  | 特別史跡五稜郭跡 復元整備事業報告書【図版編】  |
|  | 江別市セラミックアートセンター  |
|  | Ceramic Art Center 年報 平成22年度   |
|  | 北翔大学 菊地達夫  |
|  | 社会系教科における調べ学習演習の取り組みと意義〈苫小牧駒澤大学紀要 第23号別刷〉  |
|  | 小学校社会科における地理的知識に関する指導方法のあり方の再検討 -教員と児童の 離の改善に向けて- (北翔大学生涯学習システム学部研究紀要第11号 (2001) 別刷) |
|  | 中学校社会科地理的分野における北海道遺産を活用した授業実践と効果〈地理教育研究 (全国地理教育学会) No. 8 別刷〉                         |
|  | 保育者養成過程における環境問題を題材とした主体的学習の実践と意義〈北翔大学短期大学部研究紀要第49号 (2001) 別刷〉                        |
|  | 北海道遺産の有する知的観光情報の発信実態 -自治体ウェブサイトの内容を事例として- (北方圏学術情報センター年報 Vol. 2 別刷)                  |
|  | 歴史的建造物を活用した観光交流の仕組みの可能性とその意義 -北前船における関連歴史的建造物を事例として- (大阪観光大学観光学研究所年報 観光研究論集 第9号抜刷)   |
|  | 北海道立図書館  |
|  | 北の資料124 北方資料室40周年 北方資料室の足跡をふりかえる   |
|  | 美幌町教育委員会   |
|  | 美幌町文化財調査報告25 みどり2遺跡  |
|  | 美幌町埋蔵文化財各種開発確認調査報告書  |
|  | ひがし大雪博物館   |
|  | 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告 第33号  |
|  | 浦幌町立博物館  |
|  | 浦幌町立博物館紀要 第11号   |
|  | 浦幌町立博物館年報 第11号   |
|  | [宮城]   |
|  | 東北歴史博物館  |
|  | 東北歴史博物館研究紀要 12   |
|  | [秋田]   |
|  | 秋田県立博物館  |
|  | 秋田県立博物館ニュース Museum NewsNo.152  |
|  | 秋田県立博物館ニュース Museum NewsNo.153  |
|  | 秋田県立博物館研究報告 第36号   |
|  | [山形]   |
|  | 天童市西沼田遺跡公園   |
|  | 天童市西沼田遺跡公園 要覧・年報2010   |
|  | [福島]   |
|  | 会津若松市教育委員会   |
|  | 会津若松市文化財調査報告書 第121号 会津総合運動公園発掘調査報告書Ⅶ   |
|  | 会津若松市文化財調査報告書 第122号 小谷遺跡・小谷西村B遺跡発掘調査報告書  |
|  | 三春町歴史民俗資料館 三春町教育委員会  |
|  | 三春町文化財調査報告書第31集 三春城跡Ⅵ 第8次調査報告書   |
|  | [栃木]   |
|  | 足利市教育委員会   |
|  | 足利市文化財調査報告 第4集 足利の石造物  |
|  | 足利市埋蔵文化財調査報告第57集 史跡 権崎寺跡 (法界寺跡) 発掘調査概要Ⅱ  |
|  | 埋蔵文化財発掘調査報告 第60集 掘り出された足利の歴史 平成21年度足利市埋蔵文化財発掘調査パンフレット                                |
|  | 栃木県指定史跡 八幡山古墳群 ～憩いの森の古墳たち～   |
|  | [埼玉]   |
|  | 所沢市立埋蔵文化財調査センター  |
|  | 所沢市埋蔵文化財調査報告書 第52集 市内遺跡調査報告17  |
|  | 所沢市埋蔵文化財調査報告書 第53集 東の上遺跡 -飛鳥・奈良・平安時代編 Ⅱ-   |
|  | 桶川市教育委員会   |
|  | ふじま山遺跡 第3次発掘調査報告書  |
|  | 吉見町埋蔵文化財センター   |
|  | 吉見町埋蔵文化財調査報告書 第9集 町内遺跡5  |
|  | [千葉]   |
|  | 習志野市教育委員会  |
|  | 千葉県習志野市 谷津貝塚埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ  |

|   |  |
|---|--|
| [東京]  |  |
| 公益社団法人 日本文化財保護協会                                      |  |
| 飛天 平成23年会報  |  |
| 埋蔵文化財調査要覧 平成23年度                                      |  |
| 国立教育政策研究所   |  |
| 平成22年度 博物館に関する基礎資料                                    |  |
| 文化環境研究所   |  |
| Cultivate No.38                                       |  |
| 港区立郷土資料館  |  |
| 港郷土資料館館報 -28- 平成21年度版(2009年度版)                        |  |
| 港郷土資料館館報 -29- 平成22年度版(2010年度版)                        |  |
| 港区立 港郷土資料館 資料館だより 第66号                                |  |
| 港区立 港郷土資料館 資料館だより 第67号                                |  |
| 港区立 港郷土資料館 資料館だより 第68号                                |  |
| 研究紀要13 平成22年度   |  |
| 港郷土資料館へ行ってみよう! 第8号                                    |  |
| 港区埋蔵文化財調査年報8 -平成21年度の調査他-                             |  |
| 株式会社河出書房新社  |  |
| 列島の考古学 旧石器時代  |  |
| 共和開発(株) 渋谷区教育委員会                                      |  |
| 東京都渋谷区 鉢山町・猿楽町17判遺跡第5地点                               |  |
| 東京都渋谷区 初台遺跡 第2地点                                      |  |
| 国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館                                    |  |
| 国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館 年報 No.26 2007-2008 No.27 2008-2009 |  |
| [神奈川]   |  |
| 横浜市歴史博物館  |  |
| 横浜市歴史博物館NEWS 30                                       |  |
| 横浜市歴史博物館NEWS 31                                       |  |
| 神奈川県埋蔵文化財センター   |  |
| 神奈川県埋蔵文化財調査報告56 平成21年度 神奈川県内埋蔵文化財発掘調査一覧               |  |
| 神奈川県埋蔵文化財センター 年報23 2010(平成22)年度                       |  |
| 公益財団法人 かながわ考古学財団                                      |  |
| かながわ考古学財団調査報告271 成田上耕地遺跡第I地点・成田諏訪協遺跡第I地点              |  |
| かながわ考古学財団調査報告264 社家宇治山遺跡 第1分冊                         |  |
| かながわ考古学財団調査報告264 社家宇治山遺跡 第2分冊                         |  |
| かながわ考古学財団調査報告264 社家宇治山遺跡 第3分冊                         |  |
| かながわ考古学財団調査報告264 社家宇治山遺跡 第4分冊                         |  |
| かながわ考古学財団調査報告264 社家宇治山遺跡 第5分冊                         |  |
| かながわ考古学財団調査報告277 跡堀遺跡II                               |  |
| [新潟]  |  |
| 敬和学園大学  |  |
| 人文社会科学研究所年報 No.9                                      |  |
| 津南町教育委員会  |  |
| 津南学叢書 第14輯 植物繊維を「編む」 -アングンの里 津南の編み技術と歴史-              |  |
| 津南学叢書 第15輯 植物繊維を「編む」 -アングンの里 津南の編み技術と歴史- 予稿集          |  |
| [富山]  |  |
| 富山県埋蔵文化財センター  |  |
| 特別展 とやまの貝塚 -貝塚からみえてくる縄文人の姿と生活-                        |  |
| 埋文とやま VOL.115   |  |
| 埋文とやま VOL.116   |  |
| 埋文とやま VOL.117   |  |
| [石川]  |  |
| 金沢学院大学  |  |
| 金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編 第9号                               |  |
| 金沢学院大学紀要 経営・経済・情報科学・自然科学編 第9号                         |  |
| [山梨]  |  |
| 山梨県埋蔵文化財センター  |  |
| 研究紀要26  |  |
| 年報26 2009年度(平成21年度)                                   |  |
| 山梨県立 考古博物館だより No.72                                   |  |
| 山梨県埋蔵文化財センター 埋文やまなし36                                 |  |
| 山梨県埋蔵文化財センター 埋文やまなし37                                 |  |
| 山梨県埋蔵文化財センター 埋文やまなし38                                 |  |

|  |  |
|--|--|
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第268集 中丸・中丸東遺跡                       |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第269集 六ツ長遺跡                          |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第270集 太鼓畑遺跡                          |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第271集 竜安寺川西遺跡                        |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第272集 稲山遺跡                           |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第273集 御所山遺跡                          |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第274集 美通遺跡A・C区                       |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第275集 美通遺跡B区                         |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第276集 県指定史跡甲府城跡 平成22年度調査・整備報告書       |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第277集 三光遺跡                           |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第278集 御坂中丸遺跡                         |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第279集 原間遺跡                           |
|  | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第280集 山梨県内分布調査報告書(平成22年1月～12月)       |
|  | 第29回特別展 縄文土器名宝展 ～縄文芸術の到達点～                             |
|  | 韮崎市教育委員会   |
|  | 後田堂ノ前遺跡 -コメシH&G藤井店建設に伴う発掘調査報告書-                        |
|  | 後田堂ノ前遺跡 -日本ネットワークサービス韮崎営業所建設に伴う発掘調査報告書-                |
|  | 御座田遺跡 -多目的広場・総合福祉センター建設に伴う発掘調査報告書-                     |
|  | 苗敷山総合学術調査報告書 苗敷山の総合研究                                  |
|  | 平成15年度 韮崎市内遺跡埋蔵文化財                                     |
|  | 平成16年度 韮崎市内遺跡埋蔵文化財                                     |
|  | 山梨県韮崎市 石之坪遺跡(西地区)                                      |
|  | 山梨県韮崎市 下馬城遺跡   |
|  | 山梨県韮崎市 次第窪遺跡   |
|  | 山梨県韮崎市 苗敷山山頂遺跡   |
|  | 山梨県韮崎市 丸山東遺跡   |
|  | 山梨県韮崎市 元大明神前堤防遺跡                                       |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 山梨県韮崎市 下横屋遺跡第5地点                         |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 山梨県韮崎市 下横屋遺跡第6地点                         |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 山梨県韮崎市 下横屋遺跡第7地点                         |
|  | 山梨県韮崎市 西表堤防遺跡Ⅱ   |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 後田堂ノ前遺跡発掘調査報告書                           |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 坂井遺跡・坂井南遺跡                               |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 三百水遺跡発掘調査報告書                             |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 平成17年度 市内遺跡試掘確認調査報告書                     |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 平成18年度 市内遺跡試掘確認調査及び個人住宅等発掘調査報告書          |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 山梨県韮崎市 隠岐殿遺跡Ⅱ                            |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 山梨県韮崎市 隠岐殿遺跡Ⅲ                            |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 山梨県韮崎市 上横屋遺跡第3地点                         |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 山梨県韮崎市 坂井南遺跡Ⅳ                            |
|  | 山梨県韮崎市 山影遺跡Ⅱ   |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 山梨県韮崎市 滝坂遺跡                              |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 山梨県韮崎市 能見城跡第3地点                          |
|  | 山梨県韮崎市発掘調査報告書 山梨県韮崎市 山道第2遺跡                            |
|  | 南アルプス市教育委員会  |
|  | 南アルプス市埋蔵文化財ガイドブック 第1集 Ver2 南アルプス市の戦争遺跡 ロタコ -御勅使河原飛行場跡- |
|  | 南アルプス市埋蔵文化財ガイドブック 第3集 大地の記憶 遺跡カラ未来へ                    |
|  | 南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第26集 山梨県南アルプス市 平成21年度埋蔵文化財試掘調査報告書     |
|  | 南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第27集 山梨県南アルプス市 坂ノ上姥神遺跡 第2地点           |
|  | 南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第28集 山梨県南アルプス市 曾根遺跡(第2地点)             |
|  | [長野]   |
|  | 長野市教育委員会   |
|  | 史跡松代藩主真田家墓所  |
|  | [岐阜]   |
|  | 岐阜県文化財保護センター   |
|  | 岐阜県文化財保護センター 調査報告書 第120集 岩田東A遺跡                        |
|  | [愛知]   |
|  | 安城市教育委員会   |
|  | 安城市埋蔵文化財発掘調査報告書 第26集 鹿乗川流域遺跡群Ⅶ                         |
|  | 安城市埋蔵文化財発掘調査報告書 第27集 史跡 姫小川古墳                          |
|  | [滋賀]   |
|  | (財)滋賀県文化財保護協会  |
|  | 学校法人立命館守山中学校・高等学校新グラウンド整備に伴う発掘調査報告書 三宅北遺跡              |

|  |  |
|--|--|
|  | 県道下豊浦鷹飼線道路改築工事に伴う発掘調査報告書 金剛寺遺跡                     |
|  | 県立八幡工業高校運動場拡張工事に伴う発掘調査報告書 金剛寺遺跡・後川遺跡               |
|  | 国道477号緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書 番場遺跡                    |
|  | 国道477号緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書 番場遺跡                    |
|  | 琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書10 七条浦遺跡・志那湖底遺跡 第1分冊(本文編)     |
|  | 琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書10 七条浦遺跡・志那湖底遺跡 第2分冊(写真図番編)   |
|  | 琵琶湖流域下水事業(東北部浄化センター増設工事)に伴う発掘調査報告書Ⅱ 松原内湖遺跡Ⅱ        |
|  | ほ場整備関係(経営体育成基盤整備) 遺跡発掘調査報告書 38-1 浄土屋敷遺跡1           |
|  | ほ場整備関係(経営体育成基盤整備) 遺跡発掘調査報告書 38-2 針氏白遺跡・井戸遺跡その1・2   |
|  | ほ場整備関係(経営体育成基盤整備) 遺跡発掘調査報告書 38-3 夏見城遺跡             |
|  | 八日市新川広域河川改修工事に伴う発掘調査報告書 金貝遺跡                       |
|  | 大津市教育委員会   |
|  | 大津市埋蔵文化財センター文化財調査報告書(50) 滋賀里遺跡発掘調査報告書Ⅱ             |
|  | 大津市埋蔵文化財調査報告書(51) 関津遺跡発掘調査報告書                      |
|  | 大津市埋蔵文化財調査報告書(52) 穴太遺跡(南菊ノ尾地区)発掘調査報告書              |
|  | 大津市埋蔵文化財調査報告書(54) 南滋賀遺跡発掘調査報告書Ⅲ                    |
|  | 大津市埋蔵文化財調査報告書(55) 穴太遺跡(南川原地区発掘調査報告書)               |
|  | 平成21年度 大津市埋蔵文化財調査年報                                |
|  | 守山市教育委員会   |
|  | 学校法人立命館守山中学校・高等学校新グラウンド整備に伴う発掘調査報告書 三宅北遺跡 守山市三宅町   |
|  | 立入荒牧遺跡発掘調査報告書 第3次発掘調査報告書                           |
|  | 財栗東市文化体育振興事業団                                      |
|  | 栗東市 話題の発掘調査 はっくつ 2010                              |
|  | 古代のアート りっとう発掘再発見 vol.1 古墳時代の琴                      |
|  | 栗東市埋蔵文化財調査報告 2009(平成21)年度 年報                       |
|  | 甲賀市教育委員会   |
|  | 史跡紫香楽宮跡保存管理計画書                                     |
|  | [京都]   |
|  | 立命館大学文学部日本史学専攻考古学コース                               |
|  | 立命館大学 文学部学芸員課程研究報告 第13冊 姫路市見野古墳群発掘調査報告             |
|  | 立命館大学考古学資料集 第4冊 倭製鏡一覽                              |
|  | 京都府教育委員会   |
|  | 京都府埋蔵文化財調査報告書(平成22年度)                              |
|  | 財古代学協会   |
|  | 古代学協会60年史  |
|  | 財古代学協会年報 1 平成22年度 初音 平成23年                         |
|  | [大阪]   |
|  | 堺市教育委員会  |
|  | 平成20年度 国庫補助事業発掘調査報告書 堺環濠都市遺跡(SKT998)               |
|  | 岸和田市教育委員会  |
|  | 岸和田市文化財調査概要37 平成22年度発掘調査概要                         |
|  | 岸和田市文化賞 第23回濱田青陵授賞式                                |
|  | [兵庫]   |
|  | 兵庫県多可郡多可町教育委員会                                     |
|  | 多可町文化財報告14 西安田・森ノ前遺跡 中安田・法幢寺遺跡                     |
|  | 多可町文化財報告15 極楽寺遺跡 北郡                                |
|  | [鳥取]   |
|  | 鳥取県埋蔵文化財センター                                       |
|  | 青谷上寺地遺跡フォーラム2011 弥生・骨角器サミット ～青谷上寺地遺跡の交流をさぐる～       |
|  | 青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報 2010                               |
|  | 国史跡青谷上寺地遺跡ミニフォーラム 自然への備えと挑戦 -青谷上寺地遺跡の土木技術と現在- 2011 |
|  | 鳥取県埋蔵文化財センター調査報告39 青谷上寺地遺跡出土調査研究報告6 金属器            |
|  | 鳥取県埋蔵文化財センター調査報告40 青谷上寺地遺跡警官復原調査研究報告書              |
|  | 鳥取県埋蔵文化財センター調査報告41 青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告7 骨角器(2)        |
|  | 北栄町教育委員会 北条歴史民俗資料館                                 |
|  | 北栄町文化財調査報告書第5集 平成21・22年度 町内遺跡発掘調査報告書               |
|  | [鳥根]   |
|  | 鳥根県埋蔵文化財調査センター                                     |
|  | 一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業(大塚工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2 高浜I遺跡     |
|  | 風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書20 史跡出雲国跡 -7-                      |
|  | 鳥根県教育庁 埋蔵文化財センター年報19 平成22年度                        |
|  | 鳥根大学ミュージアム   |
|  | 鳥取県の考古学 第1巻 旧石器・縄文時代                               |

|  |  |
|--|--|
|  | 島根大学ミュージアム年報 平成22年度  |
|  | 浜田市教育委員会   |
|  | 島根県浜田市遺跡地図Ⅲ (三隅自治区) 史跡 石見国分寺跡 (塔東側の確認調査) 平成21年度市内遺跡発掘調査報告書 |
|  | 西ノ島町教育委員会  |
|  | 黒木山横穴墓群  |
|  | [岡山]   |
|  | 津山市教育委員会   |
|  | 津山城だより No.15   |
|  | 年報 津山弥生の里 第18号   |
|  | 総社市教育委員会   |
|  | 鬼城山 国指定史跡鬼城山環境整備事業報告                                       |
|  | 総社市埋蔵文化財調査年報 20 (平成21年度)                                   |
|  | 総社市埋蔵文化財発掘調査報告 22 長良小田中遺跡                                  |
|  | 発掘! 総社駅南地区   |
|  | [広島]   |
|  | 広島県教育委員会   |
|  | 平成21年度広島県内遺跡発掘調査 (詳細分布調査) 報告書                              |
|  | 広島県立歴史博物館  |
|  | 広島県立歴史博物館ニュース 第87号   |
|  | [高知]   |
|  | 高知県教育委員会文化財課   |
|  | 高知県埋蔵文化財年報 8 平成21年度  |
|  | 埋文こうち 第24号   |
|  | [福岡]   |
|  | 九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室                                       |
|  | 壱岐カラカミ遺跡Ⅲ カラカミ遺跡第1地点の発掘調査 (2005~2008年)                     |
|  | [熊本]   |
|  | 熊本県立矢部高等学校校長   |
|  | みどり学   |
|  | [鹿児島]  |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター   |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (156) 鳴野原遺跡A地点                       |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (157) 南下遺跡                           |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (158) 芝原遺跡2 (第1分冊)                   |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (158) 芝原遺跡2 (第2分冊)                   |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (158) 芝原遺跡2 (第3分冊)                   |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (158) 芝原遺跡2 (第4分冊)                   |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (159) 渡畑遺跡2                          |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (160) 坂ノ下遺跡・後ヶ原遺跡                    |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (161) 二渡船渡ノ上遺跡・山崎野町跡A                |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (162) 虎居城跡                           |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (163) 下鶴遺跡                           |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (164) 石縷遺跡・十三塚遺跡                     |
|  | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (165) 川骨遺跡・西之城遺跡・川幡遺跡                |
|  | 埋文だより 第55号   |
|  | 埋文だより 第56号   |
|  | 南種子町教育委員会  |
|  | 南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(17) 一陣長崎鼻遺跡                               |
|  | 喜界町中央公民館   |
|  | 喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(11) 城久遺跡群 前畑遺跡・小ハネ遺跡                       |

## 9 講演会要旨

### (1) 秋季講演会

『文化財を守り、伝える喜びとむずかしさ』

講師：田辺 征夫氏（前 奈良文化財研究所所長  
現 奈良県立大学特任教授）

はじめに



私が奈良文化財研究所に入所して42年。在籍中は職場が研究所だから当然研究が中心だが、奈良市や文化庁に異動して文化財保護の仕事にも携わった。うまくいった事もうまくいかなかった事もある

が、その中からいくつか取り上げてみたいと思う。

北海道に最初にうかがったのは、奈良文化財研究所が中心になっておこなった「薬師寺」展という移動展示を札幌で開催した時であった。その後、平成の初め頃から、文化庁の調査官として重要文化財の指定に関わる仕事で毎年のように訪れるようになった。

#### 1 北海道での指定調査

##### 美利河1遺跡・湯の里4遺跡

美利河1遺跡では立派な尖頭器が出土しており、それはそれで驚いたが、美利河1遺跡と湯の里4遺跡からは微小の玉類が出土し、それが旧石器時代の所産だとわかる貴重な例がある。それぞれの石器群もしっかりしており、それに装飾品である玉類が伴っていることが高く評価された。

##### 目梨泊遺跡

この頃の私のテーマとしては、少しずつ解明されつつあったオホーツク文化に関わる資料を指定したいという考えがあった。すでに遺跡は数カ所指定されていたが、遺物も指定していきたいという思いがあった。そのため、豊富な資料が出土した枝幸町目梨泊遺跡の資料を悉皆調査したいという提案をさせていただき、それをきっかけにオホーツクの調査のため、3年連続で訪問すること

になった。目梨泊遺跡からは、蕨手刀や大陸製の帯飾など、非常に貴重で豊富な資料が出土している。

##### 常呂川河口遺跡・松法川北岸遺跡

常呂川河口遺跡を来訪したのは、ちょうど現地調査が終わった直後くらい（1995年3月）。羅臼町松法川北岸遺跡出土炭化木製クマ意匠容器複製品は、センター展示室にも展示している。

美利河1遺跡と湯の里4遺跡の資料については、私が文化庁に在任中、目梨泊遺跡の資料についても、私が文化庁を退任する頃指定となった。その他の調査した資料は、将来重要文化財に指定されることを祈念している。

##### 重要文化財指定の基準

国、都道府県、市町村など、日本の指定制度には各種あり、その中で、国の有形文化財には重要文化財、国宝、という制度がある。考古資料の場合、重要文化財の価値は、何で決まるかということ、まず学術資料としての価値が問われる。その価値とは、他の資料と比べて、「社会や時代の特色をよく示す」こと。「最古、最大に属する」こと。「すぐれた優品であり、ほかにない」、「一括してまとまっている」ということなど、が上げられる。特に一括指定の場合は、どこまでを指定範囲にするかについては難しい判断となる。

##### 一括指定の重要性

美利河、湯の里、目梨泊などの例でもご理解いただけたと思うが、資料は単品のみが出土しているのではなく、まとめて出土している。これらを群で一括指定する。その資料群が、全体としてその時代や社会の特色を示すということになるのであり、特に考古資料については、一括指定ということが重要になってくる。

##### 縄文時代資料の指定増加

このような基準により縄文時代の指定資料が増加してきた。かつて縄文の指定が少なかったのは、美術工芸での指定は、どうしても日本美術に照ら

した美的な価値が重要であったことがあげられる。昭和40年代以前は、縄文の資料は、日本の源流とは異なるもの、日本美術の対象ではないという考え方が強かったためである。この考え方をひっくり返した一番の功労者は、岡本太郎氏だと私は考えている。岡本氏が縄文の美に高評価を与えてから、他の美術関係者が縄文の資料にも目を向け始め、重要文化財に縄文の資料が名を連ねるようになったのである。

### 「縄文のビーナス」国宝になる

それでも重要文化財は、学術的な価値という視点に対するウェイトが大きいのだが、国宝となると如何だろう。国宝となると、もっと美的な観点が入ってくるのではないだろうか。そこで私達が自負している、「縄文のビーナス」とよばれる長野県棚畑遺跡出土土偶が国宝指定されたことについて触れる。

この資料については、工芸の専門家も、絵画の専門家も一発で許可を出した。現在、函館市著保内野遺跡出土土偶も北海道で初めて国宝に指定されたが、これが縄文時代の国宝3例目。

実は、東京国立博物館にある遮光器土偶は、非常に有名であるが国宝ではない。その理由は出土地点が不明なためである。考古資料の場合は、出土状況が明確であることが、大きな前提としてあるからだ。通常土偶は壊れて出土するものが多いのだが、棚畑遺跡の土偶は破損することなく出土した貴重な例でもある。

### 旧石器時代資料は国宝になるか

ところでその前代の旧石器時代資料は、国宝になるかという問題がある。私は、美利河遺跡の尖頭器などは、非常に美しいと感じている。しかし、旧石器時代の石器そのものは、美を追究して製作されているものではない。あくまで道具として作られたものが、美しいということなのだ。これらの資料を、従来国宝と認定しているものと同じ基準で判断できるか、という問題となってくる。これからの指定に関わる大きな問題とっていい。

ここまでは、考古資料の重要文化財は、学術的

価値がかなり重視されて指定されるが、それだけでは国宝にならない、国宝には美的観点が入ってくるという話しをしてきた。しかし、最近少し傾向が変わってきたと感じる事例もある。

### 荒神谷遺跡出土資料の指定

島根県出雲市の荒神谷遺跡から銅剣が358本出土し、その近くからは銅鐸6個と銅矛16本が発見された。これらの資料は、一つ一つで考えると、錆び付いてボロボロであるから美しいとはいえない。しかし、358本まとめて出土したというボリューム感。その近くからその他の祭祀に使われた資料がまとめて出土したという希有な事例等々から重要文化財に指定された。私個人としては国宝になるのは難しいのではないかと考えていた。しかし、うれしいことに荒神谷遺跡資料の国宝指定が決まった。山陰新聞からその意義についてぜひ私に寄稿して欲しいという依頼がきた際、「美術的価値よりも、学術的価値が非常に高い資料がこのたび指定された。今後、旧石器時代の逸品が国宝指定されることも考えられるだろう」と記しておいた。その実現を期待している。

### 糞石は国宝になりうるか

縄文時代の非常に学術的価値が高い資料に、糞石というものがある。重要文化財には、既に指定されている糞石資料があるが、それにしても果たしてこれらの糞石が国宝になることがあるだろうか。この答はぜひ皆さんにご検討いただければと思っています。

## 2 第一次大極殿の復原と平城京遷都1300年祭の成功

### (1) 平城京の研究には150年、保存には100年の歴史

平城京は、昨年で遷都1300年を迎えた。710年に奈良に都が遷都され、784年に恭仁京から長岡京にうつり、さらに京都に都が移るまで、74年間の都が平城京となる。

その平城京に都が移ってから、昨年で1300年を記念して、奈良県でいろいろな事業が行われた。

これに関連して360万人が平城宮跡を訪れ、しかも、非常に高い評価をいただいた。大変ありがたいことと思っている。第一次大極殿の復原に到るまでの道のりには険しいところがあったが、本日は、その内容をかい摘んで説明していきたい。

平城京の研究は、幕末から始まった。平安時代の記録に拠ると、平城京は、京都に都が遷ってしまってから、100年くらいで水田になってしまう。奈良の中心が、東大寺や興福寺のある付近になったためである。その後、江戸時代までの1000年間は、同様に水田であった。

#### 幕末の平城京研究－北浦定政－

江戸時代になり、その水田の形が古代の都の形を留めているのだと考えたのが、北浦定政である。彼は幕末に流行した国学者でもあった。伊勢藤堂藩の大和（奈良県）と山城（京都府）にある支配地を管理するために、奈良の古市に奉行所が設置され、城和（じょうわ）奉行所と呼ばれた。北浦はその奉行所の役人をしていて、勤務の合間に、国学者として、最初は天皇陵の調査を始めた。そのうちに平城京について興味が湧き、調べだしたようだ。水田の形に古代の都の形が残っているのではないかという推論を立て、自分で測量車をつくり、水田の形を丹念に調査していった。これによって、古代の都の形を復原していくと同時に、当時残っていた古い地名と考えられる字名などや文献史料と測量結果とを照らし合わせていった。この成果が「平城宮大内裏跡坪割之図」である。

#### 明治の平城京研究－関野貞－

江戸時代の北浦による研究を受け継いだのが、明治になってから活躍する関野貞である。関野の専門は建築で、東京帝国大学を出て、奈良県の建築技師として赴任した。当初は、薬師寺、室生寺、唐招提寺、法隆寺その他の建築、仏像、工芸品に関する論文を多数執筆していた。その後、北浦の研究を検証すべく、平城宮跡の研究をすすめた。関野は、平城宮内の建物配置復原研究に尽力した。大極殿、朝堂院という中心建築であろう建物の推定地を見つけ、論文に発表した。関野は、このよ

うな考えを新聞紙上に発表したり、講演会を行ったりすることで、一般の方々に広めることに力を注いだ。その考えに共感したのが、植木職人だった棚田嘉十郎である。

#### 棚田嘉十郎による保存運動

棚田は、昔の天皇が住んでいた場所を、今は牛馬の糞があるような場所にしておいてよいのかと考えた。今風の考え方ならば、かなりの天皇崇拝者といえるかもしれない。棚田は、前述の北浦宅の近くに住んでいたようで、北浦の息子とも顔見知りだったようだ。棚田は、北浦の息子に、「父親がつくった図を増し刷りさせて」と頼み込んで、奈良を訪れる観光客に配っていた。

関野の研究を知るまでは、地図は配っても、「ここにある平城宮ってどこにあるのか」とか、「大内裏とはどこにあったのか」と聞かれても、答えることができなかったわけだが、関野の研究が発表されて、その場所を特定して話しをすることができるようになった。大変、喜んで啓蒙・保存活動をしていたようだ。

#### 平城神宮建設計画

棚田は、平城宮を守るために、平城神宮という神社を作ろうと考えていたようだ。というのは、ちょうどこの少し前に、京都で平安京が遷都1100年を迎えて、それを記念して現在の平安神宮が作られたからだ。それに刺激されて、平城宮跡にも平城神宮を作ろうと画策したわけである。まずは、保存会を結成し、そのメンバーに徳川家の関係者や知事、政治家などに加入してもらった。自分たちのお金で大極殿周辺の土地を購入、整備をしたのである。保存に100年の歴史があるとは、この棚田の動きからを指している。

#### 棚田の自刃

棚田は、保存会をつくり、募金を募って、大極殿周辺の土地を購入し、整備したが、そこに棚田の考えに協調した新興宗教集団が入ってきた。この新興宗教集団が棚田から土地をだまし取ろうとしたようなのである。棚田は、他の保存会会員か

ら土地をだまし取られそうになった責任を問われたようで、その責任をとって自殺してしまった。結界をはり、武士ではないので割腹ではなく、のどを切って亡くなった。気持ちは、武士の気持ちだったのだろう。まだ、関係者が生存しているの、「生」の資料が出てきていないため、不明な点が残っている状況である。それでも、近年、いくつか資料が出始めた。その分析からこれらの経緯には多少の誤解があった可能性も出てきている。

### 史蹟名勝天然記念物保存法による最初の史跡指定

棚田が、保存会で募ったお金を着服しているという噂も流されたりしたが、実際は棚田が自分の私財をほとんどこの保存運動に費やしたのが事実である。このような個人の尽力により、最初の平城宮跡の保存運動がはじまった。棚田の死後、保存会を引き継いだ徳川頼倫は、購入した土地を国に寄付した。そして史蹟名勝天然記念物保存法による最初の史跡指定になるわけである。

### 戦後の平城京調査

奈良は戦災にあわなかったが、戦後すぐ米軍が駐留することになった。米軍基地は、平城宮跡の北側にでき、南にはRRセンターもできた。朝鮮戦争に出兵した兵士が戻ってきた際の憩いの場という施設である。米軍のキャンプが平城宮跡の北側、RRセンターが南側ということで、この間を行き来する軍用道路が整備されることになった。この辺りは水田だったので、道路の拡幅工事を行うことになったが、ちょうどその部分が未指定地だったのである。工事が始まるとすぐに遺物や柱根などが多量に出土するという事態になった。そのため、本格的な発掘調査を行うことになった。以来、一昨年（2009）で、奈良文化財研究所による平城宮跡の発掘調査は、50年を迎えた。その間、約40haの調査を終了している。この面積は、平城宮跡全体の30%にあたる。この間2度の国民的保存運動を経て平城宮跡全体が保存されることになった。

1度目は、近鉄が平城宮跡の西南隅の地域に車庫をつくる計画をたて、その際に国民的な保存運動が興り、平城宮跡が守られることになったもの。

もう一つは、平城宮跡の東に隣接して国道24号線バイパス工事の計画が浮上した際の事例。当時平城宮跡のプランは、真四角だと考えられていたが、平城宮跡が東側に張り出すことがわかったため保存運動がおこり守られることになり、現在は全域が保存されている。

平成10（1998）年には、「古都奈良の文化財」として世界遺産登録され、平成20（2008）年には、国営公園としての事業化が決定した。

### (2) 平城宮跡の発掘・整備・復原

近鉄の路線は、平城宮跡の中を斜めに走っている。大正時代、この路線に落ち着いたのも、そもそも近鉄の前身の電鉄会社が、関野が解明し、棚田らが保存した第二次大極殿や朝堂院など宮殿の中核部分を避けて路線を南に設定したものである。このように早くから保存への意識があったことがしれる。

### 平城宮跡内部の変遷

50年間におよぶ奈良文化財研究所による発掘調査により、どのようなことがわかったか。

まずひとつは、大極殿が二つあること、2つめには、東院庭園の発見があげられる。東院とは、現在は皇太子の宮殿のことを指すが、当時は、東の宮殿という認識だったと考えられる。そして、最大の発見だといわれているのが、木簡の発見である。

古代というと、『正倉院文書』、『古事記』、『日本書紀』、『続日本紀』、『風土記』、『万葉集』、『懐風藻』など、ごく限られた資料しか現存しない。その限られた資料で、日本の古代史の研究者は、研究を進めていた。新しい資料が増えることがほとんど考えられず、一言一句に検討を加えていた。そのような状況下、平城宮跡で木簡が発見された。最初は十数点だった木簡も、現在では全国での発見数が37万点にもなった。

そのような成果があるなかで、昭和53（1978）

年に文化庁から遺跡博物館構想が持ち上がった。この構想は、平城宮跡全域を博物館にしようというもの。そのなかに、推定宮内省・朱雀門・東院庭園・第一次大極殿について、実際の大きさの建物を作ることによって、古代の都を体感してもらおうというテーマがあった。まず推定宮内省が復原され、朱雀門と東院庭園は世界遺産登録直前に復原、そして復原第一次大極殿は昨年完成した。

ここまで平城宮跡150年の歴史を概観してきた。北浦や棚田がもしこの時代に訪ねてきたら、どのような感慨を持つであろうか。

### 3 高松塚古墳・キトラ古墳の壁画保存

ここまでのお話しは、非常に楽しいお話しばかり。次に、私にとっては忸怩たる思いがある話をしたい。

最初に話したように、北海道関連の指定関係調査をしたあと、私は奈良文化財研究所に戻った。戻ってしばらくして文化庁から依頼されたのは、高松塚古墳とキトラ古墳にかかわる委員会のメンバーに入ってくれという依頼だった。

#### 高松塚古墳の壁画保存

高松塚古墳は、約40年前の昭和47（1972）年に調査され、紆余曲折のうえ、現地保存が決まり、年1から2回の点検を繰り返していた。平成13年になり、石室と保存室との間の取り合い部を中心に大量のカビが発生しているという問題が明らかになった。壁画の内、白虎が極端に劣化していることも判明し、どのような対応をするか検討された。

その結果、墳丘部を発掘し、状況を確認することとなった。発掘調査の結果、地震でかなりの亀裂が入っていることなどが確認され、最終的には2005年6月解体が決定した。

#### キトラ古墳の壁画保存

最初の調査は、高松塚古墳と同様に壁画が残っている可能性が指摘されていたので、盗掘孔からファイバースコープによる調査が行われ、奥壁に玄武がぼんやりと浮かび上がった。平成になって、

当時一番小型のカメラで調査したところ、天文図がみつかった。さらにちょっと孔を大きくして、少し大きいカメラを使用したところ、青龍と白虎がみつかった。さらに孔を大きくして、さらに性能のよいカメラで手前を撮影すると朱雀が発見されたのだ。

特に白虎が描かれていたのは、西側の石室壁面だったが、その部分を観察すると、漆喰の壁が浮き上がっている部分が見受けられた。この観察を行った委員からは、壁面が崩落しそうだという声が多く上がった。壁面崩落の危険度はどれくらいなのか、委員会の中でも検討をしたが、結果的に石室内に入ってみなければわからないという結論となり、墓道を発掘調査して中に入るようになった。入ってみるとやはり現状での保存は難しいという判断になり、2004年7月から9月にかけて、壁面を取り外すことに決定した。

#### 結論のゆくえ

高松塚古墳とキトラ古墳について、結論を出す最終段階は、ほぼ同時進行で審議されていった。お互いが影響し合う中で、片方は壁面の取り外し、片方は解体ということになった。このような結論は、結果的には避けられない状況だったといえる。40年前の高松塚古墳保存の際には、外国人研究者の中には、現地保存ではなく、解体保存を提案した方もいたようだ。だが、日本の遺跡保存は、現地保存が原則であるから、定期的な点検での入室以外は、基本的には密閉して保存しようということになったのである。記録されているこれまでの点検記録をみると、カビの発生については、結構頻繁に記録がされていた。また、密閉していると考えていた空間は、実際には密閉されていなかったこともわかった。発掘調査によって地震により墳丘部にいくつもの亀裂が入っており、石室にはいくつか隙間があり、そこから空気などの出入りがあることがわかったのだ。たくさん虫が入っていたのだが、それは上記の理由で、密閉されていなかったことによる。

しかも、この空間で食物連鎖が出来上がっていた。虫が入り、カビが発生し、そのカビを食べて

生きる虫が生息する。さらに、壁の漆喰がボロボロになっていた。その上、石室を構成する石が劣化していた。そのような状態から最終的に解体ということに決定した。

キトラ古墳の判断を下す際には、私はワーキンググループの座長だったので、保存科学の専門家を集めて、「最善の方法は何か」検討してもらった。現地保存の原則との兼ね合いで、「壁画を切り取り、移設してしまったキトラ古墳には価値がないのではないか」という意見もでたりしたが、壁面の取り外しによる保存しか方法がないという結論になった。

その後、高松塚古墳の解体が決まったわけだが、こちらも、「解体しないで現地に古墳を残すことはできないか」という意見ももちろんあった。

どちらも非常に残念な結果になったわけだが、特に高松塚古墳は、解体というショッキングな結論になったため、先に決断したキトラ古墳の壁面取り外しが、皮肉なことに、むしろ穏やかな対策だったと、捉えられるようになった。

国土交通省の飛鳥国営公園内に保存施設ができ、ここに運び込まれて、今も保存処理が続けられている。現在の技術では、立ったものの崩落を止める手だてはないが、それぞれ壁画面を水平に置いているため、もう崩落する心配はない。あとはカビ対策だが、それはこの部屋の環境をカビが増えない状態にしておくことでクリアできる。

#### それでも遺跡は現地保存

今後どうするかについて、現在の文化庁の考えは、「将来、元の石室に戻す可能性はある」という。この考えは、やはり遺跡は現地保存という考えに基づくものである。逆に、現実にはもう戻せないのではないか、戻さないという選択肢もあるのではないかとする意見もある。

私の考えとしては、「500年、1000年かかっても、現地に戻せるのなら、その選択肢は捨てるべきではない」と考える。もともと1000年以上前の遺構なのだから、長期間かかって戻してもよいだろうという考え方である。そもそも文化財の保存とは、それくらい長い期間かけて行っていくものである

と、私は考えている。平城宮跡でも、調査が始まってから今の姿になるまで150年程度はかかっているのである。5年、10年というスパンではなく、100年、200年というスパンで考えないと文化財の保存はできない。

形あるものは、必ず壊れていく。これは、文化財の宿命。亡くなられた平山郁夫先生は、高松塚古墳に対する新聞紙上で「文化財とは、美しく滅びゆくもの」とコメントとしていたが、文化財の保存を担当するものとしては、そのように単純には割り切れない。少しでも手を打って延命策を講じ、孫子の世代に伝えるのが文化財保存に携わるものの使命である。

#### 4 長屋王邸宅の調査と保存

平城京の調査は、これまでにどれくらい行われているかということ、おそらく2～3%くらいだと考えられる。平城京は、ほとんどが開発に伴う調査。3%程度では、なかなか京の全体像がわかるとまではいかないが、文献などの諸記録なども援用して、かなりしっかりとした成果をあげてきている。平城京のひとたちが、どのような家に住んでいて、どのような暮らしをしていたのか、などある程度その姿がわかっているのである。特に長屋王邸宅の調査は大きな成果があった。

##### デパート建設に伴う調査

平城宮のすぐ側でデパートが建設されるということになり、調査が行われた。総面積4万5000㎡におよぶ建設予定地のうち、3万㎡にわたり発掘調査を行った。平城宮跡の近くに出てくる大邸宅であれば、かなりの要人宅であろうという推測もついていた。調査を進めていくと、条坊の区画に割り振られていれば、その間に道路が見つかるはずなのだが、調査区域から道路が見つからない。これは、予想通り大邸宅であるという状況がみえてきた。

平城京で保存されているものとして、平城京左京三条二坊六坪宮跡庭園の園池がある。これは郵便局の建設で見つかったもの。そこからは、石組みの園池が見つかった。国営時代の郵便局建

設という公共事業だったため、特段の保存運動はなかったが、うまく保存することができた。

### 長屋王邸宅の発見

一方、民間事業であるデパート建設の方は、全面保存は難しく、せめて建物本体である1万㎡については、遺構が濃密なため、地下施設は作らず保存するという事で協議はすすんでいた。しかし、地盤が砂地で軟弱なためその部分にしっかりとした基礎を造らないと上屋が建たないということになり、結局、掘削工事が始まった。その工事区域のすぐ横から、3万5千点にも及ぶ大量の木簡が出土したのである。その木簡にかかっている文字から、この邸宅が長屋王と吉備内親王の邸宅であると判明した。

長屋王は、奈良時代最初の左大臣、今でいう総理大臣にあたる要人であるから、ここから出土したものは、奈良時代の政治史そのものといっている品々といえる。もし、ここが工事開始前に、長屋王邸宅跡だと断定できる状況であれば、保存することができた可能性は極めて高いと思う。すでに建物本体部分のほとんどを掘削し終わった状況であったため、保存に至らなかった。ただ、全体の面積4万5千㎡のうち、建物本体部分1万㎡を除く部分は、駐車場が3万㎡を占めており、その下には長屋王の邸宅遺構が残っている。

その後、10年が経過して、そのデパートは閉店してしまい、次の買い手が決まる前に、なんとか買い取って保存していくことができないかと文化庁の担当者とも検討したりしたが、残念ながら実現できずに終わってしまった。

### 長屋王邸宅出土の木簡

長屋王邸宅からみつかった木簡は、3万5千点にもものほり、ここですべてを紹介していくことは不可能なので、その中から重要な1点をご紹介します。

「長屋親王宮鮑大贄十編」というわずか10文字の木簡が日本古代史に大きな貢献をした。

長屋王は天武天皇の孫にあたるが、母君の位が低く、皇位継承権がない地位にあった。そのため、

現存する文献には、「長屋王」と記されていた。ところが、この木簡に書かれていたのは、「親王」という文字。「親王」とは、皇位継承権がある人物に用いる称号で、長屋王には本来使われないもの。また、「鮑大贄（にえ）」とあるが、「大贄」とは、天皇に対する献上物を指す用語で、これもまた、長屋王の立場では、使用されない言葉である。

わずか10文字ではあるが、この中には日本の古代史家が首をかしげる表現がいくつも入っていたのである。

もっとも、古代史家の中には、「長屋王」と記しても、「長屋親王」と記しても、同じ「皇子（みこ）」なのだから、問題はないのだという意見もあった。資料が非常に少なく、制約が多いという日本古代史の現状から考えると、意見が分かれても仕方ないのかもしれない。木簡が発見されるまでは、『古事記』、『日本書紀』、『続日本紀』など、本当に限られた資料を穴のあくまで調べ、読み込み、一言一句かみしめるように、史料解釈をしていたのが日本の古代史だった。そのため、ひとつの言葉に、5つも6つも解釈が出たり、その中には全く逆の解釈も存在する。非常に制約された史料から論証するために出てくることだが、「長屋親王」についての議論でも、そのあたりが垣間見られたような気がしている。

長屋王は、「密かに左道を学びて国家を傾けんと欲す」と密告され、討たれるわけだが、もしかすると、このような「親王」と名乗ったりなどしている行動が、「左道」とされる原因になったのかもしれない。ただ、『続日本紀』には、故意に事実をねじ曲げて訴えることを意味する「誣告」と記載されており、同書が成立した平安時代初期には、長屋王が討たれたのは、えん罪だったという認識であったことがわかる。

### 5 まとめにかえて一世界遺産の問題によせて一

最後に、現在、北海道も含めて、日本全体でプロジェクトが進行している世界遺産について、お話ししておこうと思う。

## 1) 平城宮跡の世界遺産登録-「古都奈良の文化財」

世界遺産登録にあたり、ユネスコの考えでは、建物の復原は好ましくないというものがあつた。朱雀門の復原は、プロジェクトが動き出す前のものなので仕方がないということだったが、その他の建物などの復原については、難色が示された。

ヨーロッパの遺構は、石造りのものなど、上屋の構造ごと保存されているものも多い中、日本の遺跡のように、遺構の柱穴などが残されているだけの状況であれば、遺跡の価値をどのように伝えるのかという問題が残ってしまう。

平城宮跡は、奈良時代以降、長い間、田んぼになっていたもので、上屋が残っているものは当然ない。

一部の専門家は、そのような状況でも理解をできるだろうが、一般市民にとっては、全く理解しにくい状況となっている。

それでは、発掘された遺構をそのまま見せればよいのではないかとこの考えもあるが、これも日本に特有な酸性土壌により、発掘したままの状況では、遺構を保存していくことができない。だから、基本的に遺構は埋め戻して保存している。

偽物とってしまえばそれまでだが、調査した遺構と、文献などに残る上屋構造の検証などを厳密におこなって復原建物を建てることにより、それぞれの遺跡をより一般の方々に理解していただけるようにというのが、実物大復原の考えである。

## 2) 平泉の登録で感じたこと

平泉の登録には、皆さん大変苦労した中、なんとか登録にこぎつけることができた。中尊寺や毛越寺など、浄土の世界に対応するお寺は、全て問題なく登録物件に盛り込まれた。ところが、この寺などを造った人たちの拠点であった奥州藤原氏の屋敷跡、柳之御所は、登録されなかった。この屋敷跡からは庭園もみつきり、平泉に京の都と同様の施設を造っていたにもかかわらず、この屋敷跡だけが指定からはずされたのである。日本から、強い要請を出し、一部のヨーロッパの委員には、柳之御所を入れてもよいのではないかとこの意見はあつたようだが、最終的にはわずか4票差で外

れるという結果になつたようである。私自身もこの結果には大きな不満を感じている。

## 3) 世界遺産をどう位置づけるか

平城宮跡では、朱雀門や東院庭園は、登録のプロジェクトが始まる前に復原が行われていた。もし、ヨーロッパの委員が、ただただ野っ原の平城宮跡を視察し帰国していたら、果たして世界遺産登録に賛成してくれたであろうか。たぶん、柳之御所と同じようなことだったのでないかと、私は考えている。柳之御所の整備・復原は完成していなかったのである。目に映るインパクトに欠けたのが登録から外された一因ではないかと私は思っている。

しかし、登録された資産はいわば代表であつて、それだけに価値があるのではなく、それを取り巻く遺跡も同等の価値があることを我々自身がしっかり意識し、包括的に守り伝えることが大事だということを最後に強調しておきたい。

## (2) 冬季講演会

### 「北海道埋蔵文化財行政の黎明期-旭川市-」

講師：齊藤 傑氏（三浦綾子記念文学館副館長）

はじめに



私自身は、高校時代から考古学に興味をもち、今日もお見えになっている野村崇先生や（故）石附喜三男先生、大学の先輩でもある吉崎昌一さんの指導を受けた。

大学卒業後、旭川市教育委員会に入り、最初に配属になったのは博物館。自分のやりたいことをやることができた。その後、教育委員会の社会教育に移り、文化を中心にいろいろなことを経験することになった。市役所勤務の最後は、中原悌二郎彫刻美術館。美術館勤務が長く、しばらく考古学の仕事から離れることとなった。

高校時代から数えると、かれこれ50年以上考古学に関わってきたが、最近は考古学の愛好家で、考古学の研究者という立場ではないと感じている。本日は、どちらかというと、高校時代を中心に昔話をさせていただければと思っている。

#### 札幌西高校時代

私は、昭和31（1956）年、札幌西高校に入学。郷土研究部に入部し、先輩たちの指導を受けた。入学時3年生に在席していたのが、石附先生。その上に、野口さんや出村さんという先輩がいて、私の入学と入れ違いで卒業されたのが、野村先生と愛下淳先生。高校の3年間、郷土研究部の発掘調査に参加していった。

相沢忠洋氏によって、戦前は縄文時代から始まったと考えられていたが、群馬県岩宿で旧石器が発見され、縄文時代以前から日本列島にも人類の活動があったことがわかった。この調査に参加した吉崎昌一さん（明治大学修了）が、その後北海道に移り、旧石器時代研究を続けられ、白滝遺跡を始めとする、多くの遺跡を発見した。

吉崎さんが北海道大学の研究生として札幌に来たのが、私が高校1年生の時。この吉崎さんの指導を受けたのは1級下、元北海道教育委員会の森田知忠さん、現在東京在住の雪田孝さんなど。私の卒業と入れ違いで入学したのが、先般北海道新聞夕刊「私のなかの歴史」で連載されていた元東京大学の宇田川洋さんや元札幌大学の木村英明さん。私の前後の学年には、優れた研究者たちが多数在席していた。

#### 明治大学時代

高校卒業後、1年遅れで明治大学に入学。その際一緒になったのが、森田さんと雪田さん。森田さんと雪田さんは昼間部。私は夜間部に入学し、6年間学部で勉強した。6年間勉強することになった経緯は、私が入学したのが、ちょうど1960年で、6月には安保闘争。学園紛争の時代による影響が強い。入学時の後輩が、卒業時には先輩になっていたケースもあった。

#### 旭川市へ就職

私が大学に入学する頃は、大学に入学し考古学を専攻しようという人が多数いたが、家からは「考古学なんて専攻して、どうやって飯を食っていくの」といわれていた。私達の世代では、考古学を専攻しても、学校の先生になることができるくらいで、考古学に関わる就職先がない時代だった。ごくまれに博物館などに就職できる方もいたが、多くの卒業生がその他の仕事に就職するのが常であった。私は卒業時に、たまたま旭川市の博物館に学芸員がいなかったために、運良く就職できた。私は非常に恵まれた就職先を得ることができたのである。

#### 文化財保護法

昭和24年に文化財保護法という法律ができ、この法律が成立後、土の中に埋まっている文化財を発掘する際に、都道府県教育委員会に届けを出し、許可が下りないと調査ができないというシステムになった。昭和25年以降に発掘調査された遺跡のリストは、北海道教育委員会に保存されている。

旭川市内で発掘調査された遺跡がどのくらいあるかという資料は、平成6年度に『旭川市史』原始時代編を執筆した際に作成したものがあつた。昭和41年までは学術調査。逆に昭和41年以降は行政調査となつてゐる。この行政調査というのが、今回の講演タイトルにある「埋蔵文化財行政」という言葉に繋がつていく。

### 「埋蔵文化財行政」はじまる

平成23(2011)年10月22日(土)、北海道文化財保護協会設立50周年記念の式典があつた。ちょうど50年くらい前は、「埋蔵文化財行政」においても、いろいろな問題が生じた時期だつた。私がちょうど大学生になつた頃の話である。

私と同年代の方々はおわかりだと思ふが、私が小中学生の頃は、戦後の食べ物、着る物、履く物など、まだ物があまりない時代だつた。その後、私達が高校を卒業し、大学に入学する頃から、急激な変化で日本の社会が豊かになつていった。現在では世界で豊かな国の一つになつてゐるが、豊かになつたこと、そのものが開発という行為によつて、もたらされたもので、工場を建てる、家を建てる、農地を改良する。このような行為が、昭和50から60年代に非常に盛んになる。これに基づいて、景気がどんどん良くなつていく時期と重なつてゐる。この埋蔵文化財センターもそのような流れの中で生まれた組織の一つなのである。

### 北海道における昭和40年代の遺跡調査

旭川市は、石狩低地帯と違いあまり遺跡の多い地域ではない。有名な神居古潭の遺跡なども含めて、遺跡はある。私が旭川市の詳細分布調査を行つた際の登録数は、200を超えてゐる。この数をみると、多数あるといへばいえるのであるが、石狩低地帯にみられるような大遺跡といへるようなものは、神居古潭の遺跡しかない。

齊藤武一さん、佐藤忠雄さん。この二人が旭川市を代表する研究者。この二人の調査は、大きな足跡を残されてゐる。私が高校生の頃、旭川市の調査について中心的な役割をしてゐたのは、北海道学芸大学にいた河野廣道先生である。他に北海

道大学にいた名取武光先生。大場利夫先生。この3名を中心に北海道の考古学の調査は行われてゐた。この次の世代が、高校の先生をしてゐた峯山巖先生。藤本英夫さん。その下の世代が、佐藤忠雄さん、吉崎昌一さん。小樽の竹田輝雄さん。函館の千代肇さん。網走の米村哲英さん。釧路の沢四郎さん。吉崎さんや沢さんの世代は、大学で初めて考古学を学んだ世代ということになる。

### 道南、松前町の調査へ

私が博物館に奉職し数年が経過した頃のこと。高校の教員を辞め、北海道教育委員会で文化財行政トップの仕事をしてゐた藤本英夫さんから、道南松前町の遺跡発掘調査に派遣依頼があつた。昭和47年、48年の2年間担当することになつた。当時、博物館に勤務してゐり、館長が藤本さんと親しかつたことから、「調査を行う担当者がいないので、なんとか齊藤を派遣してくれないか」という藤本さんの依頼に、館長がOKを出したのだ。2ヶ月を越える夏の期間、松前町で調査を行つた。報告書を見ると、この時の調査担当者として、旭川市郷土博物館から私が参加。調査員には、道教委の畑宏明さん、北海道開拓記念館の中田幹雄さん。旭川市郷土博物館の其田良雄さん。当時浦河の郷土館にいた高橋正勝さん。名寄の氏家敏文さん。

翌年には、道教委の福田友之さん。羽幌で学校教員をしてゐた街道重昭さん。北見の郷土博物館の久保勝範さん、南茅部町の小笠原忠久さん。

このように工事により遺跡を調査する際には道教委から全道に声をかけて集まってもらつてゐた。その後、道教委にいろいろな人たちを集めてきて、自前で調査を行うことができるようになった。松前で発掘が私にとっていい勉強になつた。

### 嵐山遺跡の調査

私が旭川に入つて最初に調査したのが、昭和42年の嵐山遺跡。国鉄が函館本線を電化して複線化するという工事に関わる調査だつた。当時は、高等学校の生徒や大学の学生に作業を手伝ってもらつてゐた。

## 錦町遺跡の調査

その後、大きな調査としては、昭和57年に調査した錦町遺跡。当時畠だった場所を区画整理することになり、かなり大規模な宅地化が行われた。錦町、緑町と周辺の遺跡も含めて調査をした。この調査から岡山大学を卒業された考古学者、現在は旭川市博物館副館長の瀬川拓郎さんが旭川市に就職され参加されている。その後、友田哲弘さんが、信州大学を卒業後、明治大学で修士課程を修了し、旭川市に奉職されている。この瀬川さん・友田さんの体制ができてから、私は文化財に関わらなくても良い状況ができ、美術館などの仕事を歴任することになった。

## 旭川市の調査

上記の通り、旭川市は、斉藤武一さん、佐藤忠雄さん、私、瀬川さん、友田さんという面々と私の同世代で旭川市博物館の館長も歴任された其田さんも含めて調査を続けてきた。幸運にも行政的に難しい遺跡というのは、それほどなかった。上川盆地を考える上で、神居古潭には遺跡が集中していて、縄文時代から擦文時代まで約1万年間の遺跡が存在する。道の指定になっている神居古潭堅穴群は、二百数十の堅穴が残る昔から知られた遺跡である。なぜ石狩川の河川敷に二百数十もの堅穴が残されている理由は、まだ明瞭ではない。私はこの堅穴群の時期、擦文時代について学生の頃より調査研究をしてきた。

## 大規模調査－美沢川流域の遺跡群－

旭川における埋蔵文化財の調査は、年に1、2件。多い年で3件くらい。大規模な調査もない。(財)北海道埋蔵文化財センターができるきっかけにもなったのが、新千歳空港の建設。新千歳空港建設のため、美沢川流域の遺跡を調査することになり、20年間調査が継続して行われた。同じ地域でこれだけ長く調査を行った例は稀。出来上がった報告書を並べた幅は、1mを越える程。美沢川流域の遺跡群は、日本でも有数の遺跡群といってい

## 記録保存のための埋蔵文化財の調査

日本の社会全体が、戦後の物のない時代から、1964年の東京オリンピックにかけて、日本の社会が新幹線、高速道路、そして、車中心の社会となり、街の中心から郊外に宅地を造成し、家を建てるような時代。このような豊かな時代をつくるために、遺跡が壊されていく。その記録保存のため、埋蔵文化財の調査が行われてきた。

## 行政発掘の成果

遺跡が破壊されることは、よいことではないが、学術調査では大規模な面積に対応することができない。行政調査となると、例えば宅地造成であれば、造成する面積全体を調査しなければ、造成が完了しない。これら行政発掘による成果は、日本の考古学は大きく進歩を遂げたのである。住居群全体を発掘したり、包括される遺跡全体を調査するという例も出てきた。北海道の考古学は、飛躍的に進歩したといえる。

私達の高校生時代。河野、名取、大場先生の時代には、北海道の考古学は本州と比べて多少遅れていたのではないかと考えている。北海道の研究者は北海道の中だけで研究をしていて、本州との比較などはあまり進んでいなかったためだ。

## 「北海道」の考古学から「日本」の考古学へ

例えば北海道の考古学は、昭和の初めに恵庭、江別で発見されたいわゆる「北海道式古墳」の発見が研究に弾みをつけた。これが古墳時代の終末期古墳の流れを組むものだと解明したのは、私の高校の先輩、石附喜三男先生である。

もちろん遺物を扱った明治大学の後藤守一先生が「北海道に於ける古墳出土遺物の研究(一)」(『考古学雑誌』24-2)という論文のなかで、一部そのような考えを示されている。しかし、北海道の研究者でそのような考えを提示したのは、石附先生が最初である。野村崇先生が北海道における縄文晩期の研究をされ、その中で亀ヶ岡式との関係を明らかにする。

昭和40年(1965)に河出書房から出版された『日本の考古学』で北海道の土器編年を吉崎昌一さん

が提示した。この編年は、本州の土器編年との対応を示して作られた編年表の最初であろう。このように私が考古学を勉強していく中で、北海道だけに地域限定された「北海道」の考古学から日本全国と比較がなされている「日本」の考古学へ、学問が進展、確立されてきたように感じた。その、一つの大きな証となったのが、行政発掘である。

遺跡が壊されては困る。『記録保存』という立場で発掘調査が行われる。部分的な発掘から面的な発掘になることにより、より多くの情報を得ることができた。

### 考古学を学ぶ環境

私が高校時代から発掘調査と関わってきた50年間の流れの中で、今では、多くの遺跡をかかえる市町村には、考古学を専攻した職員が採用され、その1期目の方々が順次定年を迎えている。その後にもまた若い人たちが採用されてきている。

私が学生の頃、札幌で考古学を勉強できる大学はなかった。全国でみても、東京大学、京都大学、明治大学、國學院大學、あってもあといくつかだろう。考古学を勉強したければ、東京へ行かざるを得ない。そのような理由で、私達の世代の多くは東京へ。北大に名取先生、大場先生、学芸大には河野先生がおり、全く勉強ができないという環境ではなかったのだが、考古学専攻課程がなかったのである。私達がちょうど大学を卒業する頃は、団塊の世代が入学してきた時期でもある。私が高校生の頃は、北海道の私立大学は、北海学園大学があっただけで、その他はなかった。札幌大学や札幌商科大学（現札幌学院大学）、静修女子大学（現札幌国際大学）など、新設の私大に本州で考古学を勉強した先生方が就職して、そこで学んだ学生たちが卒業するようになった。それから開拓記念館や埋蔵文化財センターにも、道内で勉強した方たちが就職するようになる。北海道でも考古学が勉強できる環境が出来上がった。

### 若い世代と私達の世代

今の考古学を学んだ方は、私達の世代よりはるかに優秀。私達が勉強をしていた時代よりコンピ

ュータなどの機器も使用でき、いろいろなことを考えていくことができる環境がある。その点ではもう私の頭ではついていけないなあという印象を持っている。今の若い人たちは、細かくデータを分析する力を持っていることも含めて、優れている方々が増えている。ただ、全体的な物の見方については、若い世代の人たちより私達の方が良く出来ているのではないかと思っている。

### 定義すること

私も近年、公民館でお話ししたり、大学で非常勤の講義をする機会が多くなった。

そこで参加者に、「文化」という言葉、「自然」という言葉を説明してくださいと投げかけているのだが、皆さんならばどのように説明されるだろうか。意外と答えに窮するのではないか。

「自然」という言葉について、私は「地球」、もしくは「宇宙」という言葉に匹敵する大きな言葉であると考えている。それに対して、「文化」という言葉は人間と関わりのある言葉といえる。人間と関わりのある言葉で一番大きな概念が「文化」という言葉であるとする。ところが、最近では「文化」という言葉が非常に小さな概念でしか捉えられていない。多くの教育委員会に文化課があるが、組織としては、「教育委員会」が上にあって、「文化課」が下に来る。本来、言葉としては文化の方がはるかに大きなもの。「教育」とは文化活動の一部でしかない。ところが、現代では教育の方が文化より大きな概念になりつつある。このように、言葉は時代によって変移する。

### 現在の「学校」のスタイル

いわゆる学校のスタイル。先生がいて生徒がいる。このような形式がいつから始まったか。北海道教育大旭川校で『博物館学』を教えている時、こんな質問を出してみた。「教育は必要なのか」。聞かれた学生もどのように返答していいか、困ってしまい誰も返答してくれない。私も教育が必要ないとは思っていない。しかし、教育という制度がなければ世の中が成り立たないか？というところ、教育がなされなくても、世の中はしっかり動

いていくのであろうと、私は考える。

日本で、今のような教育がいつから始まったか。学生に問うと、あまりきちんと答えられる人はいない。明治に「学制」がひかれて、全国に小学校がつくられたことにより、今日的な教育が行われてきた。これ以前に、学校の形態になるものがなかったとはいわないが、国民が現在のような教育を受けたのは、明治以降となる。

### 「教育」と「学習」

ところが、私達人間のあゆみはもっと古くからあり、江戸時代にも、それ以前にも人類の営みはあったわけである。そのように連綿と人は生きてきているのだから、「教育」がなくても大丈夫だといえなくもない。ただ、私は「教育」という言葉が良くないと思っており、学ぶという精神、どちらかという「学習」の方が大切ではないかと考える。「教育」とは、先生がいて、生徒がいるという形でなりたっている。それに対して、「学習」は特に先生がいなくても学習できる。トイレの中に本を持ち込んで読むこともでき、或いは、電車の中で本を読むこともできる。いろいろな人の話しを聞き、学習するということもできる。だから、学ぶことは必要なことだが、教育は絶対必要なものというものではないと考えるのである。特に学ぶということが重要だということで、このようなお話しを力説した。学ぶということで重要なことは、自分自身のことに疑問をもつ、人の言葉に疑問をもつということである。

### 「仮説」と「実証主義」

最近、一定の年齢となり、「先はないなあ」と思ってきた。そうすると、今度は自分ってなんだろうと思ったりする。皆さんは、「あなたは何」と聞かれたら、何と答えるだろうか。一番大きな答えは「生き物、動物」という類のものだろうか。

私達は霊長類、いわゆるサル仲間。サルの仲間は、何を食べているか。サルの仲間は植物食。食虫類という分類があって、確かに虫も食べるが、要するに肉は食べない。チンパンジーだけ一部肉を食べる。ところが霊長類そのものは、植物食。

では、人間はいつから肉を食べるようになったのか。サルも他の動物も鳴くのだが、言葉はいつ発するようになったのだろうか。家の本を整理していると、かなり昔私が学生時代に読んだ本、『思想』という雑誌（『思想』501 1966年3月岩波書店）に、今西錦司先生が「文化と進化」という論文を書かれていた。「進化」とは動物に使う用語で、「文化」とは人間に使う用語である。人間が最初に持った道具は、武器である。本当？と思う人もいるかもしれない。人間は野生動物を追い払う道具を持ち合わせていない。ゆえに最初に手にした道具は、これらに対抗する武器だったに違いない。攻撃は最大の防御なり、という視点である。最初に手にした道具が先か、言葉が先か。肉食をしたのと、言葉を利用したのと、道具を手にしたのはどれが先か。どのような順番だったのか。もう一つ、疑問に思っているのは、一般的には、北京原人が火を利用したことはわかっているが、人間が火を利用するようになったのは、いつなのだろう。

サルと人間を分けるのは、直立二足歩行だといわれている。チンパンジーがバナナをとるのに、棒を利用する、巣の中にいるアリを捕獲するために道具を使うことは知られている。さらにチンパンジーは、いろいろなことにストレス反応を示すこともわかってきている。ところが、チンパンジーは直立二足歩行ではないので、それ以上進化はしない。チンパンジーやゴリラがこれから数百年経っても、人間にはならない。

直立二足歩行がどの時点で受け入れられたのか。私が大学生の頃、『人類の百万年』（A.モンテギュー著；鈴木満男、岡田宏明訳、1968、『人類の百万年：人類学入門』現代教養文庫社会思想社）という本が出版されていた。その後、人類の歴史は200万年、300万年となり、現在では500万年前は確実、諸説によっては700万年前という説もある。そのような時間の中で、いつ、直立二足歩行を始め、道具を手にし、言葉を得、肉食をしたのか。考古学者も人類学者もまだ、この答えを得ることはできていません。大きなものに対しての物の考え方、定義などは、誰かが行わないといけな

い仕事。考古学者も歴史学者も、「実証主義」に縛られている側面があるため、自分の首を絞めている部分がある。生態学の分野では、「仮説」が立てられ、それを検証するというプロセスをたどる。

#### 「北海道は日本ではない」

北海道は日本ではない、というお話しをすると、私がなぜそんな話しをするのかと思われるだろう。私達が学校で習うのは、旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良、平安、鎌倉、室町・・・のような順。それに対して、北海道の時代区分は、旧石器、縄文までは同じだが、その後、続縄文、オホーツク文化、擦文、アイヌ文化期となっている。

原始、古代、中世、近世、近代と時代が移り変わっていく。このような区分で時代が変化していつているのは、全世界で見るとほんの一部。北海道には、中世と近世が付け足しのように記されている。これは松前付近に日本の歴史にかかわる部分があるので、そのように記されているにすぎない。特に明治維新以前は、北海道は日本ではなかったといえる。この部分については、日本という呼称がいつから始まったのか、また、北海道という呼称はいつから始まったのかという問題を考えることによって解るかと思う。

#### 「蝦夷地」から「北海道」へ

明治2年、松浦武四郎の提案により、それまで蝦夷地と呼ばれていた土地に、北海道という名称がつけられた。北海道は、明治になって日本に組み入れられた。組み入れられる宣言の一つが、北海道という地名の呼称だともいえる。それ以前に日本の文化、或いは、日本というものは北海道には存在しない。明治以降に多くの人が移住して、百数十年、特に戦後において、北海道は、本州と同じような生活を営めるようになった。

北海道開拓は、黒田清隆の指導のもと、アメリカ型の農法を取り入れ行われてきた。内陸の原野は、植民地選定という行為により、区画割りが行われ、そこに本州から多くの人が入ってきた。明治7年に山鼻に屯田兵が入植したのもご承知のこ

とと思う。屯田や植民という言葉が、北海道の開拓の歴史を良く表している。

#### 「内地」と「外地」

今の若い人たちは、聞き慣れない言葉かもしれませんが、「内地」という言葉があった。「内地」とは基本的には「本州」を指した言葉で、「内地」という言葉に対応した「外地」という言葉もある。その言葉も『広辞苑』にも掲載されており、「内地」というのが、「北海道や沖縄から本州を指した」言葉。「外地」というのは、「かつて我が国が保有した領土を「内地」というのに対して、戦争により進出した朝鮮、台湾、満州などのことを指す」とある。では、北海道と沖縄は、どこに属するのか。北海道と沖縄は、内地でもないし外地でもない。

#### 『もう二つの日本文化』

ここで、考古学に関心がある方ならお分かりだと思うが、東京大学教授だった藤本強さんが、『もう二つの日本文化』という本を出版している。北の文化、中の文化、南の文化、三つの文化が日本列島にはある。中の文化とは本州の文化、北の文化とは北海道の文化、南の文化とは琉球、沖縄の文化である。このように北海道の文化は、俗にいう日本文化ではない。

#### 「狩猟採集社会」から「農耕社会」へ

私が高校、大学で勉強していたのは、擦文時代についてである。一般の方々には、縄文時代から弥生時代に変わる時期が一番大きな変化である。旧石器、縄文時代は、自然界にある動物や植物を狩猟、採集して生活していた、いわゆる狩猟採集社会の時代。ところが、弥生時代になる際に、大陸からお米が入り、生産されるようになる。人間が生産した作物を利用したり、蓄積する社会となり、狩猟採集社会から農耕社会に移り変わった。それから2000年間、日本の社会は、農業生産により発展してきた。そのため、日本の社会では、縄文と弥生の間が一番大きな違いがあるといえる。ところが北海道にはお米が入ってこないの、縄文

に似た時代が続くということで命名された続縄文時代が続いた。その後オホーツク文化期、擦文時代、アイヌ文化期と続いていく。

### 「石の道具」から「金属の道具」へ

北海道における大きな変化は、続縄文時代と擦文時代の間にある。石の道具が中心だった社会が鉄の道具を中心とする社会に変わる。擦文時代になると、砥石などを除き石の道具が無くなってしまふ。縄文時代に黒曜石を打ち欠いて、ナイフや石鏃をつくっていた。そういうものが擦文時代には無くなってしまふ。藤本強さんは石器が乏しくなるという側面を強調されているが、鉄器が流入する部分を取り上げるべきだろう。その考えは、終末期古墳の流れを想定した石附先生の考えとも繋がる。

本州や大陸から金属の道具が入ってくる。これらの金属器は、腐食してしまつて残らない。特に擦文時代の金属器は、点数的にはさほど多くはないが、間違いなく入つて来ている。金属器で木や骨を削っている。もちろん、何点かの出土例はあるので、弓矢の先、石鏃の代わりに金属の鏃が使われていた。しかし、鏃は消耗品だから、おそらく金属器ではなく北海道のネマガリ竹を金属器で削つて作った鏃が利用されたと考えられる。上ノ国町勝山館だつたと思うが、ネマガリタケと考えられる素材を利用した鏃が数点みつかつてることによる。竹の鏃だけでは自重が軽いので、おそらく骨製の中柄をつけて使つたのだろう。アイヌ文化期にも弓矢はあり、擦文時代だけ弓矢がないというもおかしい。

石鏃、石斧、石のナイフは、自分たちが素材の石を打ち欠いて作成していたが、金属器は、自分たちでは製作ができず、流通により手に入れることになつた。

### 「商品生産」の時代へ

続縄文時代までは、自分たちが食べる分だけのものを生産すればよかつた社会が、擦文時代になると、金属の道具を得るために必要となる商品を生産しなければならなくなつた。その商品は何か

いう問題だが、アイヌ文化期と照らし合わせてみると、サケ、或いはクマの胆。クマの皮。自分たちの消費する分だけではなく、商品化するだけの量を捕獲する必要が生じた。そうしないと、社会が維持されないということになってしまう。アイヌの人たちは、金属器だけではなく、漆器などいろいろなものを手に入れるため、沢山の品物を生産しなければならない。そのうちに、松前藩が場所請負制という制度によって、アイヌの人たちを労働力として使い出す社会になつた。

中世、東北の戦乱を逃れ本州から北海道へ渡つた人たちによって、道南十二館が作られた。その後、松前氏が徳川家康から認可を得、松前藩を作る。松前藩はお米が採れなかつたため、正式な大名とはいえない。1万石付という扱いで大名となつた。江戸時代には、その藩でとれたお米を藩士に禄として与える。ところが、松前藩はお米がとれませんので、給料としてのお米を与えることができないため、その代わりに場所、石狩や静内などを設定して、そこを家来たちに割り振る。なぜ、松前藩はそのような割り振りができたのか。この理由について、きちつと書かれている史料はない。

擦文時代に大きな河川の河口やその川沿いに大きな集落が作られた。擦文時代は、金属の道具を本州から受け入れなければならず、その対価となる商品を作らなければなりません。その重要な役割を担つたのが、河口やその付近につくられた集落。擦文時代の集落は、交易の基地としての意味も担つていた。アイヌ文化期もその交易の流れを引き継いでいた。松前藩は、そのアイヌの交易を利用した。その原点にあるのは、擦文時代の集落であると考えている。瀬川拓郎さんの考え方(『アイヌの歴史』講談社メデチ選書)は概ねそのような展開。瀬川さんの論には、幾分私の考えとは異なるところもある。ただ、交易という視点が、江戸時代アイヌの人たちにあつたことは事実。その考え方がなければ、アイヌ社会は成り立たない。だから、藤本英夫先生が真歌チャシを掘つた時、出てくる遺物がすべて本州産のものという事例も、それだけアイヌ社会に漆器をはじめとする本

州産の商品が入っていたことの裏付けだろう。金属器で削りだして作っていたであろう木の資料は、ほとんどが腐ってしまって残らない。アイヌ社会は、日本との交易を無くしては存在できないようになっていくが、その遠因となったのは、擦文時代であると考えられる。

私は細かく一つ一つの事象を、という捉え方は致しません。大きな流れの中でどのように捉えていくかという全体をみていく力が大切であると考えている。土器の編年は、文様構成などいくつかの要素を組み上げて作られていくもの。これが全くなくても良い、とはいわないが、全体の中での物の見方を重視していくことが大切であると思っている。

### 歴史に学ぶこと

私達が歴史に学ぶことが大きい。また、私自身は自然に対する思いも強くなってきている。

北海道は、開道まだ百数十年しかたっていないが、郷土の思いというものもたくさん残っている。北海道開拓記念館には、開拓にあたり、郷土からもってきた石も資料として保管されている。北海道を故郷と同じように開拓したかった。それぞれの郷里でつくっていたお米も作りたかった。ところが、開拓使は、畑作を奨励する。これらの状況を梅棹忠夫さんが『日本探検記』に記している。

「北海道探検」という章で、開拓使が行ったケブロンなどお抱え外国人による畑作奨励は、官僚理想主義によるものだと書いている。アメリカの大農法を北海道に輸入しようとした。初期の士族の移住者たちは、ある程度教養があったので、このケブロン式の農法を取り入れた。しかし、その後に入植した無知な農民たちは、開拓使の命令を理解せず、開拓使の施策は、崩れたとある。そして、北海道開拓使が考えるように、北海道開拓が進んでいったら、すばらしい大地になったであろうと書いている。梅棹さんは偉大な学者だと私も思っているが、庶民のことをわかっていないのだなあと感じてしまう。初期の武士の入植者は、郷里で鍬や鋤などを持ち、農業などしたことがないから、開拓使にいわれるがまま、奨励する農法に取り組

んだ。しかし、後発の農民たちはそれぞれの郷土で農業を営んでいた。農民たちは、自分の古里で作っていた作物を作りたかったのだ。それが本音なのだ。明治23年に永山屯田に入った石山さんは、郷里山形県から米をもってきて作ったという罪で、監獄にはいったという記録もあり、厳しい罰則もあった。これらの苦難を乗り越えて、入植民はお米を作っていく、現在では、各県のお米の出荷量で北海道は3位となっている。

それでは、開拓使が実施した政策がすべて失敗したのかというと、そうでもない。今、北海道を代表する農作物。アスパラ、タマネギなど和食で使われない食材。それらはほとんどが明治初期に北海道で栽培され始めたもの。実績を残した事例も存在する。

開拓使の頃、紙と木で造られている「拝み小屋」や「掘っ立て小屋」では駄目だとケブロンが提案して、明治14年頃篠津屯田兵屋ではロシア式の丸太組兵屋が作られた。しかし、多くの開拓民は、本州と同じ構造の住居を作り住んでいた。私達が子供の頃、農村部では入ると土間があり、上がり框があり、炉があり、畳の座敷があるという家だった。それが100年かかって今の住宅になった。そして、多くの部分で100年という時代を経て、北海道は本州と同じような生活となった。

考古学の面では、明治から昭和初期にかけては、本州の大学の先生たちが北海道にやってきて、各地を巡検しながら調査を行った。それを私は『観光考古学』とよんだが、名取、大場、河野先生など北海道在住の先生による調査の時代を経て、吉崎さん、沢さん、野村先生、石附先生など、本州で考古学を勉強してきた先生による調査の時代を経て、日本列島全体の中の一地域としての北海道の考古学。そして今は、本州で勉強してきた若い先生方に、北海道の大学で考古学を学ぶ機会をもつ学生たちがいるという時代になった。

北海道の歩みとともに、北海道考古学の内容もこのように進展を遂げてきたのである。これらの歴史に、私達は学ぶところが大きい。

---

## 北海道立埋蔵文化財センター年報13

平成23（2011）年度

---

平成24年 4 月30日発行

編集：公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

発行：北海道立埋蔵文化財センター

〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1

Tel：(011)386-3231 Fax：(011)386-3238

E-mail：mail@domaibun.or.jp

URL <http://www.domaibun.or.jp/>

印刷：社会福祉法人 北海道リハビリ

〒061-1195 北広島市西の里507番地1

Tel：(011)375-2116(代) Fax：(011)375-2115

---

